令和４年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和４年度
道徳の礎（いしずえ）

【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
【実践編】令和４年度道徳教育推進校報告
【Ｑ＆Ａ】道徳科の教育課程Ｑ＆Ａ

福島県教育委員会

道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- ○ 【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
- ○ 【実践編】令和４年度道徳教育推進校実践報告
- ○ 【Ｑ＆Ａ】教育課程Ｑ＆Ａ

以上の３編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の５つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

【インデックス１】 道徳科の授業の充実に向けて

道徳教育や道徳科の理論が分からない……

⇒ 「道徳のとびら」や「特別の教科　道徳」の実施に向けた地区別研修会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

1頁 ～20頁

【インデックス２】 道徳教育推進校の実施計画書等

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど……

⇒　令和４年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

21頁 ～60頁

【インデックス３】 多様な指導方法に基づいた授業実践

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの……

⇒　令和４年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

61頁 ～81頁

【インデックス４】 ふくしま道徳教育資料集等を活用した授業実践

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい……

⇒　令和４年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

83頁 ～103頁

【インデックス５】 新教育課程Q&A（道徳科編）

道徳科の教育課程で分からないことがあります……

⇒　既に学校に周知している新教育課程Ｑ＆Ａから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してみてください。

105頁 ～111頁

令和４年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地　区	学　校　名	内　　容	掲載頁
県　北	伊達市立松陽中学校	実施計画・全体計画・別葉等	21～26
		質の高い多様な授業実践	61～63
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	83～85
県　中	小野町立小野中学校	実施計画・全体計画・別葉等	27～32
		質の高い多様な授業実践	64～66
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	86～88
県　南	中島村立中島中学校	実施計画・全体計画・別葉等	33～38
		質の高い多様な授業実践	67～69
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	89～91
会　津	福島県立会津農林高等学校	実施計画・全体計画等	39～42
		質の高い多様な授業実践	70～72
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	92～94
南会津	南会津町立田島第二小学校	実施計画・全体計画・別葉等	43～48
		質の高い多様な授業実践	73～75
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	95～97
相　双	富岡町立富岡小学校	実施計画・全体計画・別葉等	49～54
		質の高い多様な授業実践	76～78
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	98～100
いわき	いわき市立小川小学校	実施計画・全体計画・別葉等	55～60
		質の高い多様な授業実践	79～81
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	101～103

夏井川清掃

小野中学校では平成２年から、夏井川友の会と連携して夏井川の清掃活動に取り組んでいます。

活動が始まったばかりの頃は、河川の中にタイヤや自転車などの粗大ゴミがありましたが、毎年実施しているために集まるゴミの量は減ってきています。長年続いている活動のため、「中学生の頃に自分も清掃活動に参加した。」「あの頃より夏井川がきれいになった。」と生徒に声をかけてくれる保護者や地域の方もおり、地域の環境を大切にしようとする思いが引き継がれています。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて

【第１部　理論編】道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

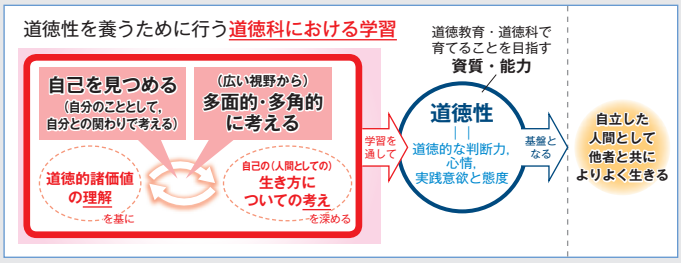
道徳教育の目標

（小（中）学校学習指導要領第１章総則 第１ 教育課程編成の基本方針 ２ 抜粋）
学校における道徳教育は，**特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として**学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。
道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- ○ 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述‥「総則」編に記載
- ○ 「特別の教科　道徳」の記述‥「特別の教科　道徳」編に記載
- ○ 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- ○ 育むものは，内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

（小（中）学校学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」の「第１　目標」）
第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。



【本時のねらいは…】
○○○を通して，（道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度）を育てる。

学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科　道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科　道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳的実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「○○学習を通して」の部分が特に大切です。
具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、
○　自己を見つめること
○　物事を多面的・多角的に考えること
を押さえることがとりわけ大切です。
この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。

各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	「特別の教科　道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正，公平，社会正義」「国際理解，国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解，寛容」「公正，公平，社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について，各学年毎の記述を改め，内容項目毎の記載に変更して，系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また，「公正，公平，社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し，指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目（３項目追加）、中学年は20項目（２項目追加）、高学年・中学校は22項目（高学年は1項目追加）です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。
なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉（キーワード）を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。

道徳教育全体計画を作成する際、配慮する点を教えてください。

小（中）学校学習指導要領第１章総則
第６　道徳教育に関する配慮事項　１　抜粋

小・中共通

□　道徳教育の**全体計画の作成**
⇒　**重点目標の設定**
⇒　各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示

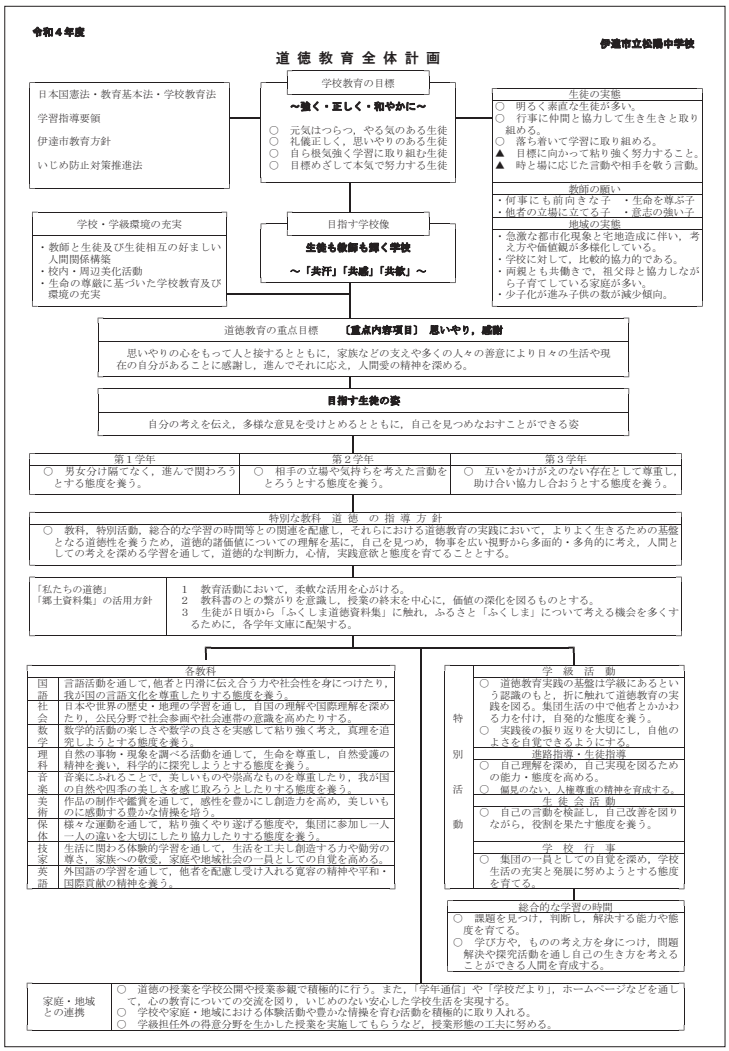
活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）

例えば，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとすること**が考えられる。

□　**校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心に，全教師が協力**して道徳教育を展開すること。

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）

○　道徳教育の指導計画の作成に関すること
○　全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
○　道徳科の充実と指導体制に関すること
○　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
○　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
○　道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
○　道徳教育の研修の充実に関すること
○　道徳教育における評価に関すること　など



道徳教育全体計画例「伊達市立松陽中学校」（24頁に記載）

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。

【道徳教育全体計画の内容】

1　基本的把握事項について

□　教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
□　学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
□　児童生徒の実態と課題

2　具体的計画事項について

□　学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
□　道徳科の指導の方針
□　年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
□　各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
□　特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
□　学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
□　家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
□　道徳教育の推進体制
□　その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

3　「別葉」について

□　各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
□　道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
□　道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

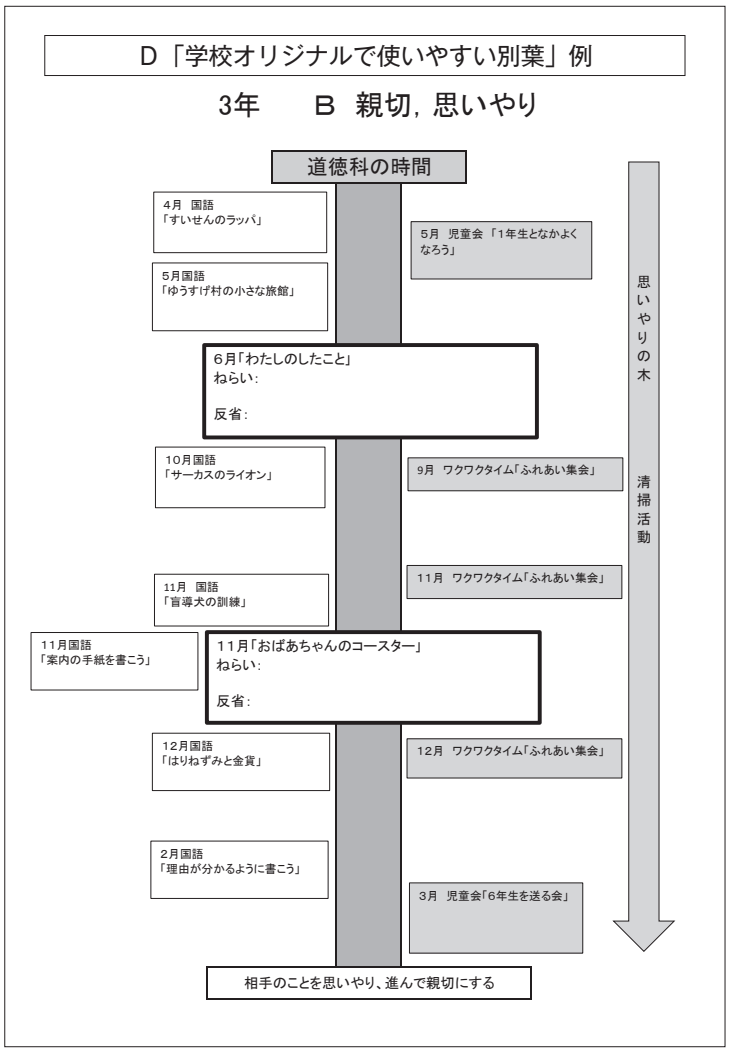
道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】
① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか，分かること
② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で，内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に，内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

（道徳のかけ橋第４号（平成26年12月15日）より抜粋）



Dの別葉例「福島市立渡利小学校より」

道徳のかけ橋第４号では、「別葉」の特集を組み、左のA～Dの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。是非、全教員が共通認識に立ち、作成してください。A～Dの４つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
□ 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
□ 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ すべての内容項目の関連が分かる。
▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
□ 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならでは」の別葉を作成したいものです。

「学校ならでは」の別葉（D）について紹介します。左に掲載した福島市立渡利小学校の事例です。この別葉の特徴は、自校が重点的に取り組む内容項目を基に、授業や学校行事等との関連を明示し、「ねらい」「反省」を記入する形式となっているところです。25頁以降には、道徳教育推進校の別葉を掲載しています。多くの推進校が、自校の重点内容項目を校内でしっかりと共有し、道徳教育の軸として教育活動をつないでいます。また、家庭や地域とも共有している学校もあります。

自校の教育課題の解決に向けた取組として参考にしてください。

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠	
教科書の法的根拠	学校教育法34条（教科用図書・教材） 小学校においては，文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する**教科用図書を使用しなければならない。**（中学校等にも準用）
教科書の定義	教科書の発行に関する臨時措置法２条（定義） この法律において「教科書」とは，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校及びこれらに準ずる学校において，**教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材**として，教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって，文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。

教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道徳教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点　１教材の開発と活用の工夫）

⑵　多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても，主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが，**道徳教育の特性に鑑みれば，各地域に根ざした地域教材など，多様な教材を併せて活用することが重要となる。**様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は，児童にとって特に身近なものに感じられ，教材に親しみながら，ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるため，**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。**

（同　２　道徳科に生かす教材）

⑶　多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には，特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお，教科用図書以外の教材を使用するに当たっては，「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年３月４日　初等中等教育局長通知）など，関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で，適切に使用することが重要である。

○　「主たる教材」としての教科用図書教材
　⇒　今後は主題，教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要
○　「副教材」として，ふくしま道徳教育資料集をはじめ，市町村発行の道徳教育資料集等を積極的に位置付けたい。
　⇒　意図的・計画的・組織的な計画と活用を

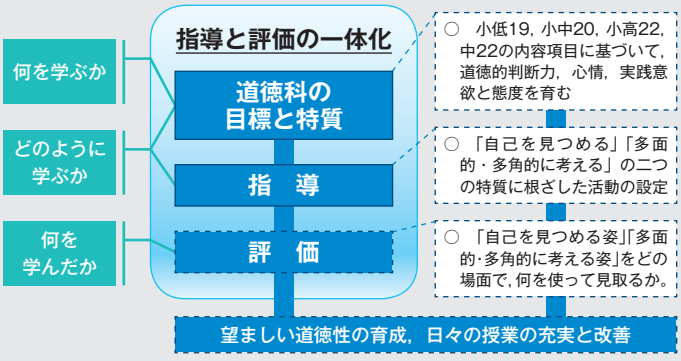
「ふくしま道徳教育資料集」「市町村発行の道徳資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道徳（WEB版）」や「小（中）学校　道徳読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」
～主体的・対話的で深い学びの実現～



指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらい－指導－評価」が、「道徳的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道徳科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。

「特別の教科　道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは，ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ，これからの生き方に生かしていくことを見通しながら，実現するための問題を見付け，どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり，他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり，自分との関わりで多面的，多角的に考えたりするためには，例えば，実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして，礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり，相手に思いやりのある言葉を掛けたり，手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに，読み物教材等を活用した場合には，その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ，各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け，実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習学習指導解説「特別の教科道徳編」第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第３節　指導の配慮事項　５　問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりを心がけることが大切です。

10、11頁に「(H28.7.22）特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～14頁に掲載しますので指導の参考としてください。

「特別の教科　道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

○　改訂後の学習指導要領（特別の教科　道徳）

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。

ただし，数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を，道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

（H27.6～H28.7）

【基本的な方向性】

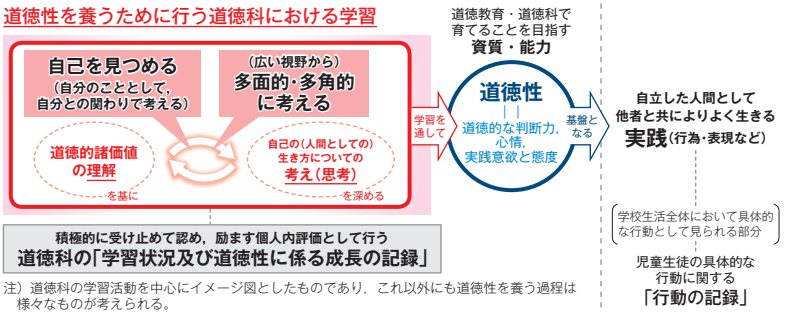
○　数値による評価ではなく，記述式とすること
○　個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること
○　他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価（※）として行うこと
○　学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
○　調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要

※　専門家会議報告に基づき，道徳科の学習評価の在り方，指導要録の参考様式について，平成28年７月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

○　道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく，観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
○　道徳科の授業では，特定の価値観を児童生徒に押しつけたり，指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え，議論する」ことを通じて，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって，道徳性を養うことを目指すものである。
→　このため，道徳科の学習の中で，特に「自己を見つめ，自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで，道徳科の学習状況を把握することが必要である。



注）道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり，これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

○　児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
○　観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
○　道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
○　学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。

小学校児童指導要録（参考様式）（イメージ）　別紙３

画像は小学校児童指導要録のイメージ（中学校生徒指導要録、特別支援学校小学部・中学部の児童指導要録・生徒指導要録も同様）

○　指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
○　道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号（平成28年8月10日付）で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者（各学校を所管する市町村教育委員会）が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことを教えてください。

【指導要録の根拠及びその性質】
①　校長は，その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。（学校教育法施行規則第24条）
②　指導要録は，児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し，その後の指導及び外部に対する証明等に役立てるための原簿となるものであり，各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。（平成22年５月11日　文部科学省初等中等教育局長通知）

【通知表（票）の根拠と性質】
①　法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
②　児童生徒の学習指導の成果，学習生活の状況，健康状況等を保護者に連絡し，保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり，その呼び方や内容，形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】
①　校長の指導の下，通知表（票）の評価をどのように行うか。
②　保護者に道徳科の評価について，どの時期に，どのような内容で周知し，理解を図るか。
③　通知表（票）の記述を，どのように指導要録につなげるか。

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

○　児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
○　記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
○　授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
○　作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
○　１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。
○　児童生徒が１年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
○　教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
○　評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内７地区で開催された「平成30年度の『特別の教科　道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非，評価を行うの際の参考にしてください。

○　平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉
学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○　研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大の褒め言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現を心がけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○　研修会参加者が作成した評価文

○「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いたり、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧いただいて、ご家庭での話題にしていただければと思います。

○ 「○○○」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、友達の発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。

○ 「○○○」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見をもち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。

○ 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友達の考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。

○ 「○○○○○」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え，考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。　など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしている。　など

今後の道徳科の授業では、「道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の二つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら二つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- 様々な登場人物の立場で考えている。
- 自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。　など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- 自分の生活を見つめ，振り返りながら考えている。
- 自分だったらどうするかなど考えている。　など

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。

のぞましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、二つの評価文をお示しします。二つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子が感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子が感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。

特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気付き、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもっていて、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を２事例（C，D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の二つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。

表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

○授業中の発言がほとんどない児童生徒
○文章表現が得意ではない児童生徒
○表情にも表れにくい児童生徒

・　授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要である。
・　授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていきたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）」を掲載します。指導の参考としてください。

道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかり把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

		×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		登場人物の心情理解のみの指導	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い
			学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかり踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。			
具体例	導入		**道徳的価値に関する内容の提示** 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	**問題の発見や道徳的価値の想起など** ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	**道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など** ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	
	展開		**登場人物への自我関与** 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 **【教師の主な発問例】** ・どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 **振り返り** 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	**問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）** ・道徳的な問題について、グループなどで話合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 **【教師の主な発問例】** ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ、自分はそのように行動するのでしょう。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 **探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）** ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について、なぜそれを大切にしたのかなどについて話合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	**道徳的な問題場面の把握や考察など** ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 **問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など** ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 **道徳的価値の意味の考察など** ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	
	終末		**まとめ** ・教師による説話。 ・本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。			

<table>
<tr><th></th><th>×</th><th>読み物教材の登場人物への
自我関与が中心の学習</th><th>問題解決的な学習</th><th>道徳的行為に関する体験的な学習</th><th>×</th></tr>
<tr><td>指導方法の効果</td><td rowspan="3">登場人物の心情理解のみの指導</td><td>・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。</td><td>・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。
・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。
・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。</td><td>・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。
・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。</td><td rowspan="3">主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い</td></tr>
<tr><td colspan="3">道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。</td></tr>
<tr><td>指導上の留意点</td><td>・教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。</td><td>明確なテーマ設定のもと、
・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
・議論し、探求するプロセスが重視されているか。
といった検討や準備がなければ、単なる「話合い」の時間になりかねない。</td><td>明確なテーマのもと
・心情と行為との齟齬（そご）や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。
といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="4">・個人内評価を記述式で行う。
※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価。

・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、
〇他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
〇多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
といった点に注目する必要。

・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。

・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</td></tr>
</table>

※　「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

	学習上の困難さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
困難さの状況	・「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 ・文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。 など	・気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりする。（不注意） ・話を最後まで聞いて答えることや順番を守ることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりする。（衝動性） ・じっとしていることが苦手で、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難な傾向がある。（多動性） など	・社会性の発達が遅い。相手の心情理解が難しい傾向がある。 ・暗黙のルールが理解できない傾向がある。 ・特定の事物へのこだわり（やめない、変えない、始めない）がある傾向がある。 ・感覚が過敏であることが多い。 など
考えられる障害	**学習障害（ＬＤ）等**	**注意欠陥多動性障害（ADHD）等**	**自閉症等**
道徳指導上の困難	・読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 ・読書が苦手で自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 ・自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流ちょうに表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となる。 など	・注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 ・多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 ・相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのか考えないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 ・ものごとを最後まで注意していないために、結末を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 ・別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。 など	・相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 ・明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 ・こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 ・誤って学習したことの修正が困難な傾向がある。 など
指導上の必要な配慮	・言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 ・提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 ・自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 ・漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。 など	・適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 ・成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 ・「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 ・必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないで済むようにする。 ・チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 ・対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。 など	・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 ・「○○ですと言ったのは、△さんが『～だ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 ・わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようにする。 ・ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 ・最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。 など

※発達障害には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
※「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版）
～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２２号（令和２年２月２０日発行）より抜粋】

主題名　やさしくすると･･･　【Ｂ－（６）親切、思いやり】

ねらい　親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して，他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気付き，身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材　「はしのうえのおおかみ」　（「わたしたちの道徳１・２年」文部科学省）
※　福島県教育委員会オリジナル紙芝居　（画：福島県立福島西高等学校　デザイン科学科３年　小林美歩さん）

こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！

A　集中力を持続させることがむずかしい。

B　気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。

C　一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

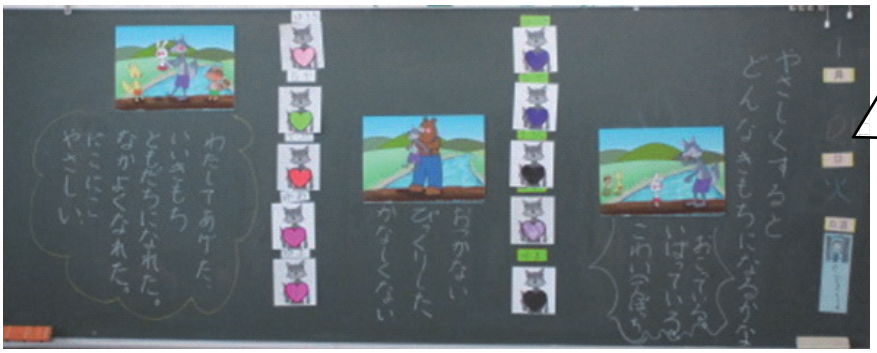
1　他者に優しくできていないオオカミの姿から，本時の学びの視点をもつ。
（１）橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると　どんなきもちになるのかな？

2　優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。
（１）　橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。
（２）　橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。
3　自分はオオカミに似ているときがあるか考える。

A　導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【　板　書　】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。
可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。

◊♦◊　授　業　の　実　際　◊♦◊

A　紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇　紙芝居による演出　◇
①　話の内容に合わせながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
②　登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。（クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡す場面など）

T：（紙芝居を読んでいる途中で）一本橋って、わかる？
C１：あの細い丸太でしょ。
T：そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

T：このとき、オオカミの顔はどんな顔？
C４：おこってる。
C２：いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。

B　色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の様子を考えやすくしたりしました。

オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

T：このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
C２：（水色のハート型色紙を合わせて･･･）ちがうな。
（群青色を合わせて･･･）これだな。
C：（５人全員がオオカミの気持ちの色を決める。）
T：C3さんは、どうしてこの色（黒）にしたの？
C３：ひとりぼっちだと思って・・・。友達がいない。
C４：（C4も同じく黒）オオカミは怒っているから黒。
T：どうして怒っているんだろうね？
C４：怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。

ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確かめながら考えていました。

オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

T：前のオオカミと違うところはあるかな？
C：（子どもたち５人全員大きくうなずく）
（全員、折り紙を使って色を探す。）
T：なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
C１：（ピンク）オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
C５：（赤）いい気持ちになったから、黒から赤になった。
C２：（黄緑）友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
T：オオカミはやさしくなったの？
C：（全員大きくうなずく）
T：やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
T：このときのオオカミをやってみよう。
（役割演技をしたり、見たりする。）

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。

C　一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

□　気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児
～　はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。

□　反応が少ないC3児
～　名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。

□　描材（クレヨン）で遊んでしまいそうなC6児
～　始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。（当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。）

A　授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

□　授業後の活動も含めて４５分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。
【想定していた活動】
一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき

授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。
それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。
（URL）https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例
～新地町立尚英中学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２５号（令和４年４月発行】

深い学びのある道徳科の授業をつくろう

道徳科における １人１台端末の活用

１人１台端末が導入され、試行錯誤の日々が続いていると思います。不安や難しさを感じてしまうこともあるでしょう。

本号では、道徳科における１人１台端末、ICT 活用の事例を紹介します。令和３年度道徳教育推進校の新地町立尚英中学校は ICT 活用を活発に進めている学校です。しかし、常に「この場面で本当に ICT が必要だろうか」と考え、生徒の実態を基に授業をつくってきました。特に「道徳科の学習では、フェイス･トゥ･フェイスの話合いを大切にしたい」という教師の思いがありました。

尚英中学校　第２学年３組の授業実践　指導者：平塚健次郎　教諭

主　題　友情を育てるために【友情、信頼】
教材名　ゴール（東京書籍）
ねらい　登場人物５人のそれぞれの思いについて話し合うことを通して、友情を培うために自分はどうあればよいかを考え、より一層深い友情を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

教材のあらすじ

本教材は、バスケットボール部に所属する５人の女子中学生の話である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたてチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだと知った４人は、リカを誤解していたことに気付き、後悔する。友だち関係の問題や困難を乗り越え、正しく理解することによって、より豊かな人間関係が築かれることを考えることができる教材である。

授業改善のポイント❶

教材を自分事として捉えることができるように、生徒の体験と登場人物の気持ちを重ね合わせて考え、 自己を見つめることができるようにする。

授業改善のポイント❷

多面的・多角的に考えることができるように、構造的な板書や ICT（協働学習支援ツール）活用により、 意図的指名を行い、 話合いをコーディネートする。

授業の実際（授業レポート）

導入

◉ 事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。

アプリのアンケート機能を活用すると、生徒の実態把握がしやすく、集計が効率的にできます！

教師　「友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。」という質問ですが、どのような結果だと思いますか？
→ほぼ１００％が「はい」と回答した。回答の理由「自分のことを分かってもらうことで、以前よりも仲よくなれた」を伝えると、生徒たちはうなずきながら共感していた。

教師　「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。」についての結果も見てみましょう。
→半分以上が「はい」という答えであった。他のアンケート項目についても紹介し、自己の経験を振り返り考えることができるようにした。

❶ 事前のアンケートをきっかけとし、自分の生活を振り返ることにより、本時の学習を自分事として捉えることができるようにしました。

教師　みなさんも、友達に支えられたり、友人関係で失敗したりしたことがあるのですね。今日は、友達関係がうまくいかなかった話を使って友情について考えていきましょう。

❶ この導入をきっかけにして、「アンケート結果」、「教材」、「自分」が重なっていきました。

展開

◉ 教材「ゴール」の範読を聞き、トラブルが起きた原因について考える。

教師 なぜこのような状況になってしまったのだろう。
生徒 コミュニケーションが足りないと思う。
教師 どうすればよかったのかな。
生徒 お互いに説明が足りないからこうなったと思う。
教師 どうしてそう思うの？
生徒 キャプテンとして配慮がなさ過ぎるのではないか。
生徒 誰かを外した LINE グループをつくるのはよくないと思う。

❶ 教師は、登場人物の心情理解のみにならないように、「教材の中の登場人物が立たされた状況」に共感させ、それと同じような「自分の経験や体験を想起して、自分の気持ちを考える」ことを最後まで大切にしていました。
この段階では、自己と重ねることが難しかった生徒も、友だちとの話合いで「自分は…」と問う姿につながっていきました。

授業改善のポイント❷

◉ 登場人物に共感し、道徳的価値の問題場面について考える。

教師 なるほど。友だちとコミュニケーションをとることは大切だとわかっているのに、５人はどんな思いをもっていたのかな。
→ある班の話合いの様子
生徒１ 友達の様子がおかしい時に、声をかけられない気持ちってわかるな。
生徒２ それ、あるよね。でもキャプテンなら頑張って声をかけてほしいよね。
生徒３ SNS でやり取りするからこうなるんじゃない？
生徒２ このグループチャットをつくること自体がおかしくない？
生徒３ 確かに。面倒になりそうだから、僕だったら入らないな。

平塚先生のこだわり！

❷ 生徒の考えを対比させたり様々な立場の考えを位置づけたりできるよう、板書を構想しました。しかし、話合いの拠り所となる構造的な板書についてはこれからの課題です。

授業改善のポイント❷

◉ 協働学習支援ツールの効果的な活用

教師 でも、友だちだよ。断ることができるの？
→話合いが次第に、自分を重ね合わせた発言に変わっていく。
生徒１ ダメだとわかっていても実際断れないよね。
教師 どうしてそう思うの？
生徒２ でも、自分の知らないところでそんなグループチャットができていたらショックだよ。
生徒３ このグループチャットをつくって、何かいいことあるの？ひどくない？
生徒１ それはわかるけど、でも自分が誘われたらどうする？
生徒３ 僕は入らない。「なんでそんなグループ作るの？」って言う。
生徒１ 本当に言えるの？自分の部活だったらどうなの？
生徒３ 確かに…。難しい…。友だちだから言いづらいか…。
→友達の考えを聞き、自分を見つめ直す姿は、多面的・多角的に考え、自己を見つめる姿である。

❷ 教師は協働学習支援ツールによって、生徒全員の考えを手元のタブレットで把握しています。
多面的・多角的に考えが広がるように、授業全体をとおして意図的に指名しました。このようなことが瞬時にできるのもの、ICT のメリットの１つです。

ICT と板書を効果的に活用している平塚教諭

終末

授業改善のポイント❶

◉ 自己を見つめる学習活動の工夫

教師 今の自分から、過去の自分に手紙を書いてみましょう。
→過去に友人関係で失敗してしまった経験を想起し、その時の自分に手紙を書くことで、これからの自分の生き方について考える場とした。

❶ 自己を見つめることができるよう、活動を工夫しました。話合いをとおして、再度、自分を見つめ直し、自分の考えを深める大切な時間です。

生徒のワークシートから（協働学習支援ツールで共有）

まず、自分の気持ちを相手に伝えてみるといいよ。相手も、誤解しちゃっているところがあると思うし、伝わるとスッキリすると思う。そしたら、相手の気持ちをよく聞いてみよう。自分が誤解しているところや、本当の気持ちがわかると、もっと仲よくなれると思う。

道徳科における ICT 活用の注意点！

子どもの意見が一律に共有されることはとても便利です。しかし、共有されることに抵抗感をもつ子どもも中にはいるかもしれません。目の前の子どもの実態を考慮し、活用方法を検討してください。また、ワードクラウド（出現頻度が高い単語を複数呼び出し、その頻度に応じた大きさで図示する）機能は、大きな文字で現れたものがあたかも正解のように、多数決定的に感じる子どももいます。使い方によっては「自分の考えは間違っていた」という誤解を与えてしまう可能性があります。道徳科では、言葉にならなくても何とか絞り出した心の声や表情を教師が見取り、話合いにつなげることが大切です。試行錯誤しながら、よりよい道徳科の授業づくりを進めていきましょう。

道徳科の目標に「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深めるためには、どんなことに気を付けたらよいのですか。

授業を振り返り、自己を見つめる時に、こんなことはありませんか。
・振り返りの時間が無くなってしまった。
・子どもに何を書かせるかがあいまいで、とりあえず本時の感想を書かせている。
・子どもが「これからはこうしたい！」と前向きなことを振り返るので自己を見つめていると思う。

道徳科のねらいに迫り、道徳性を育成していくためには、自己を見つめる時間がとても重要です！

一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが道徳科のゴールになっていることが考えられます。

ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

□ 道徳的価値の意義を問うなど、教材から離れて自分の生活や体験等を振り返るようにしていますか。

□ 子どもは、道徳的価値について自身のこれまでの経験や価値観と照らし合わせて考えを深めていますか。

□ 子どもは、「自分はこうだと思うけれど迷う。」「分からなくなってきた。」「自分には難しい。」等人間の心の弱さに気付いていますか。

□ 子どもが道徳的価値について他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるように構造的な板書を工夫するなどの手立てを考えていますか。

これらのことに気を付けながら、自己を見つめる時間をつくっていくことが大切です。子どもが、「あの時は○○○と考えて、□□□したな。」と、これまでの具体的な経験とつなげることで、「今思うと・・・」あるいは、「だから・・・」と、実感を伴いながら考えを深めることができるようにしていきましょう。

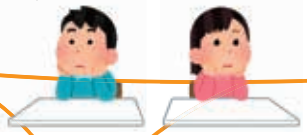
「自己を見つめる」ことを大切にしている先生方の実践を紹介します。

振り返りの時間を大切にしています！

本校では、１時間の授業の10～15分を「自己を見つめる時間」として振り返りの時間を設定しています。

始めは何も振り返ることができない子どももいて悩みました。そこで、心のものさしを使って考えるなど、子どもが自分の考えを示すことができるような工夫から始めました。振り返りでは、自分の考えや話合いをもとに、「これまでの自分はどうだったか」を振り返っています。

マイナス面を書くことをためらう子どももいましたが、どんな考えも認め合える学級の雰囲気ができてきたので、次第に素直な言葉があふれてきました。１年間繰り返すことで、自己内対話が深まっているように感じています。今では、振り返った後に、自然と振り返りを共有し認め合う姿が見られるようになりました。



「自己を見つめる」時にはワークシートを活用しています！

私の学校では、自分を客観的に見つめじっくりと考えたことを表出できるよう、ワークシートに書く活動を取り入れ累積しています。

こんな時は・・・

○振り返りを書くことができない。
・授業中の発言に着目してみましょう。
・授業後にどのように考えていたか、そっと問いかけて見取ることもできます。
・焦らず、長期スパンで見取るようにしましょう。

○振り返りが前向きでない。
（例）今のぼくは、みんなのようにできないと思う。
⇒今の自分には実現することが難しいと感じている、自分に気付いている姿です。自己を見つめている姿を認め、長期スパンで道徳性に係る成長の様子を見取っていきましょう。

学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業をどのように進めればよいのですか？

学習指導要領には、家庭や地域社会との連携による指導が明記されています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳教育を進めることで、子どもの豊かな道徳性の育成につながります。各学校、学級の実態をしっかりと捉えた上で、家庭や地域との連携を探っていきましょう。

道徳教育推進校で進めた家庭との連携の取組例

1　道徳科の授業の前に、家庭で教科書を保護者と共に読む活動を設定する。その後、感想を話し合う。

教材文が長く、一読に時間がかかる教材の場合は、事前に読むことで自分の考えを整理しやすくなります。一方、全員で確認しながら読むことのよさ、初めて読む楽しさもありますので、実践には吟味が必要です。

親子で感想を交流したり、保護者の考えを聞いたりすることは、道徳性の育成につながる家庭での道徳教育となります。

2　授業への参加を依頼する。

○ゲストティーチャー（以下ＧＴ）として参加

地域人材：郷土の伝統を守ろうと努力をしている地域人材
　　自然保護に取り組んでいる町役場の人
　　これからの町づくりのために活動している人　等

保護者　：内容項目に関わる仕事や経験をもつ人
　　人々の生活を支えている医療現場で働いている人
　　震災を経験した立場としてその時の様子や感じたことを話すことができる人

○ロールプレイに参加
　※令和２年度「道徳のとびら」参照

○心のものさしに保護者や地域の人も考えを示すなど学習活動に参加

１単位時間の全てをＧＴに依頼するのではなく、内容項目について子どもが話し合う時間や話合いを経て自己を見つめる時間をしっかりと確保することが重要です。

教材を通して、子どもが考えを広げ、自己を見つめるきっかけとなるような活用ができるようにしましょう。

保護者が考えを示す時には、価値観の異なる考えの一つとして多面的・多角的に考えるきっかけとなるようにコーディネートしていきましょう。

3　道徳科の授業後に家庭で保護者と共に考える学習を設定する。

家庭学習として、教材やワークシートを持ち帰り、子どもが自分の考えを伝え、保護者の考えをインタビューする　等

4　道徳科の授業の様子や子どもの道徳性に関わる成長の様子やエピソード等を学校便り、ホームページで発信する。

これらの家庭、保護者との連携を、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら進めることが大切です。道徳科は道徳教育の要の時間です。学校教育全体で行う道徳教育との関連を見極めて、自校の実態に合わせた連携を考えていきましょう。

１～４を全て実施することが必要なわけではなく、あくまでも各学校の実態に応じた連携の在り方を見いだしていくことが大切です。

校長先生から「道徳教育推進教師」に任命され、解説87～88頁を読んでみました。でも、何から手をつけたらよいか、よくわかりません。

学校の先生方みんなの力を借りて、わかりやすく推進することを心掛けてみませんか。一緒に考えてみましょう。

学習指導要領解説には、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実が明記されています。解説87～88頁で確認しましょう。

> 授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役になったり、情報提供をしたりして援助することや、道徳科に関する授業研修の実施、道徳科の授業公開や情報発信などを、道徳教育推進教師が中心となって協力して進めることが考えられる。
>
> 道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育においても調整役などの役割を果たすことになるが、道徳科においてその充実を図る際も、校長は学校として道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、適切な人材を充てるとともに、そのリーダーシップや連絡調整の下で全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。中でも、道徳科の指導力向上のために全ての教師が、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に１回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な取組も望まれる。そのために、例えば、道徳科の授業改善を推進するための推進委員会などの組織を設けることも大切である。

道徳教育推進教師はじめの一歩

１　自校で「どのような子ども」を育てるのかを設定します。

- □　教育目標の具現化を図り、目指す子どもの姿を描きます。
- □　学校運営ビジョンを基に、道徳教育部会や管理職と相談しながらつくります。

２　重点内容項目を設定します。

- □　目指す子どもの姿から、道徳の19～22ある内容項目の中で、特に関わりのある内容をいくつか選びます。重点なので、できる限り絞り込むことがポイントです。
- □　家庭や地域の願いを基に設定することも大切です。

３　１、２について全教職員、家庭や地域と共通理解を図ります。

- □　選定した「重点内容項目」に関わる指導を、教育活動全体を通じてみんなで指導するという共通理解を図ります。
- □　それぞれの学年や部会ごとに、どのような場面で「重点内容項目」に関わる指導ができそうかを考えます。
  →このための指導計画で、指導の内容と時期を具体的に示したものが、全体計画「別葉」になります。
- □　家庭や地域へも、共に取り組んでいくことを依頼します。

４　実践します。

- □　各教科等の授業の中で、あるいは、生徒指導等をとおして、子どもたちに指導していきます。

「目指す子どもの姿」を基に、重点内容項目を選定していくことが、はじめの一歩なのですね。みんなで推進していくために、重点内容項目に限定した「わかりやすくて活用したくなる別葉」を作成してみたいと思います。

道徳教育推進教師としての様々な取組を紹介することも役割の一つです。
まずは、できそうだと思うことから、一つ決めて取り組んでみましょう。

道徳教育推進アイデアノート

○重点内容項目から教育活動を構想する
　・ＰＤＣＡサイクルで振り返りましょう。
○道徳教育に関わる情報提供
○掲示物、教材コーナーの整備
　・場面絵のストック
　・板書写真の掲示　等
○ワークシート等のデータを共有フォルダに累積
○道徳科の授業を開く（互見授業のコーディネート）
○道徳便りの発行
　・道徳教育における情報の発信
　・求める子どもの姿
　・一人の人間として内容項目について考えたこと　等

道徳教育推進教師の先生の声

小学校

推進教師になった時は、これを機会に勉強してみようと思い、ワクワクしました。それでも、道徳科の授業には課題を感じていました。

そこで、始めに取りかかったのは、自分の悩みや課題について整理してみようということです。私は、「発問」「問い返し」に課題意識をもっていたので、本の情報や授業の考察を道徳便りで発信しました。自分の考えを整理する意味でもとてもよかったです。

また、目指したのは、年間３５時間いつでも誰でもできる範囲の中で毎回の授業の質を高めていくことです。いかに短い時間で効率よく効果的な準備をできるかを考えました。毎回とはいきませんが、板書写真や子どものワークシートを職員室に掲示することで、授業について自然と職員間で語り合うようになりました。推進教師として取り組んだことで、子どもとつくる授業の大切さ、子どもの成長を実感することができました。

中学校

私は正直なところ、道徳科に苦手意識がありました。でも、若い先生方が進んで研究授業に取り組むので、一緒に授業づくりをしてきました。私が取り組んだことは、校内研究のコーディネートです。改まった研修の場ではなくベテランの先生も若い先生も、普段から相談できる体制があることも本校の研究を進める強みとなりました。ある先生は、何度も授業を繰り返すことで、板書がどんどん変化していきました。

推進教師として特別なことをしたわけではなく、聞き役になり授業改善を応援してきました。学校みんなで一丸となって取り組めたので、これからも校内で研究を深めていきたいです。

「みんなの力を借りて」という言葉が、心に響きました。
焦らずに、取り組んでいきたいと思います。

【実践編】

令和４年度道徳教育推進校報告

県北地区道徳教育推進校「伊達市立松陽中学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	伊達市立松陽中学校
所在地	伊達市保原町大柳字向山１
校長名	渡邉　定行
教育目標	強く・正しく・和やかに
学級及び児童生徒数	学　級　数　　８ 児童（生徒）数　　１５２名

2　研究テーマ

自他の考え方・感じ方を受けとめ、自己を見つめなおす生徒の育成
～自他のよさを自覚する活動をとおして、感謝や思いやりの心を育む～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、伊達市保原町に位置し、小高い丘の上に建てられた校舎からは風光明媚な伊達市の田園風景を見下ろせる。教育目標に「強く・正しく・和やかに」を掲げ、「生徒も教師も輝く学校～『共汗』『共感』『共歓』～」を合言葉に教育活動を推進している。

生徒は明るく素直で、落ち着いて学習に取り組むことができる。しかし、自信のなさから、自分の思いや考えを伝え合うことに苦手意識をもっている生徒が多く見られる。また、相手を尊重しながら思いを伝え合うことが十分でないため、トラブルにつながることも見られる。そこで、道徳科の授業では、他者の多様な考えを受けとめるとともに自己をじっくりと見つめることで、自他のよさについて認め合うことを大切にしたい。

また、今年度の道徳教育重点内容項目を「思いやり、感謝」と設定した。他者の存在を意識し、思いやりや感謝の気持ちを言葉にしながら、支え合うことのよさを互いに実感する経験を積み重ねていきたい。各教科等においては、生徒が学びを振り返る活動を位置付けることを大切にし、自他のよさを自覚できるようにしたい。さらに、確かな学力や豊かな心を育む上での土台となる自己肯定感を着実に高めるために、生徒の思いに寄り添い、共感することを軸に、「褒めて認める指導」を全職員で大切にしていきたいと考える。

これらの理由から、研究テーマを「自他の考え方・感じ方を受けとめ、自己を見つめなおす生徒の育成」と設定し、全職員で研究を進めることにした。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
５月１０日（火）	学校訪問（道徳は２学級実施）	
７月１９日（火）	ゲストティーチャー講演（１）渡邊健氏	
８月３１日（水）	校内授業研究会全体会（１）橘内早百合教諭 講師：秋田公立美術大学副学長　毛内嘉威氏	
９月２７日（火）	校内授業研究会（第１学年１組、２組）	
９月２９日（木）	校内授業研究会（第２学年２組）	
１０月～１１月	先進校視察	
１０月　４日（火）	福島大学附属中学校研究公開（１名参加）	
１０月　６日（木）	福島県中教研道徳部会研究公開（２名参加）	
１０月　６日（木）	校内授業研究会（第２学年１組）	
１０月２５日（火）	中島村立中島中学校授業研究会（１名参加）	
１０月２６日（水）	ゲストティーチャー講演（２）大和田　新氏	
１０月２６日（水）	校内授業研究会全体会（２）丸山将弥教諭	
１１月　２日（水）	校内研修（指導案検討会①）	
１１月１０日（木）	校内研修（指導案検討会②）	
１２月　１日（木）	研究公開（１・２学年４学級授業提供） ゲストティーチャー講演（３）菊池日出子氏 講師：秋田公立美術大学副学長　毛内嘉威氏	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成、活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

○　今年度を生徒の「思いやり、感謝」の心を育む１年間とし、全教育活動を通して「思いやり、感謝」に重点を置いた学習に取り組むこととした。

○　実効性のある全体計画とするために、「思いやり、感謝」に焦点を当てた別葉「笹りんどう」を学年毎に作成した。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

○　別葉を活用しながら実施状況を定期的に振り返ることで、系統的で重点的な指導ができるようにした。学年末にはたくさんの花を咲かせたりんどうとなるように、可視化しながら実践を積み重ねてきた。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　他者の考えを自分事としてとらえ、主体的に交流したくなる学習課題の設定

・　本時の主題に関わる生徒の実態を知るためのアンケート調査の結果や写真、実物等を効果的に提示し、生徒一人一人の問題意識を高めることができるようにした。

②　意見や考え方の多様性に触れることのできる学習活動の設定

・　「心情円」や「心情メーター」、「心情座標」等の「見える化」できるツールを使うことをきっかけとし、生徒一人一人が自分と級友との考えを比べて考えることができるようにした。

・　生徒が教材の登場人物の行動や考えを自分事としてとらえることができるよう、心をゆさぶる発問を吟味した。

③　自己を見つめ、人間として生き方についての考えを深める学習活動の設定

・　自己を見つめる振り返りの時間を十分に確保した。特に、できた経験を振り返ることで、自分のよさを実感できるようにした。

④　各教科指導等における道徳教育の充実

・　別葉を活用しながら、教科等における生徒の体験を導入や振り返りにつなげた。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

○　本校の重点内容項目である「思いやり、感謝」に該当する「５００人の大家族」を全学級で取り上げた。学習形態や発問を工夫することで、生徒の「思いやり、感謝」についての考えを深めることができるようにした。

○　生徒が日頃から「ふくしま道徳教育資料集」に触れ、ふるさと「ふくしま」について考える機会を多くするため、各学年文庫に「ふくしま道徳教育資料集」を配架し、生徒が自由に読むことができるようにした。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○　生徒の考えを表出する機会を設定する。

・　自分の考えと級友の考えを交流できるよう、ペア活動や小集団活動等を取り入れた（多面的・多角的に考える姿）。

・　生徒自身が振り返ったことを書く活動を取り入れた（自己を見つめる姿）。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　道徳教育の様子を学校だよりやホームページに掲載して、家庭や地域へ発信した。

○　地域と連携した教育活動の一環として学校評議員の方をゲストティーチャーに招いて講演をいただくことで、地域の人の思いに触れ、生徒自身の地域への思いや地域の一員としての自覚を深められるようにした。

○　福島県出身のパラリンピック伴走者や視覚障がい者等のゲストティーチャーより講演をいただくことで、生徒に「本物との出会い」を体験させ、自分とは異なる立場からのものの見方・考え方を受けとめながら自己の生き方について深く考えられるようにした（生徒会が主催する共感プロジェクトにつなげた。）。

○　教師が昼の放送を活用してつないだ「ほっこりエピソードリレー」について、ホームページ等で紹介した。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

地域の方をゲストティーチャーに招き、講演をいただくことで、生徒に「本物との出会い」を体験させ、自分とは異なる立場の方々のものの見方・考え方を受けとめながら自己の生き方について深く考えられるようにする。

また、保護者の方にも積極的に道徳科の授業に参加していただき、家庭における道徳教育にも関心をもたせる。

【概要】

福島県内から、３回にわたりゲストティーチャーを招き、道徳教育講演会を行った。

また、保護者や地域の方に、学校だよりや学年だより、ホームページ等を通して、本校の今年度の合言葉「生徒も教師も輝く学校～『共汗』『共感』『共歓』～」、「思いやり、感謝」をテーマにした教育活動の様子を発信した。

さらに、保護者には「思いやり、感謝」「家族愛」に関するアンケートを依頼したり、子どもへのメッセージを手紙に書いてもらったりすることで、連携を図りながら道徳教育を推進してきた。

【成果と課題】

○　福島県にゆかりのある方の講演会を行ったことで、生徒は講師の先生を身近な存在として感じ、興味・関心をもって、話に耳を傾け、考えを広げたり深めたりしていた。

○　保護者のアンケート等を取り入れた授業の様子を、学年だよりやホームページで知らせたことで、授業の内容や生徒の活動の様子を共感的に理解してもらうことができた。

●　道徳教育講演会に、保護者や地域の方にも大勢参加していただきたかったが、コロナ禍で実現できなかった。オンライン等で視聴できるようにしてもよかったと考える。

７　成果と課題（成果○　課題●）

〈美術部員による〉

○　別葉「笹りんどう」を作成し、重点内容項目「思いやり、感謝」について、全教職員で共通理解し、実践することができた。

○　道徳教育講演会や「ほっこりエピソードリレー」等の取組は、生徒が自分自身を見つめなおしたり、「思いやり、感謝」について、考えを広げたり深めたりする機会となった。ゲストティーチャーや、各教員の話は、身近で、説得力があり、とても効果的であった。また、運営を生徒に任せたことで、生徒が主体的に考え、自信をもって取り組む姿が多く見られるようになった。

○　道徳科の授業の、導入時にアンケート結果を提示したことにより、生徒に本時の内容を自分事として捉え、問題意識を高めることができた。

○　心情円の活用、自己を見つめる時間、互いを認め合う時間、振り返りの時間を確保したことにより、生徒が様々な考えに触れたり自他のよさを認め合ったりしながら、よりよい生き方について考えるようになってきた。

●　生徒のよさや頑張りを、教師が見逃さずに見取り、称賛しながら生徒の自己肯定感をいかに高めていくかが課題である。本校の生徒は課題に真剣に向き合い、じっくり考えることは得意であるが、率先して発表したり議論したりすることは苦手である。今後も指導内容を工夫し、積極的に学び合う集団づくりの醸成に努めていきたい。

●　教師が、本時のねらいに迫るために、生徒に何を考えさせたいのか、何を認め合わせたいのかを明確にもって指導する必要性を痛感している。「教師の意図」が不明確だと、指導が焦点化されない。全教職員間で課題を共有し、改善を図っていきたい。

令和４年度

伊達市立松陽中学校

道 徳 教 育 全 体 計 画

日本国憲法・教育基本法・学校教育法

学習指導要領

伊達市教育方針

いじめ防止対策推進法

学校教育の目標

～強く・正しく・和やかに～

○　元気はつらつ，やる気のある生徒
○　礼儀正しく，思いやりのある生徒
○　自ら根気強く学習に取り組む生徒
○　目標めざして本気で努力する生徒

生徒の実態

○　明るく素直な生徒が多い。
○　行事に仲間と協力して生き生きと取り組める。
○　落ち着いて学習に取り組める。
▲　目標に向かって粘り強く努力すること。
▲　時と場に応じた言動や相手を敬う言動。

教師の願い

・何事にも前向きな子　・生命を尊ぶ子
・他者の立場に立てる子　・意志の強い子

地域の実態

・急激な都市化現象と宅地造成に伴い，考え方や価値観が多様化している。
・学校に対して，比較的協力的である。
・両親とも共働きで，祖父母と協力しながら子育てしている家庭が多い。
・少子化が進み子供の数が減少傾向。

学校・学級環境の充実

・教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係構築
・校内・周辺美化活動
・生命の尊厳に基づいた学校教育及び環境の充実

目指す学校像

生徒も教師も輝く学校

～「共汗」「共感」「共歓」～

道徳教育の重点目標　〔重点内容項目〕 思いやり，感謝

思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深める。

目指す生徒の姿

自分の考えを伝え，多様な意見を受けとめるとともに，自己を見つめなおすことができる姿

第１学年	第２学年	第３学年
○　男女分け隔てなく，進んで関わろうとする態度を養う。	○　相手の立場や気持ちを考えた言動をとろうとする態度を養う。	○　互いをかけがえのない存在として尊重し，助け合い協力し合おうとする態度を養う。

特別な教科　道 徳　の 指 導 方 針

○　教科，特別活動，総合的な学習の時間等との関連を配慮し，それらにおける道徳教育の実践において，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てることとする。

「私たちの道徳」 「郷土資料集」の活用方針	1　教育活動において，柔軟な活用を心がける。 2　教科書のとの繋がりを意識し，授業の終末を中心に，価値の深化を図るものとする。 3　生徒が日頃から「ふくしま道徳資料集」に触れ，ふるさと「ふくしま」について考える機会を多くするために，各学年文庫に配架する。

各教科

国語	言語活動を通して,他者と円滑に伝え合う力や社会性を身につけたり，我が国の言語文化を尊重したりする態度を養う。
社会	日本や世界の歴史・地理の学習を通し，自国の理解や国際理解を深めたり，公民分野で社会参画や社会連帯の意識を高めたりする。
数学	数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え，真理を追究しようとする態度を養う。
理科	自然の事物・現象を調べる活動を通して，生命を尊重し，自然愛護の精神を養い，科学的に探究しようとする態度を養う。
音楽	音楽にふれることで，美しいものや崇高なものを尊重したり，我が国の自然や四季の美しさを感じ取ろうとしたりする態度を養う。
美術	作品の制作や鑑賞を通して，感性を豊かにし創造力を高め，美しいものに感動する豊かな情操を培う。
保体	様々な運動を通して，粘り強くやり遂げる態度や，集団に参加し一人一人の違いを大切にしたり協力したりする態度を養う。
技家	生活に関わる体験的学習を通して，生活を工夫し創造する力や勤労の尊さ，家族への敬愛，家庭や地域社会の一員としての自覚を高める。
英語	外国語の学習を通して，他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献の精神を養う。

特別活動

学　級　活　動

○　道徳教育実践の基盤は学級にあるという認識のもと，折に触れて道徳教育の実践を図る。集団生活の中で他者とかかわる力を付け，自発的な態度を養う。
○　実践後の振り返りを大切にし，自他のよさを自覚できるようにする。

進路指導・生徒指導

○　自己理解を深め，自己実現を図るための能力・態度を高める。
○　偏見のない，人権尊重の精神を育成する。

生 徒 会 活 動

○　自己の言動を検証し，自己改善を図りながら，役割を果たす態度を養う。

学　校　行　事

○　集団の一員としての自覚を深め，学校生活の充実と発展に努めようとする態度を育てる。

総合的な学習の時間

○　課題を見つけ，判断し，解決する能力や態度を育てる。
○　学び方や，ものの考え方を身につけ，問題解決や探究活動を通し自己の生き方を考えることができる人間を育成する。

家庭・地域との連携	○　道徳の授業を学校公開や授業参観で積極的に行う。また，「学年通信」や「学校だより」，ホームページなどを通して，心の教育についての交流を図り，いじめのない安心した学校生活を実現する。 ○　学校や家庭・地域における体験活動や豊かな情操を育む活動を積極的に取り入れる。 ○　学級担任外の得意分野を生かした授業を実施してもらうなど，授業形態の工夫に努める。

「思いやり，感謝」の笹りんどう　松陽中学校第２学年

目指す生徒の姿

自分の考えを伝え，多様な意見を受けとめるとともに，自己を見つめなおすことができる姿

12月 キョウカンプロジェクト3
「一歩踏み出す」
菊池日出子氏

12月 主題名「誰に対しても」
教材名「塩むすび」
【ねらい】
主人公「私」の行動を通して，自分との関係が浅い，深いにかかわらず，誰に対しても思いやりの心をもつという態度を育てる。

12月 主題名「人との関わりのなかで」
教材名「五百人の大家族」
【ねらい】
東日本大震災の被災者を受け入れた旅館の娘である「私」の気持ちを考えることを通して，周囲の人への思いやりや感謝について考えを深め，行動しようとする態度を育てる。

11月 総合
【伊達市ボランティア】
○ 普段手がまわらない場所の美化活動を通して，奉仕の心を養う。

10月 キョウカンプロジェクト2
「伝えることの大切さ 伝わることのすばらしさ」
大和田 新氏

10月 音楽科
【合唱コンクール】
○ 練習過程において，お互いに協力し，助け合いながら友情を深め，学級の一員としての自覚を高める。

10月 行事
【松陽祭】
○ それぞれが自分の役割を自覚し，活動を通して，ともに成長していこうとする態度を育てる。

10月 主題名「よりよく生きる喜び」
教材名「本当の私」
【ねらい】
悩みながらも自分の弱さを克服した主人公の姿から，人間の強さや弱さについて考えを深めることを通して，弱さを乗り越えて自分らしくよりよく生きていこうとする実践意欲を育てる。

8月 総合
【職場体験学習】
○ 働くことの意義，喜びや苦労などを体験を通して学ぶ。

8月 主題名「あきらめない気持ちで」
教材名「左手でつかんだ音楽」
【ねらい】
左手のピアニストとして再起を果たすまでの舘野さんの気持ちの変化を考えること汚を通して，目標や夢の実現のために，困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考え，挑戦し続けようとする態度を育てる。

7月～10月
【ほっこりエピソードリレー】
＊ 先生方の「ほっこり」した体験談

7月 キョウカンプロジェクト1
「『心』と『頭』と『体』を鍛えて素敵な恋をしよう」 渡邊健先生

5月 行事
【親子奉仕作業】
○ 親子で触れ合い，奉仕の心を育てる。

7月 行事
【校外学習】
○ 集団で生活することの意義を考える。

5月 主題名「支え合いの中で」
教材名「愛」
【ねらい】
健おじさんの，姉の命を大切に思う気持ちや深い愛情について考えることを通して，思いやりの根底には人間尊重の精神があることを理解し，ともに助け合い，協力し合って生きていこうとする心情を育てる。

4月 行事
【入学式】
○ 新入生に松陽中のよさを伝える。

教科等　　**道徳科**　　**家庭・地域とのつながり**

松陽中×道徳教育×キョウカン・プロジェクト

〔道徳教育講演会〕

〈７月１９日　講師：渡邊　健　氏　　演題：「『心』と『頭』と『体』を鍛えて素敵な恋をしよう！」〉

〔生徒の感想〕

目が見えなくなったり、できることが減ったりしても、自分ができると思ったことや自分にプラスになると思ったことを最初から始めていくのはとてもすごいと思いました。あきらめるのではなく、やれることを最後までやりきれるようになりたいと思いました。体・心・知のどれかが欠けてしまわないように頑張りたいです。

〈１０月２６日　講師：大和田　新　氏　　演題：「伝えることの大切さ　伝わることの素晴らしさ」〉

〔生徒の感想〕

私たちのために東日本大震災の話や津波の話をしてくれてありがとうございました。地震の時、私はまだ１歳で記憶がなかったので、今日の話が聞けて感動しました。紙芝居の高校生、素敵でした。お母さんの気持ちもよく分かりました。警察官の話は心にグッときて涙が抑えられなかったです。今日の事を絶対に忘れません。

〈１２月１日　講師：菊池　日出子　氏　　演題：「一歩踏み出す」〉

〔生徒の感想〕

「人生止まっているヒマはない」という言葉を聞き、どんなことにも一歩踏み出し、挑戦することが大切なのだと思いました。何かに挑戦し、良い結果が残せなくても、その経験が他のことに良い影響を与えたり、次の目標への第一歩になったりすると考えることができれば、少しずつ自分も成長することができると思いました。

〔ほっこりエピソードリレー〕

教頭先生は朝６時半に学校に来て、まず門を開けます。この門が重いのです。帰りも玄関を施錠して、「ああ、今日も疲れたな。あと門を閉めて帰るか…。」と考えながら門のところに行きます。すると門の半分が閉まっているのです。最初は「何で？　誰が？」と思っていたのですが、少しずつ分かってきました。松陽中の先生が、自分が帰る前に門を半分閉めてくれていたのです。教頭先生は、その先生の気配り、思いやりに感謝し、いつもほっこりしています。そんな素敵な先生と一緒に仕事ができることを誇りに思い、明日も頑張ろうという元気をもらいながら仕事をしています。そして、その先生を見習い、誰かのためにそっと手を差し伸べられる人間、縁の下の力持ち的な存在になりたいなと思いながら日々生活しています。身近な日常で経験した教頭先生のほっこりエピソードでした。

県中地区道徳教育推進校「小野町立小野中学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	小野町立小野中学校
所在地	田村郡小野町谷津作和久 59
校長名	金子　伸之
教育目標	夢～自立・友愛・健康～
学級及び児童生徒数	学級数　１１ 生徒数　２３９名

2　研究テーマ

教育目標「夢～自立・友愛・健康～」を軸に学年の実態に即した道徳性の育成を目指す
～互いの個性を認め合い、夢に向かって努力する生徒を目指して（1 年）～
～自分のよさを認め、困難を乗り越えられる生徒を目指して（2 年）～
～国際社会でたくましく生きる生徒を目指して（3 年）～

3　研究テーマ設定の理由

本校は都市部から離れた自然豊かな環境の中にあり、保護者や地域住民の温かい支援もあって、一人一人の生徒が比較的伸び伸びと生活している。近年、児童生徒の減少が進み、令和２年度に町内の小中学校は各１校となった。そのため、生徒は固定化された人間関係の中で成長し、しかも生徒の実態は学年によって大きく異なる。このような状況を踏まえ、学校として統一テーマを設定するより学年の実態に即したテーマを設定した方が、より効果的に生徒の道徳性を養うことができると考えた。

１学年は自他を尊重する態度や、互いに高め合おうとするよさがある。このよさを生かし、より個性を伸長できるように、上記学年テーマを設定した。

２年生は素直で明るく活発な生徒が多いが、自分に自信がなく、失敗や困難を恐れる生徒も少なくないため、上記学年テーマを設定した。

３年生は集団としてのまとまりがあり、個々の自己管理能力も高い。その一方で、自分に対する他人の振る舞いや発言を必要以上に気にする生徒が少なくない。今後、町内外での多方面にわたる活躍を願い、上記学年テーマを設定した。

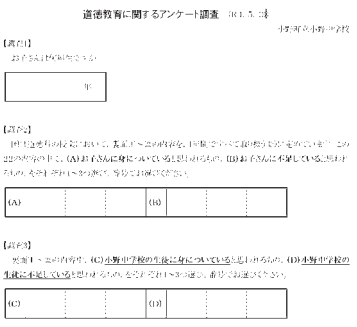
4　研究計画

月　日（曜日）	主な研究内容	備考
４月 20 日(水) ～５月 18 日(水)	○研究推進委員会による研究方法の模索 ・保護者アンケート実施	
７月　４日(月)	○道徳科校内授業研究会（３学級） 指導　義務教育課　指導主事　肥沼　志帆 県中教育事務所　指導主事　浦山　裕子	
７月 20 日(水) ～８月 19 日(金)	○次年度の教育課程編成に向けた検討、別葉の修正 道徳科との関連を考えた教育活動の工夫改善	
８月 10 日(水)	○オンラインによる研修 講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様	
８月～11 月	○学年ごとの研究実践	
10 月　５日(水)	○道徳科校内授業研究会（３学級）	
11 月 21 日(月)	○地区別推進協議会 指導　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様 義務教育課　指導主事　肥沼　志帆 県中教育事務所　指導主事　浦山　裕子 小野町教育委員会　指導主事　村上　順一　様	
11 月下旬～12 月上旬	○研究のまとめ	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成、活用上の工夫点、配慮について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ・　生徒の実態や、アンケート調査を通して把握した保護者の願いに沿って、学年ごとに特に育みたい内容項目を選択し、それらを重点的に取り扱うとともに、別葉を再編集して授業を実施する。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ・　道徳科にローテーション授業を導入し、各学年チームを中心とした体制で互見による授業改善と別葉の実践を柱とし、研究を推進する。 ・　学年会や教科部会において、定期的に各教科等の指導計画と別葉と関連を確認し、学校全体で道徳教育を推進する。
【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫
①自己を見つめるために ・　自らの行動や考えを見直すことができるような発問を精選したり、指導形態や方法を工夫したりする。 ・　本時の学習内容について、自分との関わりで主体的に考えることができるよう、まとめや振り返りの場の工夫をする。 ②深い学びを実現するために ・　板書を構造化したり、ＩＣＴを活用したりすることを通して、生徒の考えを多面的・多角的に引き出すことができるようにする。 ・　授業と他の教育活動の関連を図り、学校生活全体で道徳性を醸成していくことができるようにする。
【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について
・　いわき震災伝承みらい館訪問に合わせて震災関連の教材を活用し、郷土愛、家族愛、命等について考えを深めることができるようにする。 ・　防災教育、放射線教育、いじめ防止に関連する教材を適時取り扱い、それぞれの学習内容の深化を図る。
【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
・　学期ごとに生徒の学習状況を複数の教師の視点からとらえ、客観性のある評価につなぐ。 ・　個の考えを全体で共有し、意見交換などを通して多面的・多角的に考えることができるようにする。 ・　ワークシートとＩＣＴを併用し、今までの自分を振り返ることを通して、自己を見つめることができるようにする。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について
・　保護者が子どもに求めている道徳性を、アンケート調査を通して把握する。 ・　学校Ｗｅｂサイトや学年だよりを通して、道徳科の授業を中心とした道徳教育への取り組み状況を随時発信する。 ・　教育相談時に道徳科の学習状況に関する話題を取り上げ、学級担任、保護者、生徒の三者で道徳性に係る成長の様子を共有する。 ・　人権擁護委員や弁護士、保健師、助産師等の専門家を外部講師として招聘した道徳科の授業を実施し、学習内容の補充・深化を図る。

6　「家庭・地域との連携」について


道徳教育に関するアンケート調査

【ねらい】

・　保護者が重要視している内容項目を把握し、指導に生かす。

・　授業参観で道徳科の授業を一斉公開し、子どもと同じ目線で道徳的価値について考えていただき、家庭において子どもと話し合うことができるようにする。

・　道徳科と関連を図った指導を充実するため、地域人材を活用する教育活動を位置づけ、体験的に公共の精神や自然や郷土を愛する態度を養う。

【概要】

・　年度当初にGoogle Formsを利用して保護者アンケートを実施し、保護者の道徳科に対するニーズ（重要視している内容項目）を探った。

・　授業参観において全学級で道徳科の授業を行った。生徒の実態を見ていただくとともに、授業に参加し親の立場からの意見を聞くことで、生徒に多面的・多角的に考えさせる一助とした。

・　学校Ｗｅｂサイト、学校だより、学年だより等で情報を積極的に発信し、生徒の学びや成長の様子を伝え、家庭との連携を図るように努めた。

・　地域の「夏井川友の会」と協力し、町内を流れる夏井川の河川清掃を行った。会の歴史や活動の説明を聞き清掃活動に取り組むことで、公共の精神や自然や郷土を愛する態度を養い、地域社会との関わりについて考える機会とした。

【成果と課題】

・　保護者アンケート結果から、保護者と教師の願いが共通していることを把握できた。

・　夏井川河川清掃を行うことで、一人一人の生徒が、公共の場での振る舞いや、自然愛護、さらには地域への貢献のあり方などについて考えることができた。

・　授業参観時に保護者から意見をいただき、多面的・多角的な見方を広げようとしたが、教師や子どもに遠慮したためか、率直な意見がでなかった。道徳科の授業の目的を伝え、授業に参加していただく機会を継続していくことが大切である。

7　成果と課題

○　１年では、自己の目標を堂々と発表する姿や、他者の夢を称賛、応援する言葉をかける生徒の姿が、２年では、自己の置かれた立場が特別ではないことに気付き、他者の悩みに寄り添い共感したり、自身の悩みや困難に立ち向かおうとしたりする生徒の姿が見られた。

○　生徒の実態に基づき、学年単位のローテーション授業を導入して互見することにより、次の成果を得ることができた。

・　教材や授業案を複数の教師の視点で分析して協議することで、より生徒が自分事として考える発問や指導方法を検討することができ、授業構想力や授業スキルの向上を図ることができた。また、検討した改善点を次の授業で生かすことができた。

・　互見授業により、担当する教科の授業では見られない生徒の姿を見取り、生徒理解が深まった。

・　各学年の生徒の実態に基づいた研究テーマや実践方法を通して、短期間で効果的な実践ができた。それぞれの教師の役割分担が効率的に実施され、実践研究へのモチベーションが維持された。

●　複数の教師が授業を行ったため、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することが、担任のみによる道徳科の授業と比較してやや難しくなった。

道徳教育全体計画

小野町立小野中学校

◇教育基本法
◇学校教育法
◇いじめ防止対策推進法
◇県教委，教育事務所の重点事項

教　育　目　標

『夢』　～自立　友愛　健康～
・課題を持ち，進んで学ぶ生徒
・互いの良さを認め，高めあう生徒
・健康で，心身を鍛える生徒

時代や社会の要請

・国際化，高齢化，情報化など社会の変化に対応した指導を工夫する。

学校や地域の実態と課題

・町内に唯一の中学校であり，学校に対する周囲からの期待や関心が高い。
・地域・保護者の教育への関心が高く，学校に対して協力的である。
・コロナ禍の影響もあり，保護者どうしのつながりが希薄になっている。

教師・保護者の願い

・健康で思いやる温かい心をもって，学校生活を過ごしてほしい。
・生き生きと活動する中で，互いに信頼できる人間関係を構築し，自分の夢を実現させてほしい。

道徳教育の重点目標

・人間として生きることに喜びを見出す。【夢】
・自立し，自主的に考え，誠実に実行し，その結果に責任をもつ態度を養う。【自立】
・人間愛の精神に根ざし，相手の立場を思いやる広い心を養う。【友愛】
・自他の生命を尊重し，理想を抱き，根気強く実践していく態度を養う。【健康】
・勤労の貴さを理解させるとともに，奉仕の心をもち，進んで公共の福祉と社会の発展のために尽くそうとする態度を養う。【自立・友愛】

学校，学級における教育環境の整備計画

・相手の人格を尊重し，互いに協力し合えるような生活環境をつくる。
・道徳教育に有用な展示物の掲示や，情報活用を工夫し言語環境を整える。

生徒の実態・目指す生徒像・重点内容項目

1年	2年	3年
・自他を尊重する態度や互いに高め合おうとする雰囲気が備わっている。	・自己肯定感が低く，集団の中で活動することにやや消極的な生徒が多い。また，少々の困難で物事をあきらめたり，目標を低くしたりする生徒が多い。	・ある程度，自主的に考え，判断できるが，実行しようとする勇気にやや欠ける。指示を待って行動する傾向が見られる。
～互いの個性を認め合い，夢に向かって努力する生徒～ ・中学生としての望ましい生活習慣を身につけさせるとともに，最後までやり抜く態度を育てる。 ・広い心を持ち，集団の一員として節度と調和のある態度を育てる。	～自分のよさを認め，困難を乗り越えられる生徒～ ・中堅学年としての自覚と責任を持たせるとともに，自他の長所を発見させ，個性の伸長に努める生活態度を養う。 ・青年前期の特徴や男女の特性などを理解させ，よりよい人間関係を育てる。	～国際社会でたくましく生きる生徒～ ・自主的に考え，自立的な判断を養う。 ・社会の一員としての役割と責任を自覚し，互いに協力し，よりよい社会生活の向上に貢献しようとする態度を育てる。
A(3) 向上心，個性の伸長 A(4) 希望と勇気，克己と強い意志 C(12) 社会参画，公共の精神 C(18) 国際理解，国際貢献 D(22) よりよく生きる喜び	A(3) 向上心，個性の伸長 A(4) 希望と勇気，克己と強い意志 B(6) 思いやり，感謝	A(1) 自主，自律，自由と責任 A(4) 希望と勇気，克己と強い意志 B(6) 思いやり，感謝 B(9) 相互理解，寛容 C(15) よりよい学校生活，集団生活の充実

各教科

国語	・文学作品を通して，人間の生き方を考える態度を養う。
社会	・社会事象を広い視野から考える態度を養う。
数学	・論理的に判断し，合理的に処理しようとする態度を養う。
理科	・観察や実験を通して，自然の事物現象を理解しようとする態度を養う。
音楽	・作り上げる喜びや協力する大切さを理解しようとする態度を養う。
美術	・作品の制作を通して，創作的に表現しようとする態度を養う。
保体	・集団行動を通して，健康な心と身体を育もうとする態度を養う。
技家	・作業を通して，計画的，合理的かつ安全に取り組もうとする態度を養う。
英語	・国際社会の一員として異文化への理解を深めようとする態度を養う。

総合的な学習の時間

○自己の生き方を考える
・地域学習，職場体験，勤労奉仕活動や施設訪問活動など。

特別活動

A 学級活動	学級生活の充実と向上を図り，集団の一員としての自覚を深め協力してよりよい生活を築いていこうとする態度を育てる。
B 生徒会活動	一人一人が役割を自覚し，他と協力しながら積極的に活動しようとする態度を育て，自治的な態度や実践力を育てる。
C 学校行事	学期ごとに体験的な活動を精選して位置づけ，学校生活の秩序と変化及び集団生活の向上を図る。

道徳の時間の指導方針

・学校の教育活動全体を通して行われる道徳教育と密接な関連を持ちながら，計画的・発展的な指導を通して，補充，深化，統合する。
・人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的判断力や道徳的態度，意欲の向上を図り，道徳的実践力を育成する。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連

・学級内の役割分担や係分担を通して，協力性や責任感を養う。
・学校行事に積極的に取り組み，自主自律の精神を養う。
（秋篠祭，スポーツフェスティバル，合唱コンクール，修学旅行，校外学習など）
・夏井川清掃（自然愛護）
・ブリティッシュヒルズ研修（国際理解）

日常生活における指導生徒指導との関連

・集団の一員として，自覚をもって目標を立て，自己実現に努める態度を育成する。
・教師と生徒相互の望ましい人間関係を構築する。
・学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに，生徒がいじめを受けていると思われるときは，適切かつ迅速にこれに対処する。

小学校・高等学校・特別支援学校との連携

・各校との情報交換により，生徒に実態の把握に努めるとともに，目指す生徒像の実現のために，発達段階に応じた系統的な道徳教育が展開できるようにする。

家庭・地域社会との連携

・本校における道徳教育の実施について，学年通信や学年保護者会を通して保護者等の理解を求め，家庭教育，社会教育，学校教育との関連性，一貫性を確立するように努める。

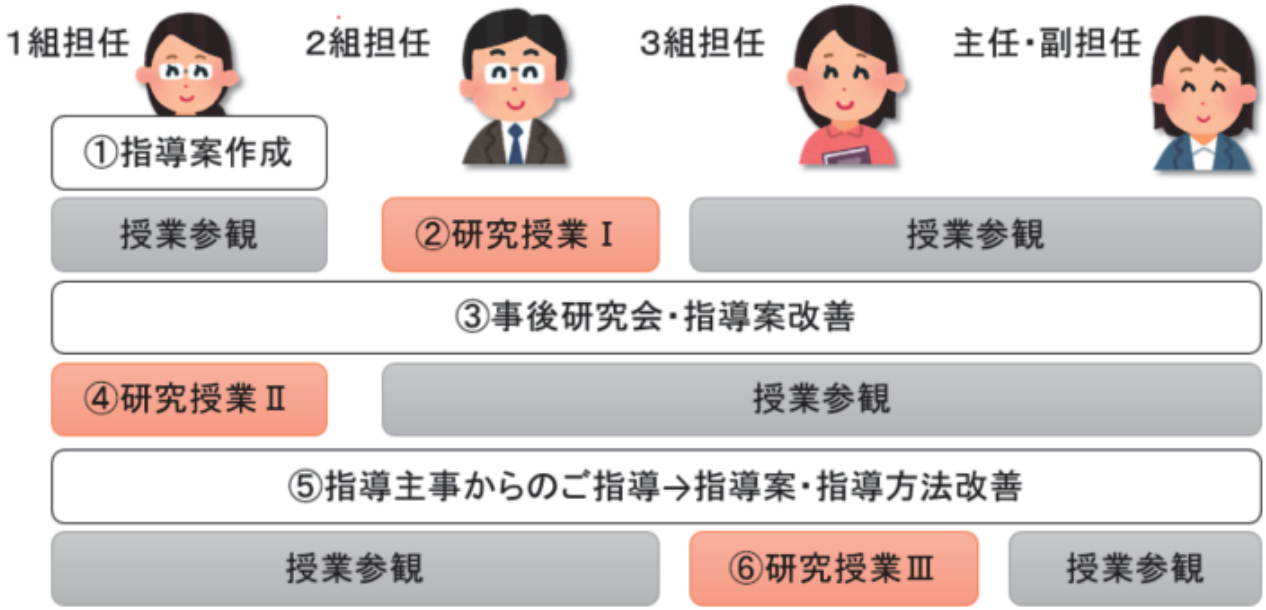
道徳科　別葉１年

小野町立小野中学校

内容項目	東京書籍	学級活動	総合	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語
A(1)自主,自律,自由と責任	「傍観者でいいのか」「父のひとこと」	中学校生活のスタート(4月)		「少年の日の思い出」								「家庭生活と地域」	
A(2)節度,節制	「山に来る資格がない」「もし，あのときにもどれるのならば」	未来の自分(2月)		「朝のリレー」			「生物の観察と分類のしかた」			「健康な生活と疾病の予防」			
A(3)向上心,個性の伸長	「自分の性格が大嫌い！」	２年生への準備(3月)	学習旅行に向けて(2,3月)	「星の花が降るころに」									
A(4)希望と勇気,克己と強い意志	「風を感じて-村上清加のチャレンジ-」												
A(5)真理の探求,創造	「どうせ無理と言う言葉に負けない」	自分の適性を考える(6月)	地域CMづくり(８,９,10月)	「ダイコンは大きな根？」		「算数から数学へ」「未知の数の求め方を考えよう」	「植物の分類」「身のまわりの物質」,「身のまわりの現象」,「大地の変化」	「擬声語や擬態語を活用する音楽づくり」	「絵画から読みとる物語」				
B(6)思いやり,感謝	「その人が本当に望んでいること」「思いやりの日々」「心をつなぐバス」												
B(7)礼儀	「朝市の「おはようございます」												
B(8)友情,信頼	「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」「班での出来事」		秋篁祭に取り組もう(8,9,10月)	「シンシュン」									
B(9)相互理解,寛容	「いじめに当たるのはどれだろう」「落語が教えてくれること」			「ちょっと立ち止まって」					「アートカードで完勝ゲームをしよう！」	「ストレスへの対処の方法」			
C(10)遵法精神,公徳心	「選手に選ばれて」「ごみ箱をもっと増やして」	自分や級友の長所(12月)											
C(11)公正,公平,社会正義	「席替え」「いじめっ子の気持ち」												
C(12)社会参画,公共の精神	「本が泣いています」「楽寿号に乗って」	健康で安全な生活のために(1月)										「責任ある消費者になるために」	
C(13)勤労	「新しいプライド」「看護する仕事」		職業について調べよう								「製作のための技能」		Unit 9 Story1
C(14)家族愛,家庭生活の充実	「靴」			「大人になれなかった弟たちに・・・」									
C(15)よりよい学校生活,集団生活の充実	「全校一を目指して」		楽しい学習旅行にしよう(6月)					「明日を信じて」合唱コンクール					
C(16)郷土の伝統と文化の尊重,郷土を愛する態度	「ぼくのふるさと」「郷土を彫る」				「身近な地域の歴史」			「ソーラン節」「かりぼし切り歌」			「材料と加工の技術」		Unit 7
C(17)我が国の伝統と文化の尊重,国を愛する態度	「古都の雅,菓子の心」			「蓬莱の玉の枝」「今に生きる言葉」	「身近な地域の歴史」「日本の姿」		「植物の分類」「身のまわりの物質とその性質」	「六段の調」				「日本の食文化と和食の調理」	Unit 10 Story3
C(18)国際理解,国際貢献	「山岳民族の文化を守る」	学級生活の反省(6月)			「世界の姿」「世界の諸地域」		「植物の世界」	「日本とアジアの声によるさまざまな表現」					Unit 9
D(19)生命の尊さ	「いのちって何だろう」「決断！骨髄バンク移植第一号」「あなたはひかり」「見沼に振る星」	働く人々に学ぶ(5,９,10月)					「生物の観察と分類のしかた」			「生殖機能成熟」			
D(20)自然愛護	「桜に集う人の思い」				「人々の生活と環境」「世界の諸地域」		「身のまわりの物質」「身のまわりの現象」「大地の変化」				「生物育成の技術」		
D(21)感動,畏敬の念	「火の島」	学級生活の反省と向上(1月)					「大地の変化」						
D(22)よりよく生きる喜び	「花に寄せて」							「希望という名の花」					

【資料】

（１）１学年で行ったローテーション授業



①　１組の学級担任が指導案のたたき台を作成し、学年内でその指導案を検討する。
②　２組の学級担任が１回目の研究授業を行う。
③　学年事後研究会を行い、指導案や指導方法の改善を図る。
④　指導案を作成した１組担任が研究授業を実施する。
⑤　研究授業に合わせて指導主事を招き、指導助言を受けて授業案を再度検討する。
⑥　３組の学級担任が３回目の研究授業を実施し、改善した授業を実施する。

学年教師は３回の研究授業をすべて参観し、全ての事後研究会に参加する。

次の授業研究では、３人の学級担任の役割を入れ換える（２組担任が指導案作成と研究授業、３組担任が１回目の研究授業、１組担任が３回目の研究授業）。これを７月、10月、11月の３回実施した。

※　指導案は、たたき台を基に、各学級担任が学級の実態に合わせて作成した。

（２）２学年で行ったローテーション授業

	学年主任	1年担任	2組担任	3組担任	副担任
内容項目	A(4) 希望と勇気，克己と強い意思	A(3) 向上心，個性の伸長	D(19) 命の尊さ	B(6) 思いやり，感謝	B(8) 友情，信頼
教材名	左手でつかんだ音楽	私は十四歳	奇跡の一週間	愛	ゴール

まず、年間35時間の道徳の時間を、５時間×７クールととらえた。図は、ローテーション授業を導入した、ある時期における各教師の担当内容である。１クールの中では、５名の学年教師がそれぞれ１時間ずつ授業を担当することとした。

本校は毎週木曜日の６校時に道徳科の授業を位置付けている。２学年は３学級、学年担当教師は５名なので、３名の教師が授業を実施し、２名の教師が３つの学級で行われる道徳科の授業を参観する。これを輪番で行い、授業後には事後研究会を行い授業のブラッシュアップを図った。

県南地区道徳教育推進校「中島村立中島中学校」実施報告

1　学校紹介

学校名	中島村立中島中学校
所在地	西白河郡中島村大字滑津字中島西１４番地
校長名	亀田　征利
教育目標	進んで学習する生徒 心身ともに健やかな生徒 心豊かな生徒
学級及び児童生徒数	学　級　数　7 生　徒　数　１３２名

2　研究テーマ

かかわり合いを通じて、多面的・多角的に考え、
自己の考えを深めることができる生徒の育成

3　研究テーマ設定の理由

本校の生徒は、豊かな自然に囲まれ、地域の方の優しさに触れながら、幼稚園から中学校卒業までの１２年間のつながりのある一貫した教育を受けている。また、豊かな教育環境で生活しており、素直で、穏やかな生徒が多い。一方、幼少期から中学校卒業まで関わるメンバーが大きく変わらないこともあり、特定の人間関係の中だけの交流が目立っている。そのため、多面的・多角的に考え、自己の考えを深め、表現することに課題が見られる。

そこで、友達、家庭・地域、教材などとのかかわり合いを通じて、他者の思いや考えに触れ、それを受けて自分自身と向き合い、自己の考えを深め、表現できるようにしたいと考えた。また、道徳教育を通じて、家庭や地域に目を向けさせ、「郷土を愛する気持ち」や「家族の大切さ」を感じることができる心をもたせることにつなげていきたい。

以上のことから、研究テーマを「かかわり合いを通じて、多面的・多角的に考え、自己の考えを表現できる生徒の育成」とし、他者や家庭・地域とのかかわり合いを通じて、自己を見つめ、自己の考えを深めることができるように学校全体で指導していきたいと考えている。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
４月２６日（火）	現職教育全体会（研究内容の検討）	
５月２７日（金）	第１回ローテーション道徳（互見授業）	
６月　６日（月）	福島県道徳教育推進協議会	
６月２０日（月）	道徳教育校内全体研修会	
７月　８日（金）	第２回ローテーション道徳（互見授業）	
７月１５日（金）	第１回校内授業研究会（２年　田代翔平教諭） 講師　東京学芸大学特任教授　永田繁雄　様	
９月　２日（金）	第３回ローテーション道徳（互見授業）	
９月　５日（月）	第２回校内授業研究会（３年　金子哲理教諭）	
１０月２５日（火）	第３回校内授業研究会（１年　菊田優亮教諭）	
１０月２６日（水）	伊達市立松陽中学校　授業研究会参加 手代木　僚教諭	
１０日２８日（金）	第４回ローテーション道徳（互見授業）	
１１月　４日（金）	郡山市立橘小学校研究公開参加 田代翔平教諭　佐久間文彦教諭	
１１月２２日（火）	道徳教育地区別推進協議会 （２年田代翔平教諭　１年佐久間文彦教諭） 講師　東京学芸大学特任教授　永田繁雄　様	
１２月１６日（金）	第５回ローテーション道徳（互見授業）	
１２月中旬	研究のまとめ	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成、活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

○　道徳教育全体計画作成の際には、学校の教育目標をもとに重点目標を４項目挙げ、それらを達成するための「道徳科の基本方針」「各学年の重点目標」を整理し、指導の具体化を図った。

○　別葉においては、年間指導計画、特別活動・学校行事・総合的な学習の時間・各教科との関連性を明確にした。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

○　道徳教育校内全体研修会で、道徳教育全体計画及び別葉の有効的な活用の仕方について研修し、共通理解を図り、組織的に研究を進められるようにした。

○　重点目標や他教科との関連・系統性を踏まえて指導ができるようにするため、道徳教育全体計画、別葉を各学年、常に目の届く場所に掲示した。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　主題や教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫

・　問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れる。

・　日常生活における自分の心情を考え、これまでの経験を想起する場面を設定したり、終末での振り返りの時間を確保したりして、自己の考えを深めることができるようにする。

②　一人一人の考え方を生かす協働的・対話的な言語活動の工夫

・　考え議論する場面でＩＣＴの活用や板書の工夫をすることで、多面的・多角的に考えを広げることができるようにする。

・　効果的な話合いができるようにするため、グループ活動、座席の変更など学習形態を工夫したり、話合いをコーディネートしたりして、交流がしやすいようにする。

③　主題に迫るための発問の工夫

・　教師間で中心発問について議論する時間を設け、効果的な発問を模索する。

・　補助発問や問い返しにより生徒の価値観をゆさぶり、自分の弱さや迷いを引き出し、自分と向き合えるようにする。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

①　年間指導計画に各学年「ふくしま道徳教育資料集」を活用する時間を設定する。

②　東日本大震災から１０年以上が経ち、震災の記憶は風化する可能性があるため、「ふくしま道徳教育資料集」を通じて、「命の尊さ」「復興に携わってきた人々の思い」「伝えていくことの大切さ」などについて考えることができるようにする。

③　保護者や地域の人などの身近な人の体験を聞かせることで、東日本大震災が福島県で起きたことであり、震災の教訓を継承し、家族愛や郷土愛、命について考える機会とする。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○　ワークシートや道徳のノートに担任が励ましのコメントを書くことで、一人一人の考えを受け止め、励ましたり褒めたりして伸ばすことにつなげる。

○　振り返りの視点を定め、年間を通して生徒の成長の様子を見取る。また、その成長の様子を通知表や学年通信などを通じて、保護者と共有し、学校と家庭とで一緒に、励ませるような環境作りをする。

○　年間を通した計画的なローテーション道徳を行うこと、互見授業を行うこと等を通じて、効果的な指導やお互いの課題点を共有し、指導に生かす。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　授業で活用した道徳のノートを家庭に持ち帰らせ、生徒の考えを聞くなど、親子で感想を交流したり、保護者にコメントをもらったりする機会を設ける。

○　授業参観において、全学年で道徳科の授業を実施する。授業では、保護者参加型の授業を行い、生徒と保護者の考えを交流させる機会を設ける。

○　道徳教育において、本村の良さである幼小中１２年間の連続した学びを推進する。

6「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

地域の人々や家族の思いを知ることを通じて、家庭や地域に目を向けさせ、「郷土を愛する気持ち」や「家族の大切さ」を感じることができる心を育てる。

【概要】

・　家族愛について考える授業では、保護者からのメッセージ（手紙）を活用し、自分事として考えることができるようにした。保護者の方に手紙を書いてもらい、授業で生徒が読み、自分事として家族について考えることにつなげた。
・　情報モラル教室に保護者に参加してもらい、SNS やメディアとの向き合い方について生徒と一緒に考える機会を設けた。
・　年に１回、全学年道徳科の授業参観を実施している。
・　地域の良さを PR する CM 作りを行い、文化祭で発表を行った。（１学年）

【成果と課題】

○　手紙という形で普段伝えられていない保護者の願いや思いを知ることができ、授業中に生徒たちが心揺さぶられている姿が見られた。
○　保護者に実際に授業に参加していただき、感じたことを書いてもらった。その感想を生徒に伝えたり、授業に活かしたりすることができ、家庭と一緒に教育する機会を作ることができた。
○　道徳科の授業「郷土を愛する気持ち」と関連を図り、総合的な学習の時間で村の CM を実際に作る活動を実施した。道徳教育を学校全体で進め、考え、感じたことを行動に移すことを支援することができた。
●　ゲストティーチャーの活用や、地域の人たちと関わり合う機会をもっと増やしていきたい。

7　成果と課題

○　永田繁雄先生の御指導のもと発問の精選について考え、発問の立ち位置をはっきりさせた。「多面的な思考」「多角的な思考」や「主人公に自分を重ねて考えること」「客観的に主人公を見ること」など様々な視点で考え、発問を精選することができた。
○　効果的な話合いになるように、色カードなどの思考ツールを活用することで、生徒が主体的に議論する時間を確保することができた。そのことにより、生徒の言葉・声で授業が進み、生徒の考えを深めることにつながった。
○　振り返りの際に、「これまでの自分を踏まえて」などの視点をもたせたことで、自分のこれまでのことや弱さ、本音を引き出しやすくなった。
○　道徳科の授業の参観の視点を明確にし、それをもとに授業研究を行い、教員間で目指す方向性を統一し授業力向上に励むことができた。事後研究会などにおいて、具体的な協議ができたり、同じ課題を共有できたりすることにつながった。（資料参照）
○　ローテーション道徳を実施し、効果的な指導方法や生徒の姿を共有することができた。また、道徳科の授業について教員間で話す機会が多くなり、指導力向上につながった。
●　考えを深める時には、自分事として考える時間を確保してきた。普段の授業から、自分の経験をもとに考えることを継続していく必要がある。
●　校内の道徳アンケートの結果より、道徳科の授業中に感じたことを実際の生活に活かすことが難しいと感じている生徒が多かった。学校教育全体で道徳教育を推進する必要がある。道徳的実践につながる支援を具体的に考えていきたい。

令和４年度　道徳教育全体計画

中島村立中島中学校

日本国憲法・教育基本法
いじめ防止対策推進法・学校教育法
学習指導要領
教育委員会の教育目標等

学校の教育目標

1　進んで学習する生徒
2　心身ともに健やかな生徒
3　心豊かな生徒

・生徒の実態
・地域の事情
・保護者の願い

道徳教育の重点目標

1　望ましい生活習慣を身につけ、より高い目標を目指して向上を図り、自己の人生を切り拓いていく精神を養う。
2　友情の尊さを理解し、暖かい人間愛の精神を深め、互いに励まし合い高め合う心を養う。
3　家族・学級・地域社会・国家の一員としての自覚を持ち、公共の福祉と規律を高める資質を育む。
4　自然を愛護し、生命の尊さを理解し、畏敬の念や、美しいものに感動する豊かな心を育む。

道徳の時間の基本方針

1 道徳の時間は道徳教育の目標に基づき、他領域における道徳教育と密接な関係を保ちながら生徒の実態に即した 計画的、発展的な指導を通して、道徳的実践力の向上を図る。
2 道徳の時間の指導においては生徒ひとりひとりに深く考えさせる資料の活用や指導過程を工夫するとともに、意見や考えを自由に話せる学級作りにも心がける。
3 ローテーション道徳を行い、全職員で道徳を行う。

各学年の重点目標

	第1学年	第2学年	第3学年
Aの視点	望ましい生活習慣を身に付けるこ との大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す。 Aー(1)、(2)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。 A−(1)、(3)	より高い目標に向かってねばり強く取り組み、理想の実現をめざす。 Aー(1)、(4)
Bの視点	助け合いの精神を重んじ、生活を支えている人への感謝の気持ちをもつ。 Bー(6)、(7)	相手の立場に立って、お互いのよさを認め、励まし合い、高め合う。 Bー(6)、(9)	人間尊重の精神を基盤に、他者に対して思いやりと寛容の心をもって接する。 Bー(8)、(9)
Cの視点	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に学ぶ。 Cー(10)、(15)	社会連帯の自覚と温かい人間愛を深め、差別や偏見をなくし、よりよい社会の実現をめざす。 Cー(11)、(15)	人間としての規範意識を身につけ、自他の権利を重んじ、積極的な社会参画の自覚を深める。 Cー(12)、(18)
Dの視点	身近な自然と触れ合い、生命のつながりを自覚して、生命を尊重する心をもつ。 Dー(19)、(20)	自然の営みに生命を感じ取り、感動や畏怖の念を深める。 Dー(19)、(21)	心の弱さや醜さを克服して、自分に 恥じない生き方をする。 Dー(22)

学級経営

・生徒理解を深め、好ましい人間関係とともに、個々の生徒が自己実現を図り楽しく規則正しい学校生活を築こうとする自立的態度を養う。
◎年度当初に「道徳教育の学級における指導計画」をたて、学級経営誌に入れる。

総合的な学習の時間

自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意義に気づかせるとともに生徒自身が自分なりの価値観を育てていくことができるようにする。
また、職業体験をとおして、勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める精神を育てる。

各教科

国語	文学的な文章を通して物事に深く感じ入る心情を育てる。
社会	社会的事象を正しく理解し、民主主義と国際理解の精神を育てる。
数学	物事を客観的にとらえ真理を追究する態度を育てる。
理科	自然を愛護し、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
音楽	創造的で豊かな情操を養い、潤いのある生活態度を育てる。
美術	豊かな情操を養い、創造的な生き方について考えさせる。
保健体育	協力・責任・忍耐の精神を育てる。
技術・家庭	相互扶養の精神と生活の向上充実を図ろうとする精神を養う。
英語	豊かな言語感覚を養い、国際理解の関心を高める。

特別活動

学級活動	生徒理解を深め、好ましい人間関係とともに、個々の生徒が自己実現を図り楽しく規則正しい学校生活を築こうとする自立的な態度を養う。
学校行事	諸行事への自主的活動を助長し集団への所属感を深め、学校生活を豊かで充実したものにしようとする態度を育てる。
生徒会活動	生徒会活動の中に奉仕活動を位置づけ様々な活動を通して自主的・自発的に学校生活の充実向上に取り組ませ、集団の一員としての所属感・連帯感を育てる。

生徒指導

生徒理解の基盤に立ち、積極的な生徒指導を図り，好ましい人間関係を育成する。

部活動

部員の結びつきをとおして、友情と他を思いやる心を育てるとともに、心身の健康について考えさせる。また、愛校心を育てる。

その他の活動

清掃や係活動をとおして自己の役割と責任を自覚し、勤労の意欲や尊さを感得させる。
また、登下校においては、規律と秩序を守る態度を育て、父母・地域の人・教師・友人へ対するあいさつなどの礼儀を身につけさせる。

別葉２年　C　郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度，家庭生活の充実　（２学年　重点内容項目）

各教科

国語

「盆土産」

社会

「日本の地域的特色と地域区分」

「日本の諸地域」

「地域の在り方」

音楽

「郷土の音楽や芸能」

美術

「手から手へ受け継ぐ」

家庭

「家庭生活と地域のかかわり」

「生活の課題と実践」

学校行事

・PTA 奉仕作業

・学習旅行（９月）

・職場体験（９月）

・ききょう祭（１０月）

・授業参観（年３回）

道徳科

○　『和樹の夏祭り』　（７月）

ねらい

地域のために中学生として、どうしたらよいか考えさせる活動を通して、地域の人々との関わりを見直し、自分ができることは何か考え、進んで地域の発展に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

成果と課題

○教材、級友、地域のとの関わりを通じて、多面的・多角的に考え、それぞれの考え発信することができていた。

△生徒同士で考えを深めるような時間や機会がもっと多く必要だった。

○　『　海へ（ふくしま道徳教育資料集）　』　（１１月）

ねらい

教材や自分の家族の思いを知ることを通して、自分をかけがえのない子供として大切に育ててくれている親の深い愛情に気付き、家族の一員としての自覚をもってより充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

成果と課題

○「家族を愛するとは？」という難しいテーマに踏み込んで議論することができ、自分の経験を踏まえて、家族に対する思いを深めることができた。

△授業で感じたことを実際に行動に移すのが難しいと感じている生徒がいた。学校行事や特別活動と連携して、今まで以上に学校全体で道徳教育を進めて行く必要がある。

目指す生徒の姿

・教材、級友、地域などの関わりを通し、自己の考えを表出し、多面的・多角的に考える姿。

・地域の人々や家族との関わりに感謝し、自分ができることは何か考え、進んで地域の発展や家庭生活のために努めようとする気持ちをもつ姿。

地域・家庭とのつながり

・授業参観

（年３回内１回道徳の授業）

・PTA 親子奉仕作業

・PTA 親子球技大会

・職場体験

・各種便りやホームページによる情報発信

・保護者参加型の道徳の授業

・地域行事への参加

・道徳ノートを活用した家庭との連携

道徳教育の工夫

・道徳コーナーの充実

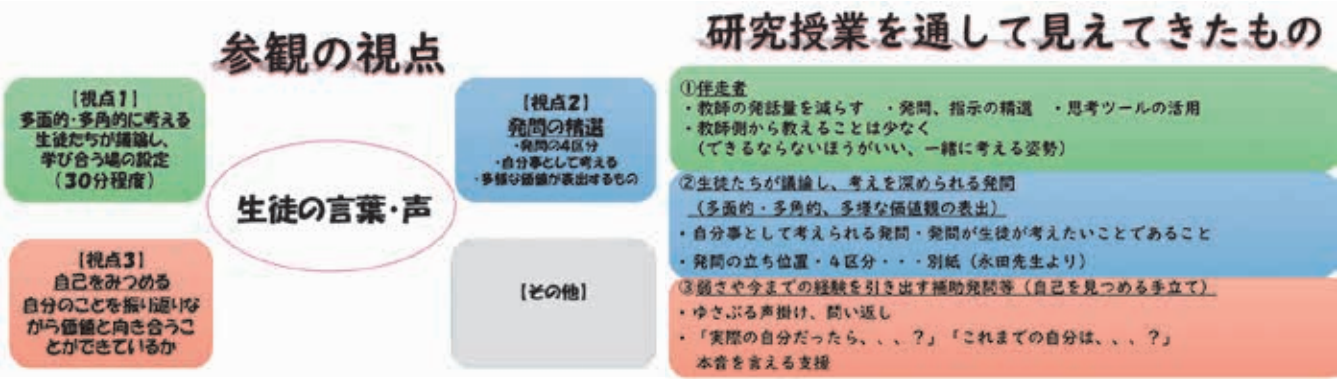
・ローテーション道徳（年５回）

・道徳検証授業の実施

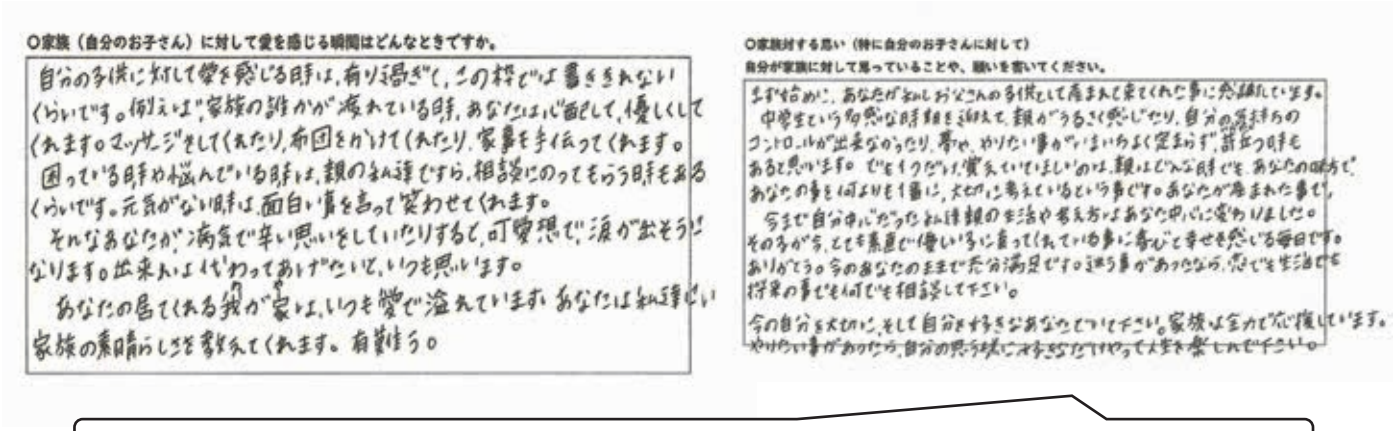
・校内道徳研修会の実施

【道徳教育の取り組み】

道徳の授業において、教員間で共有しているもの



保護者からの手紙（「海へ」ふくしま道徳教育資料集）



道徳科の授業に、保護者の考えや視点を取り入れることでより本時にねらう道徳性を深めることができた。

地域学習（1年総合的な学習の時間）

生徒の声

中島村のことをみんなで作ったCMで伝えられたのでよかったと思います。

係が中心となって、台本や小物などをいちからCMを作りました。農業や歴史、施設や商業など名島村のよさを伝えることができました。

職場体験（2年総合的な学習の時間）

株式会社 矢内石油

地域学習（１年）や職場体験学習（２年）において実際に体験したことが郷土愛や勤労の価値について考えることにつながった。

会津地区道徳教育推進校「福島県立会津農林高等学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	福島県立会津農林高等学校
所在地	福島県河沼郡会津坂下町字曲田 1391 番地
校長名	佐藤　文男
教育目標	農業教育をとおして、たくましく、社会で生き抜く力の育成に努めます。
学級及び児童生徒数	学　級　数　9 児童（生徒）数　１９６名

2　研究テーマ

農業教育等における他者との関わりを通じて、豊かな心の育成や自他の価値観の違いを認め合い、思いやり心や感謝の心を育むとともに、郷土に関心をもち、郷土を愛する心を育む道徳教育の推進。

3　研究テーマ設定の理由

地域の農業拠点校である本校は、農業教育を通した人材育成を教育の根幹に据え、地域社会からの要請に応えるとともに、社会に貢献し生き抜く力を鍛える教育を推進してきたところである。この取組を土台として、変化の激しい社会を生き抜いていくための基礎となる資質・能力を育み、生徒一人一人の進路希望実現を目指している。

そのために、生徒指導、進路指導、特別活動や教科指導の充実を図るとともに、すべての教育活動を通して行う道徳教育を一層推進し、地域の発展に尽くす社会人として必要な道徳性を育みたいと考えた。特に「思いやり、感謝」を重点として指導にあたることとした。

また、教育課程の中心となる各科の実習において、生育環境の異なる多様な他者と関わる際に、互いの相違を認め合い、寄り添いながら、多様な価値観を理解し、他者と協働していくための道徳性を育みたいと考えテーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
４月中旬～ （１学期中）	服装指導およびセミナー（着こなしセミナー） 登校指導　服装指導（高校生としてのモラルの指導）	
８月夏季休業中	「モラル・エッセイ」コンテストへの参加	
９月　７日（水）	交通安全講話　　町内小中学校等に案内（４名参加）	
９月１４日（水）	校内授業研究会①　町内小中学校等に案内（４名参加）	
９月２７日（火）	会津坂下町立坂下東小学校 道徳授業研究会参加（４名）	
１０月１９日（水）	校内授業研究会②　町内小中学校等に案内（４名参加） 講話講師：田圃クエスト 代表理事 鈴木　陽介 様	
１１月　９日（水）	校内授業研究会③　町内小中学校等に案内（４名参加） 講話講師：ｵｸﾔﾋﾟｰﾅｯﾂｼﾞｬﾊﾟﾝ(株)代表 松崎健太郎 様	
１２月　７日（水）	道徳教育地区別推進協議会 講 演 講 師：秋田公立美術大学 副学長 毛内嘉威 様 指導助言者：義 務 教 育 課　指導主事　肥沼志帆	
１月１９日（木）	校内授業研究会④※ふくしま道徳資料集を活用した授業	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画作成、活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

道徳教育の指導内容について各教科、学年、学校組織（生徒指導部、教務部、進路指導部、厚生部、農場部）としての取組について明記している。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

地域と連携した取組（緑化活動、他校種との農作業体験、早乙女踊りの継承）や学校行事（志学会総会、スポーツ大会、芸術鑑賞教室等）について、道徳教育に関する目的を明記し、全職員共通理解のもと指導する。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳教育の工夫について

①　農業科における実習や行事等後に、活動を振り返る機会を設け、感想を発表し合う。

②　他者との交流の中で多様な見方や考え方に触れ、物事を多面的・多角的かつ客観的に見る視点の大切さに気付くことができるようにし、自身の考えを深められるようにする。

③　「思いやりの心」や「感謝の心」についてアンケートを実施し、長期にわたる自己の行動をふり返る機会を設ける。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

①　授業のねらい（内容項目）に応じて、適切に資料を選定する。

②　LHR（ロングホームルーム）の時間に資料集を教材として活用し、読後に感想を交流する。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

①　各教科等の指導において、重点とする内容項目（思いやり・感謝）について生徒の姿をもとに評価する。

②　特に農業科の実習においては、振り返りの際に積極的に「思いやり、感謝」についての記述や感想を表出した思いを見取るようにする。

③　学校行事においても各活動の目的に照らして評価し、生徒の自尊感情を高めるよう働きかける。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

①　各科の先達であり、地域に根ざした農業従事者をはじめ、地域社会の発展に貢献している各産業従事者の話を聞く機会を設ける。

②　地域の伝統行事である早乙女踊りを継承、披露をする中で、地域に属する一員としての意識を芽生えさせ、興味関心を持たせることで、郷土を愛する心を育む。

③　「モラル・エッセイ」コンテストへの参加を通じて、社会の一員としての自分が存在する意義を考え、自己を見つめる機会とする。

④　小中学校の道徳科の授業を参観したり、本校の道徳教育の取組を公開したりして、小中高の相互理解を図る。

6「家庭・地域との連携」について

【学習のねらい】

これから各科の学習を進めていく１学年の生徒に対し、相手への敬意をもちながら地域の方の話を聞くことを通して、思いやりや感謝の心を育む。

【学習の概要】

１学年全体で行う交通安全講話において、「的確な判断をするために、物事について深く考えること」「相手のことを考えた行動をするために、思いやりや感謝の心をもつこと」について指導した。

その上で、地域の農業従事者や地域社会の発展に貢献している方を外部講師として各科を学ぶ意義について話を伺う機会を設けた。その中で、講話の前には交通安全講話で学んだことについて確認するとともに、外部講師から話を聞く態度（話者への思いやりの気もちをもって話を聞いているか）について外部講師からも評価をいただくようにした。

【成果と課題】

○　講話の際には、外部講師の話を真剣に聞く様子が見られた。小・中学校からの参観者からも「生徒の話を聞く態度がすばらしかった」という感想があった。

○　９月に実施した交通安全講話の際は、教師が指名することで感想を引き出していたが、それ以降に実施した外部講師の講話（１０月、１１月実施）の際には、生徒自らが挙手して講師に質問や感想を述べる姿が見られた。外部講師からも「話を聞く態度がすばらしい」との評価をいただくことができた。

●　相手への思いやりや感謝の心を態度や言葉で伝えることの大切さについて理解することができた生徒が多い。２学年、３学年ではそのことが他者との関係構築のためには必要であり、心の絆をより強くするのだということを気付かせるようにしたい。

7　成果と課題

○　今年度は対象を１学年とし、「思いやりと感謝の心」に重点をおいて指導に当たってきた。これから数多くの外部講師からの話を聞きながら専門科目の学習を進めたり、友達と協力しながら実習を行ったりする本校の生徒にとっては大変有意義であった。

○　重点項目を意識した言葉かけ（認め励ます評価）を普段の実習や各教科等の学習において１学年全体で指導をしたために、生徒の変容（聞く態度や感想文の質・量）について１学年を担当する教職員で共有することができた。

●　研究の成果を生かし道徳教育全体計画を見直し、学校としての重点項目を決めるとともに、学年ごとや、行事ごとでの重点項目を決めるなど、３年間の見通しをもって実践可能な道徳教育の推進を図っていきたい。

●　会津坂下町教育委員会のご協力のもと、小学校の道徳科の授業を参観させていただいたり、本校の取組を見ていただいたりする機会を設けることができた。今後も義務教育段階からの系統的な指導を行うため、小中高の連携を図っていきたい。

令和４年度　道徳教育全体計画

福島県立会津農林高等学校

本校の教育目標　「農業教育をとおして、たくましく、社会で生き抜く力の育成に努めます。」

道徳教育の目標(学習指導要領より(抜粋))

1　人間尊重の精神と、生命に対する畏敬の念を培う。
2　豊かな心を育む
3　伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間の育成。
4　他国の尊重と、国際社会の平和と発展、環境の保全に貢献する人間の育成。
5　未来を拓く主体性のある日本人の育成。
6　道徳性を養う。

道徳教育の取り組み

1　各教科における取り組み

教科	取り組み内容
国　語	言語感覚を磨き、科学的・論理的なものの見方や、自己肯定感を養う
数　学	論理的な思考力や表現力を育成し、道徳的判断力を養う
理　科	地球や生物の環境を学び、人間相互の協調性や思考力を学ぶ
社　会	地理や歴史の学習をとおし、他者の置かれている状況に共感できる人間を育てる
英　語	国際社会の平和や環境保全に貢献する態度を育成し、日本の良さを学ばせる
体　育	ルールに則った他者との協力や、グループとして問題解決に向かう態度を養う
芸　術	芸術文化を理解する個性や情操、自他を尊重する人格を育む
家　庭	生命の尊重や人権を守ることの意識を持たせる
農　業	動植物との関わりをとおして、生命や環境、他者への思いやりを学ばせる

2　学年における取り組み

１学年	①基本的生活習慣の定着　②基礎学力の向上 ③高校生としての悩みや問題の早期解決
２学年	①基本的生活習慣の定着　②基礎学力の向上 ③進路実現に向けた意識改革
３学年	①主体的な進路選択と決定　②進路に応じた学習の支援 ③社会人になるための基本的マナーの習得

3　学校組織としての取り組み

生徒指導部	①規範意識の向上②あいさつ励行 ③安全教育の徹底
教　務　部	①学習をとおした自己達成感醸成 ②学習に取り組む姿勢の指導
進路指導部	①進路意識の向上 ②キャリア教育の充実
厚　生　部	①公共のマナー習得 ②学習環境の整備
農　場　部	①命を育む②協働する姿勢の醸成

4　その他の取り組み

(1)地域との連携
①内　容　(1)町内の緑化活動(農業園芸科草花班・インターアクトクラブ)
(2)会津養護学校・坂下南小学校生徒の農作業体験(農業園芸科・生物活用選択者)
(3)早乙女踊りの継承と奉納(早乙女踊り保存クラブ)
②目　的　(1)ボランティア活動に参加し、「社会に貢献する心」や「人のために働く喜び」を知る。
(2)社会人の一員としての「よりよい判断と行動」ができる力を身につけさせる。
(3)伝統文化に触れ「郷土を愛する心」を醸成する。

(2)登校指導、服装・頭髪指導
①登校指導　○年間計画により年４回(各５日間登校時に実施)
○目　的　・登校時の駅舎、バス停利用など公共の場所における常識のあるマナーを指導
・制服の正しい着用、頭髪の整備など、高校生としてのモラルの指導
・生徒としてのあるべき姿を考えさせる指導
・挨拶や正しい言葉遣いの指導
②服装指導　○年間計画により年６回実施
○目　的　・制服の正しい着用、頭髪の整備など、高校生としてのモラルの指導
・会農生としての自覚を醸成する指導
・生徒としてあるべき姿を考えさせる指導

(3)学校行事
①行 事 名　志学会総会・スポーツ大会・芸術鑑賞教室・進路講演会・全校一斉読書
文化祭・収穫祭・修学旅行・遠足・校内研究発表会
②目　　的　・集団生活におけるルールとマナーの醸成
・友人や教師との絆を深める
・協調性や忍耐力を身につける
・生命の尊さを学ぶ
・学習の成果を発表する態度を養う

南会津地区道徳教育推進校「南会津町立田島第二小学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	南会津町立田島第二小学校
所在地	南会津町長野字於三段 340
校長名	白井　秀行
教育目標	思いやりのある子（徳） よく考える子　（知） たくましい子　（体）
学級及び児童生徒数	学　級　数　8 児童（生徒）数　７１名

2　研究テーマ

「自己を見つめ、他者とのつながりを大切にし、よりよく生きようとする子どもの育成」
～多様な考えを交流し「考え、議論する道徳」をめざして～

3　研究テーマ設定の理由

本校の児童は、明るく素直で伸び伸びしており、規範意識も高い。また、小規模校のよさを生かし、地域の特色や縦割り班活動を通して、自然と触れ合う楽しさや異学年の交流のよさを体験している。その反面、自主性や表現力、友人関係の固定化などが課題としてあげられる。そこで、道徳科の授業を要とし、話合いを通して多様な考えに触れ、自己を見つめることで児童一人一人によりよく生きようとする基盤である道徳性を養うことを目指し、研究テーマを設定した。

具体的には、道徳科の授業の中で発問や板書、ワークシートを工夫することで互いの考えを可視化し、対話や協働により相手のことを尊重しながら、物事を多面的・多角的に考えることを目指していく。その前提には、自己を見つめ、自己理解を図っておくことが重要である。他者との関わりから自己の考えを深め、よりよく生きようとすることにつながっていくと考える。

また、本校の教育目標では、最初に「思いやりのある子（徳）」を掲げ、学習指導や生徒指導をはじめ各種教育活動において、関連させながら目標達成を目指している。このことは、道徳教育においても共通することである。学校教育全体で取り組んでいる「思いやり」を育てる教育活動を道徳教育と明確に関連づけながら推進していくことも大切にしていきたいと考える。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
４月中旬～ ５月　６日（金） ５月２６日（木） ６月１０日（金） ７月　８日（金） ９月１６日（金） １０月３１日（月） １１月１１日（金） １２月	校内研修計画、道徳教育推進の検討 道徳の授業視察（過年度推進校） 研究推進委員会　本年度の研修計画 第１回現職教育委員会 校内授業研究会（５年） 指導助言者　南会津教育事務所主任指導主事　菅家　崇 校内授業研究会（１年） 講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様 道徳教育地区別推進協議会 公開授業　６年 指導助言者　福島県教育庁義務教育課 指導主事　肥沼志帆 田島中学校区四校連絡協議会での道徳授業公開 研究のまとめ	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成、活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

○　児童の実態や家庭・地域の願いを踏まえ、重点目標を設定し、全体計画を作成した。また、それをもとに各学年において「学級における特別の教科道徳指導計画」を作成し、学級の実態を考慮した指導ができるようにした。

○　今年度、学校全体の道徳教育の重点目標を「親切・思いやり」とし、教育活動全体を通して、相互に関連させながら取り組むようにしている。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

○　「特別の教科道徳」を現職教育の柱とし、全職員で授業研究を行いながら、組織的に取り組むようにした。

○　前年度作成した各学年の道徳教育の別葉に加え、今年度は、本校の重点目標である「親切・思いやり」について、ねらいと反省を記入できるような新たな別葉の活用を進めてきた。そのことにより、目指す子どもの姿を明確にしながら年間を通して指導することができた。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　児童の実態（アンケート等を活用）から本時で考えることを明確にした具体的なねらいの設定と思考を促すような課題提示の工夫

②　児童がより深く考えられるような「中心発問」及びそれに至る「補助発問」の工夫

③　多様な考えに触れ、自分の考えの深まりを実感できる振り返りの工夫（ワークシート、板書）

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

①　各学年の指導計画に位置づけ、関連教材として活用を図る。

児童は震災の記憶がなく、南会津は、直接的な被害は少なかったため、防災教育や「3.11 関連行事」等でも教師が体験談を話す教育活動を設ける。「ふくしま道徳教育資料集」は、その時の思いが伝わる内容であるため、積極的に活用し記憶を風化させないための取組をしていく。

②「ふくしま道徳教育資料集」を児童がいつでも読めるように学級文庫として、教室に配置する。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

①　授業を通して自分の考えが深まったことが分かるワークシートの工夫をする。

②　他者の考えが分かるような板書の工夫をするとともに、振り返りの時間を十分に確保する。

③　評価の視点を校内で研修することにより、適切な評価ができるようにする。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　学校便りや学年通信、ホームページ等で道徳科の授業実践における児童の様子を紹介し、道徳教育への関心を高める。

○　授業参観の機会に１年間に１回、全学年で道徳科の授業を公開し、保護者の関心を高める。

○　田島中学校区四校連絡協議会において、全学年道徳科の授業公開を実施し、本校の研究成果を広めるとともに、小中学校の教員が道徳教育についてともに考える機会とする。

○　各教科等でゲストティーチャーや地域人材を活用した際、計画的に道徳教育との関連を図る。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

コロナ禍で制限されることがある中で、地域・保護者・中学校区における学校間の連携を図りながら、児童の道徳性の育成を図る。

【概　要】

・情報の発信・・・学校ホームページ、学校通信、学年だより
・道徳科での児童の学びを家庭と共有・・・道徳科の授業参観（年１回）
　保護者アンケートの授業での活用
・田島中学校区における連携・・・全学年道徳科の授業公開
・子ども避難の家、見守り隊とのつながり、通学路清掃・・・あいさつ、御礼等

【成果と課題】

○　事前のアンケートや授業の振り返りを重視することにより、教材や友達との意見交流を通して、主題について自己をしっかり見つめ、深く考える児童の姿が多くなってきた。意見や感想等にも現れていた。
○　保護者への授業公開や保護者アンケートを授業の中で活用するなど、道徳科の授業への理解や児童の様子を見ていただくことができ、有意義であった。
○　中学校区での授業公開時に全学年道徳科の授業を行い、多くの先生方に参観していただいた。本校の今年度の研究についても発表することができ、成果を伝えることができる良い機会となった。
○　「通学路清掃・見守り隊へのお礼」の活動では、いつもお世話になっている見守り隊の方や避難の家を引き受けてくださっている方に感謝の気持ちを表す機会となっている。また、通学路清掃は、自分たちの使っている道路の清掃を行い、勤労の精神を育てることにつながっている。
●　コロナ禍でもできることは、少しずつ多くなってきているが、地域との関わりについては、制限されることがあるので、来年度は道徳科の授業と関連させた取組がもう少しできるようになることを願っている。

７　成果と課題

○　本校の教育目標の重点課題である「親切・思いやり」に焦点をあて、別葉を作成したので、各種教育活動及び各教科と関連を図りながら取り組むことができた。
○　授業実践を重ねるごとに、導入の工夫（事前アンケートの効果的な活用）やめあての設定の仕方、中心発問、効果的な板書などを研究し、授業の展開が価値に迫るものになるようにしてきた。
○　ネームプレートや心情円等を活用し、自己の考えを明確にすると共に他者の考えを視覚的に捉えながら、授業における道徳的価値について考えを深めることができた。
●　教材から考えたことを自分の生活の中で、どのように効果的に深めていくかを今後も研究していきたい。

令和４年度道徳教育全体計画

南会津町立田島第二小学校

児童の実態
- 明るく元気な児童が多い。
- 節度ある言葉遣いや思いやりのある言動がうまくできない。
- あきらめやすく根気強さにやや欠ける。

家庭・地域の願い
- 思いやりがあり素直な気持ちを持ち、正しく温かい言葉かけができる子ども

教師の願い
- 相手を思いやり、正しい言動ができる子ども

教育目標

○思いやりのある子
○よく考える子
○たくましい子

- 日本国憲法並びに教育関係法令等
- 学習指導要領
- 特別の教科　道徳の目標
- 県及び町の指導の重点
- いじめ防止対策推進法
- 自殺対策基本法
- 全体計画
- 運営ビジョンと一体化

家庭との連携
- ○ 学校だより
- ○ 学年だより
- ○ 連絡帳
- ○ 生活ノート
- ○ ＰＴＡ会報
- ○ 学年懇談会
- ○ 地区懇談会
- ○ 緊急時メール
- ○ ホームページ

本校の道徳教育の重点目標

◎　相手の立場に立って考え、誰に対しても思いやりの心をもって、助け合うことができる。
○　善悪の判断ができ、自分で考えて節度ある行動をとることができる。
○　誰に対しても公正、公平な態度で接することができる。

地域の教育力
- ○ あいさつ運動
- ○ 保護委員会
- ○ 南会津町教育大綱
- ○ 青少年育成町民会議
- ○ 学警連
- ○ 地区奉仕活動
- ○ 地区親子活動
- ○ 地区懇談会
- ○ 見守り隊

各学年の重点目標

低学年	◎　身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ◎　よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 ※重点目標 ◎親切、思いやり ◎善悪の判断、自律、自由と責任	中学年	◎　相手のことを思いやり、親切にする。 ◎　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にする。 ※重点内容 ◎親切、思いやり ◎相互理解、寛容	高学年	◎　誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。 ◎　働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをする。 ※重点内容 ◎親切、思いやり ◎勤労、公共の精神

各教科

国語	○ 自分の正しいと思うことをはっきりと述べたり人の話を聞いたりする。 ○ 文学作品伝記文の学習で豊かな心情を養う。
社会	○ 社会に対する正しい理解、道徳的判断力の基礎を養う。 ○ 国土に対する愛情や国民としての自覚を高める。
算数	○ 理論的な判断力を高める。 ○ 自主的･合理的な態度を養う。
理科	○ 自然の美しさや恩恵を知り、自然愛護や自然に対する関心を持たせる。 ○ 事実に対して真理を追究しようとする態度を養う。
生活	○ 具体的な活動や体験を重視し、基本的な生活習慣を身につけ、自立の基礎を養う。 ○ 物を大切に使用する態度を養う。
音楽	○ 音楽の美しさを味わって、優しい心や明るい潤いのある生活態度を養う。 ○ 楽器などの取り扱いを通して、公共物を大切にする態度を養う。
図工	○ 美に対する心情を養い、身の回りの美化に努める。 ○ 最後まで辛抱強く仕事をすることができる。 ○ 創造的な表現力を高め､個性の伸長を図る。
家庭	○ 家族の一員として互いに敬愛し、仕事を分担し協力して責任を果たすようにする。 ○ 日常の礼儀作法について理解し、実践に努める。 ○ 衣食住について合理的な生活ができるようにする。
体育	○ 困難に耐えて最後までやり抜こうとする態度を養う。 ○ 公正な態度でルールに従って勝敗を決めたりする態度を養う。 ○ スポーツを通して、責任を果たしたり協力したりする態度を養う。
外国語	○ 相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ○ 他国の人々や文化に親しみ、自覚をもって国際親善に努める。

特別の教科　道徳の時間

1　特別の教科道徳の目標や内容が日常生活に生かされるようにする。
2　一人ひとりが自己を見つめ道徳性が養われるようにする。
3　児童が多角的･多面的に考えられるよう指導を工夫する。
4　児童の内面を理解し、児童や学級の実態に応じた指導をする。
5　体験的な活動との関連を考えた指導をする。

総合的な学習の時間

○　横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を解決し、自己の生き方を考えていくことができるようにする。
○　探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画することができるようにする。

その他の学校教育

校内	校外
あいさつ運動 週のめあて 保健のめあて 一日の反省	登下校の指導 余暇指導 地区子ども会

生徒指導・学級経営

○　児童相互の好ましい人間関係や児童と教師の信頼関係を確立する。
- 温かい雰囲気の学級作り
- 安心して学習できる雰囲気作り
- 何でも話し合える学級作り

特別活動

A学級活動	学級や学校の生活を充実するとともに、基本的な生活習慣の形成や望ましい人間関係の育成等、健全な生活態度を養う。 ※キャリアパスポートの活用
B児童会活動	学級や学校生活に関する諸問題を解決する活動や学校生活を円滑にするための活動を自発的に行うことによって、自主性と社会性を養う。
Cクラブ活動	同好の者が共通の趣味や関心を追究する活動を通して自主性と社会性を養い、異学年同士の連帯を図るとともに各の個性の伸長を図る。
D学校行事	豊かな体験を通して、学校生活に潤いと充実感を与え、集団への所属感や連帯感を深め、集団行動の望ましい態度を養う。

別葉６年　親切・思いやり

＜各教科＞

国語
・視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう。　（４月）
・［コラム］伝えにくいことを伝える。　（１０月）

社会
・子育て支援の願いを実現する政治
・震災復興の願いを実現する政治（選択）　（５月）

家庭
・衣生活を楽しく　（１０月）

外国語
・日常生活について伝え合おう　（５月）
・食料を通して世界のつながりを考え、メニューを発表しよう。　（１１月）

＜特別活動＞

・１年生を迎える会　（４月）
・修学旅行　（６月）
・大掃除　（３月）
・６年生を送る会　（３月）
・卒業式　（３月）

題材：温かい行為が生まれるとき　（６月）

ねらい
相手の立場に立って、ふさわしい行動を考えることができる。

振り返りの後、児童が考えたこと
心や思いは行動に移さないと相手には伝わらない。

題材：おばあちゃんの指定席　（１０月）

ねらい
人間関係の深さを乗り越えた親切の難しさと良さに気付くことができる。

振り返りの後、児童が考えたこと
いろいろな人に親切にすることが大切。親切にしたりされたりすることで、優しさが広がっていく。

題材：最後のおくり物（１２月）

ねらい
誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすることについて考えを深める。

振り返りの後、児童が考えたこと
本当の親切とは、相手の立場に立って行動できること。相手のことを思うこと。

＜家庭との連携＞

・授業参観
　年１回授業参観での道徳の実施
・学年行事
・学校行事
・ホームページによる情報発信
・各種お便り
・家読の実施

＜地域との連携＞

・避難の家訪問　（４月）
・見守り隊顔合わせ　（４月）
・野外活動　（６月）
・ふれあい教室　（９月）
・通学路清掃　（１０月）
　見守り隊へのお礼　（１０月）

＜年間を通しての取り組み＞

・生活委員会でのあいさつ運動
・「思いやりルール」の実践
・たてわり活動

＜特別支援教育＞

・各学年での特別支援コーディネーターからの話　（６月）

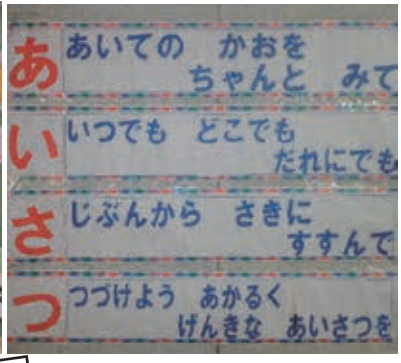
＜６年の目標＞
○だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

【資料】

（１）学校からの発信

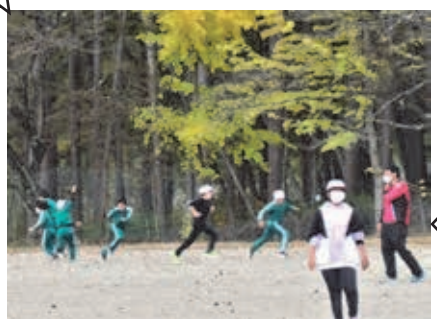
ホームページ・学校通信で地域・保護者へ本校の道徳教育について発信をしています。

（２）学校全体で取り組む道徳教育



学校全体で取り組んでいる「思いやりルール」や「あいさつ運動」を通して児童一人一人がよりよく生きようとする基盤作りに取り組んでいます。

児童集会での発表を通して、表現力育成に努めています。



異学年での交流活動を通して、幅広い人間関係の構築に努めています。

学校全体で取り組んでいる各種活動等を通して道徳教育を推進しています。

相双地区道徳教育推進校「富岡町立富岡小学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	富岡町立富岡小学校
所在地	双葉郡富岡町大字小浜 字中央２３７－２
校長名	武内　雅之
教育目標	・進んで考える子 ・相手を思いやる子 ・ねばり強く取り組む子
学級及び児童生徒数	学　級　数　　５ 児　童　数　　４２名

2　研究テーマ

色々な見方・考え方があることを知り、自己を見つめ直すことができる道徳科の授業

3　研究テーマ設定の理由

本校は令和４年度より統合し、新たに小中併設型・小中連携校として開校した。震災の影響を受けたが、町全体で教育に力を入れ、「コミュニティの拠点となる学校」となるべく、継続した取り組みがなされている。本校の教育目標である「よく聞き　よく考え伝え合おう　自分の思い」を踏まえながら、児童の道徳性を養うために、道徳科の授業の質的な向上をとおして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図っていく必要がある。そこで、道徳科の授業において、児童が自らを振り返り、多様な感じ方や考え方に接することを大切に考えたい。道徳的価値を自他との関わりの中で多面的・多角的に捉え、自分のこととして考えたりすることで、道徳性が養われていくと考える。

児童はこれまで、道徳科において自分の意見を表し、対話することに取り組んできた。その一方、本校の児童は集団での話合いや多くの人と関わる経験が少なく、自分の思いや考えを表出することに慣れていない。時に自己中心的な場面も見られ、他者の意見を尊重できなかったり、友だちの考えと比べたりすることが難しかったりする児童もいる。それらを踏まえ、小規模校の課題を乗り越え多様な考えに触れながら自分の価値観を見つめ直す道徳科の授業を展開したいと考え、本テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　考
４月１９日（火）	第１回全体会（全体計画、主題の共通理解）	
４月２６日（火）	第２回全体会（組織編成、計画立案）	
６月２０日（月）	第３回全体会（部会の計画立案・作業等）	
７月１５日（金）	６学年校内授業研究 講師　相双教育事務所　指導主事　山内　政俊	
９月　５日（月）	３学年校内授業研究 講師　秋田公立美術大学 副学長 毛内　嘉威様	
９月１２日（月）	第４回全体会（公開に向けた方向性の検討）	
１１月　２日（水）	第５回全体会（公開準備）	
１１月１１日（金）	道徳教育地区別推進協議会　２・４学年授業公開 講　　話　富岡町教育長　岩崎　秀一　様 指導助言　福島県教育庁義務教育課 指導主事　肥沼志帆	
１２月　６日（火）	第６回全体会（２学期実践のまとめ）	
１月２０日（金）	今年度の研究の反省	
２月１３日（月）	反省の共有・まとめの作成	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成、活用上の工夫点、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

○　校長の方針の下、教職員や保護者の願いを実現できるよう、道徳教育の重点目標を設定した。また、各学年の重点目標を設定し、全体会で確認し、共通理解を図ることで、授業の際に教師が意識して指導できるようにした。

○　別葉については、主題について各教科、学校行事、他学年との連携、他校との連携などを関連付けて捉えられるように工夫した。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

○　「実態に即した指導計画の整備と充実」「特別の教科である道徳の授業の充実」「評価の工夫」「家庭・地域社会との連携」の４つを柱とし、道徳教育の充実を図った。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　道徳的価値を多面的・多角的に捉えたり、考えを深めたりする問い返しの工夫

・　問題意識や疑問を生み出す発問をすることで、課題を自分事として捉えられるように工夫した。

・　多様な感じ方や考え方を引き出す発問をすることで、児童が多面的・多角的に考えを広げることができるように工夫した。

・　考える必然性や切実感のある発問をすることで、より明確に自己を見つめることができるように工夫した。

②　少人数学級ならではの話合いの工夫

・　必要に応じて教員が話合いに参加し話合いをコーディネートすることで、児童が本時の内容項目を様々な視点から考えられるようにした。

・　各学年に応じた発問を工夫することで、考える必然性をもたせられるように配慮した。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

①　年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」を全学年で位置づけ、本校の重点項目である「感謝」「親切・思いやり」に関わる教材を精選し、積極的な活用を図った。

②　本町は東日本大震災及び原子力発電所の事故の影響を大きく受けたが、現在の小学生は震災の記憶がない。そのため、道徳科において、当時の様子から学ぶ地域学習を充実させた。

③　教材を通して学習したことを、日常生活と結びつけて考えることができるよう配慮した。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

①　考え方が変わったこと、考えの幅が広がったことを振り返ることができるワークシートを作成した。（低学年：○をつけて振り返る、高学年：視点に沿って書く）

②　ワークシートをファイルに累積し、児童の評価につなげるようにした。

③　評価の視点や方法、評価のために集める資料などについて学年内、学校内で共通認識をもてるようにした。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　学年だよりや学校ホームページを通して、道徳の授業の様子や内容を保護者や地域に発信した。

○　保護者アンケートを実施し、家庭の声を資料として授業に取り入れた。

○　授業参観で、道徳の授業を公開し、懇談会で保護者に感想や意見を募り、今後の授業に生かした。

○　子どもと保護者、教職員が一体となって取り組んだレクリエーション活動では、地域の方が中心となって活動を企画・運営することで、学校と家庭・地域との連携が深まり、「コミュニティの拠点となる学校」としての意識が高まった。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

「コミュニティの拠点となる学校」をめざし、家庭・地域との連携を生かした道徳教育の充実を図る。

【概要】

・　学年だよりや学校ホームページを通して、道徳科の授業の様子や内容を保護者や地域に発信した。
・　道徳科の授業で保護者アンケートを実施し、家庭の声を積極的に授業に取り入れた。家庭で道徳科の学習の話題が挙がり、学校と家庭とのつながりをもつことができた。
・　授業参観で道徳科の授業を公開し、学校ではどのような道徳教育が行われているのか見ていただくことができた。また、懇談会で保護者に感想や意見を募り、授業に生かすことができた。
・　ボランティア活動や木工教室など地域の方とのかかわりを取り入れ、児童にとって体験的な活動を行った。また、体育科の授業では、スポーツ選手を講師として迎え、健康増進・体力向上を目指した。

【成果と課題】

○　家庭に向けた道徳アンケートを行うことで、保護者の道徳教育への関心を高めることができた。また、家庭の声を授業に生かすことで、児童が価値観について身近に捉えることができた。
○　教員以外の大人との体験的なかかわりが、児童の意欲を高め、主体的な学びにつながった。また、自然愛護の観点や地域の方への感謝の思い、苦しいときにやりきる気持ちなど道徳科の内容項目に関連した他教科等の指導につなげることができた。
●　道徳科の授業でゲストティーチャーの活用を積極的に行っていき、地域の方とかかわる機会をさらに増やしていきたい。

７　成果と課題

○　各学年でワークシートの累積を行ったことで、年間を通して児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価につなげることができた。
○　振り返りの時間を十分に確保したことで、自己を見つめる時間を充実させることができた。
○　担任だけではなく、全職員が一丸となって、道徳教育の充実を図ることができた。また、学校生活全体を通して一人一人を励まし、認める評価を行うことができた。
○　ＩＣＴ機器の活用やイラスト、写真の提示をすることで、視覚的にわかりやすく物事を捉えて考えられるようになり、自分の考えを表出する姿につながった。
●　少人数学級であることから、考えが広がりにくいことが課題である。さらに多面的・多角的に物事を捉えられるように、学年に応じた教材の選定や発問の工夫をしていく。

道 徳 教 育 全 体 計 画

富岡町立富岡小学校

○　日本国憲法
○　教育関係諸法規
・教育基本法
・学校教育法
・その他関係法規
○いじめ防止対策推進法
○学習指導要領

学校教育目標

富岡小学校
○進んで考える子ども
○相手を思いやる子
○ねばり強く取り組む子
～共通指導目標～
◎夢を見つけ生き生きと活動する
◇学びの基盤を固めるための知識・技能の着実な習得

保護者・教師の願い

・主体的に判断し、行動する力をつけてほしい。
・他者と協同し、学びを深めてほしい。
・継続して実践する粘り強さ、困難を乗り越える力をつけてほしい。
・進んで運動に親しんでほしい。
・基本的な生活習慣や学習習慣を身につけてほしい。

社 会 的 要 請

1　新しい社会の変化に対応できる豊かな心をはぐくみ、未来を拓く信頼される人間性を培うようにする。

2　たくましく生きる児童を育てるための心の教育の充実を目指して道徳教育の一層の充実と改善に努める。

重点目標

「よく聞き　よく考え　伝え合おう　自分の思い」

確かな学力（前向き）　豊かな心（笑顔・感謝）　健やかな体（元　気）

道 徳 教 育 の 重 点 目 標

1　自分の特徴を知り、長所を伸ばすとともに、短所を改める。【個性の伸長】
2　誰に対しても思いやりの心をもち、進んで親切にする。【親切・思いやり】
日頃お世話になっている方へ感謝し、それに応える。【感謝】
3　郷土を愛する心をもつ。【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
4　生命の尊さを知り、生命あるものを大切にする心をもつ。【生命の尊さ】

道 徳 教 育 の 充 実

1　実態に即した指導計画の整備と充実

・道徳教育の重点目標をもとに、学年ごとの指導の重点を系統的・発展的に設定し、内容項目の重点的な指導ができるようにする。

2　特別の教科である道徳の授業の充実

・児童一人一人が、より高められた道徳的価値観とのかかわりにおいて、自己を見つめ、生き方について発達段階に即して考え議論する道徳の実現に向けた授業の改善をする。
・「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳行為に関する体験的な学習」を目安にし、児童の心に響く多様な指導の工夫をする。
・ライブ授業を活用することで，互いの考えを認め合い、人間関係を深められるようにするとともに，考えを深める指導の工夫をする。

3　評価の工夫

・授業中の観察記録や児童の作文、授業の感想、活動のふり返り等、道徳ファイルを作成し、評価のための資料を収集して定期的・多面的に評価する。

4　家庭・地域社会との連携

・保護者や地域の人々と共に学ぶ道徳教育を目指し共通理解を深め、日常生活における道徳的体験を促すことに努める。

学 年 の 重 点 目 標

低学年	○自分の特徴に気付くこと。　【個性の伸長】A ○身近のいる人に温かい心で接し、親切にすること。　【親切、思いやり】B ○家族など日頃お世話になっている人々に感謝すること。　【感謝】B
中学年	○自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。　【個性の伸長】A ○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。　【親切、思いやり】B ○家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。　【感謝】B
高学年	○自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。　【個性の伸長】A ○誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。【親切、思いやり】B ○日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。　【感謝】B

児 童 の 実 態

○　素直で明るく思いやりがあり、学年の枠を越え、友だちと協力して学校生活を送っている。

○　目的を持って学習に取り組み、自分の考えを徐々に伝えることができるようになってきている。

●　基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない児童がいる。

●　様々な支援に対して、少しずつ感謝の気持ちを持つことができるようになってきたが、言葉や姿で伝えることが不十分な児童が多い。

●　東日本大震災や原発事故のため、ふるさとを離れて生活し、ふるさとについての知識や記憶が薄らいでいる児童が多い。

各教科・領域等における道徳教育（※別葉）

重点目標の具現化のために（道徳教育全体計画：別葉）

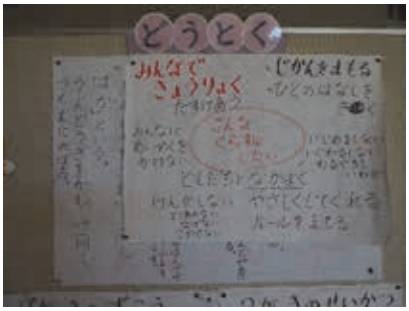
学年	4

重点目標	○自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。【個性の伸長】A ○相手のことを思いやり、進んで親切にすること。【親切、思いやり】B ◯家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。【感謝】B

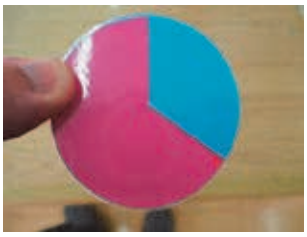
月	道徳科（主題名）	各教科	特別活動	外国語・総合	豊かな体験	基本的な生活習慣	教育環境	他学年との連携	他校との交流	家庭・地域との連携
4		森林学習（理）	入学式・開校式 バス・清掃指導 交通教室 1年生を迎える会 遠足	富岡町巡り（総） ALTとの挨拶・会話（通年） Hello,world.	自然体験（リブルンふくしま） 電車でのマナー	朝のあいさつ指導 昼の歯みがき指導	鉢花の世話 バスの正しい乗り方 正しい清掃のしかた	上級生との協力 ・1年生を迎える会 ・クラブ活動 ・委員会活動	ライブ授業 （葛尾小、なみえ創成）	学級便り 掲示コーナー 授業参観 Jヴィレッジ（遠足） もりの案内人（森林学習）
5	◎生活をささえてくれている人たち（B感謝）	県の広がり（社）	鑑賞教室 陸上壮行会（中学生/クリアT） 運動会 避難訓練		花壇の花の世話			他学年との協力 ・陸上壮行会 ・運動会（こども園・小・中） ・避難訓練		PinS（鑑賞教室） 千葉大生との交流（運動会）
6		体力テスト（体） 森林学習（理） 宿泊活動（総・行） 鮎の放流（総）	花いっぱい運動（クリアT） プール清掃 防犯教室		自然体験（リブルンふくしま） 宿泊活動（いわき海浜）	歯科指導教室（行事） 宿泊活動事前指導		他学年との協力 ・体力テスト（小・中） ・プール清掃（小・中） ・防犯教室（小・中）	宿泊活動（葛尾小）	双葉警察署
7	◎やさしい心、支援の輪（B感謝）	プール開き（体）	終業式				美化活動	他学年との協力 ・児童会 ・美化活動（小・中）		授業参観
8			絆づくり交流会（夏季休業中） 始業式					他学年との協力 ・クラブ活動		
9		3校合同水泳記録会（体） 秋の体験活動（総）			自然体験（いわなの里：川内）			他学年との協力 ・クラブ活動 ・児童会（永桜祭スローガン）	3校合同水泳記録会 （葛尾、川内）	授業参観（全学年道徳） もりの案内人（秋の体験活動）
10	◎自分を輝かせるために（A個性の伸長）	きょう土の伝統・文化と先人たち（社）	永桜祭 引き渡し訓練	木工工作学習（総）				他学年との協力 ・クラブ活動 ・ボランティア活動（小・中） ・永桜祭（小・中）		引き渡し訓練
11	◎友だちをしんじる（B親切、思いやり）	校内持久走記録会（体）			炊き出し給食（防災）			他学年との協力 ・クラブ活動		町合同避難訓練 自由参観 個別懇談
12	◎本当の思いやり（B親切、思いやり）		ふるさと創造学サミット 終業式				美化活動	他学年との協力 ・クラブ活動 ・児童会 ・美化活動（小・中）	ふるさと創造学サミット（双葉郡内の小中学校）	
1	かんしゃの心※（B感謝）	なわとび記録会（体） 森林学習（理） 特色ある地いきと人々のくらし（社） 地いきに伝わる音楽でつながろう（音）	始業式		自然体験（リブルンふくしま）					もりの案内人（森林学習）
2		長なわ交流会（体）	バイキング給食					他学年との協力 ・児童会（6年生を送る会準備）	長なわ交流会（葛尾）	授業参観
3		生き物の1年をふり返って（理）	感謝の会（児） もうすぐ5年生（学） 修・卒業式				美化活動	他学年との協力 ・児童会（6年生を送る会）		

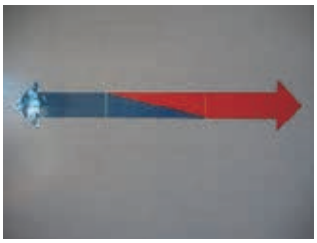
【資料】

＜道徳コーナー＞

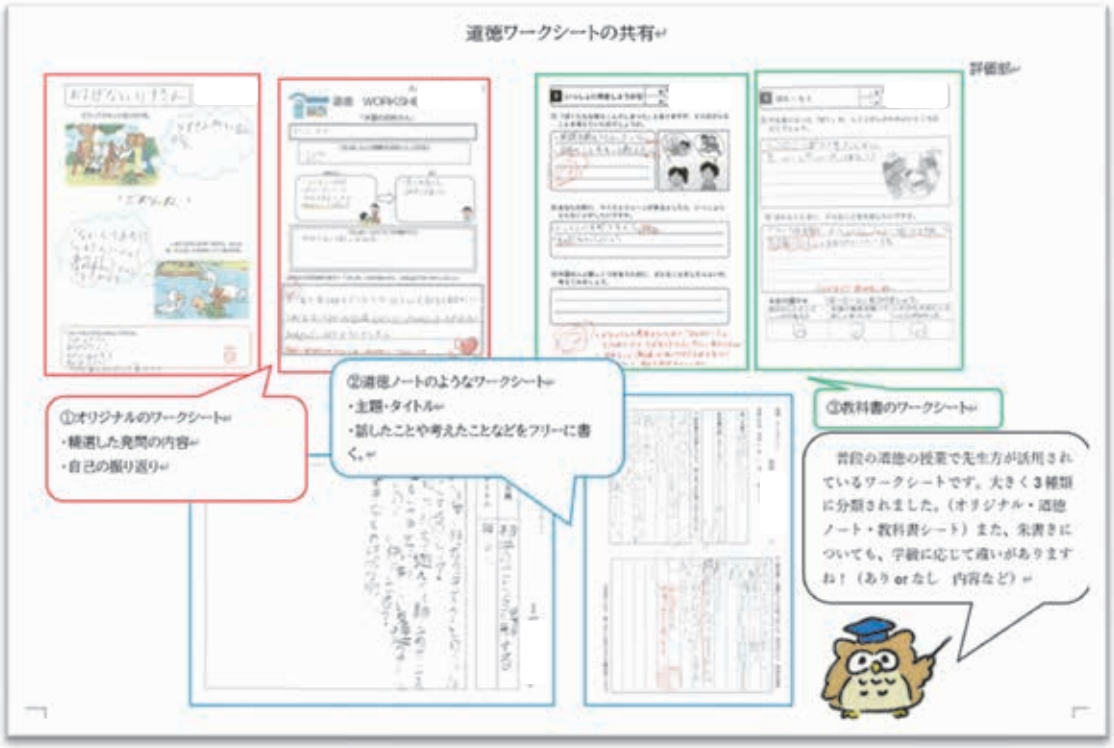


＜心情ツール＞

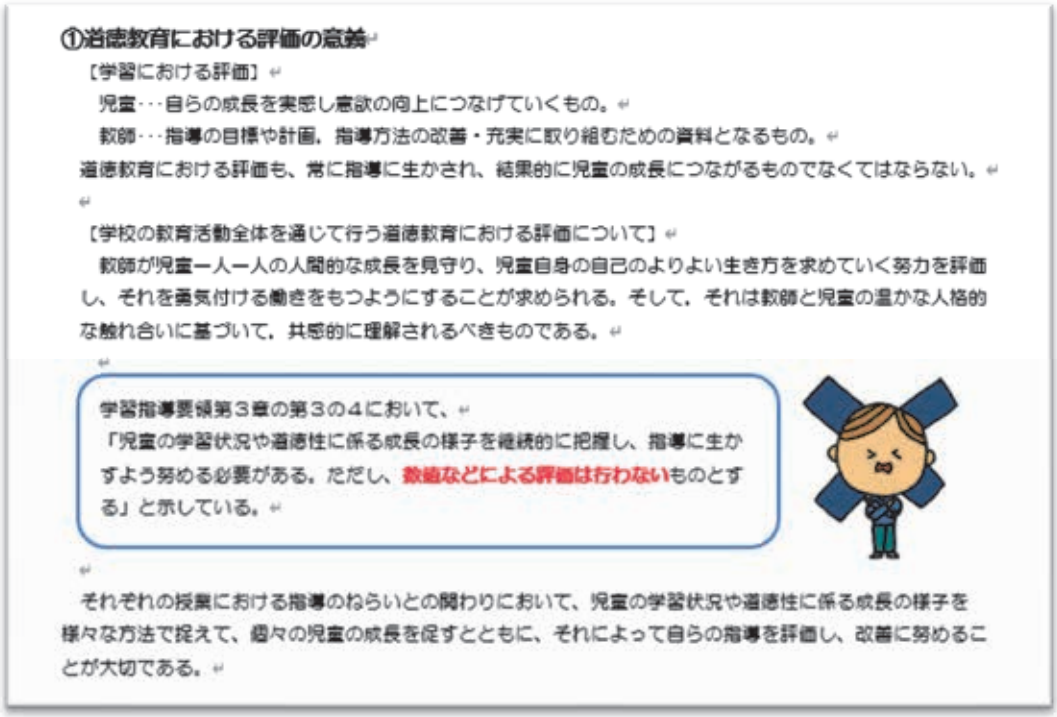




＜ワークシートの共有化＞



＜評価について研究＞



①道徳教育における評価の意義

【学習における評価】

児童･･･自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの。

教師･･･指導の目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの。

道徳教育における評価も、常に指導に生かされ、結果的に児童の成長につながるものでなくてはならない。

【学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価について】

教師が児童一人一人の人間的な成長を見守り、児童自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。そして，それは教師と児童の温かな人格的な触れ合いに基づいて，共感的に理解されるべきものである。

学習指導要領第３章の第３の４において、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、**数値などによる評価は行わない**ものとする」と示している。

それぞれの授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、日々の児童の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、改善に努めることが大切である。

いわき地区道徳教育推進校「いわき市立小川小学校」実施報告書

1　学校紹介

学　校　名	いわき市立小川小学校
所　在　地	いわき市小川町上平字田之尻４
校　長　名	石澤　悟
教育目標	おもいやりを深める子ども がんばりを認め合う子ども わたしから身体をきたえる子ども
学級数及び 児童生徒数	学級数　８ 児童数　１５９名

2　研究テーマ

自分に自信をもち、よりよい未来に向けてがんばる児童の育成
～自己を見つめて、考えを深め、表現する道徳教育を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、「豊かな感性、たくましさ、正しく判断する力をもち、進んで実践する児童の育成」を実現するため、「おもいやりを深める子ども」「がんばりを認め合う子ども」「わたしから身体をきたえる子ども」の３つの教育目標を定めている。あいさつ運動や、ＪＡ学習協力など、地域全体で児童を育てようとする地域力もあり、学校の諸活動に積極的に協力する姿が多く見られる。

児童は、明るく素直で、学習活動全般に真面目に取り組んでいる。また、縦割り班活動などを通して、下の学年の児童を思いやる心も育っている。しかし、自ら進んで主体的に取り組む姿が少なく、消極的で受け身になる傾向が見られる。全学年単学級で、人間関係が固定化されてしまっている影響からか、自己肯定感が低く、うまく自分を表現できず「自分はダメなんだ」と考えてしまう児童も少なくない。そのため、他者との対話を通して、いろいろな考えがあることに気付き、より深く考えることで、自分自身を認められる児童を育成したい。さらには、学校生活全般において、「頑張った体験」「できるようになった体験」を積み重ねていくことで、自分に自信をもてるようにしていきたい。

そこで、教育活動全体を通して自己の意思決定や振り返りの場面を設定したり、互いに承認し合う活動を位置づけたりすることで、表現することの大切さや自分自身のよさに気付くことができるようにする。さらに、道徳科の授業においては「希望と勇気」を重点内容項目に、自己を見つめる場面に手立てを講じることにより、自分に自信がもてるような児童を育むことを目指し、本研究テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
４月　８日（金）	全体会
４月１５日（金）	全体会、各部会による研究内容についての検討
７月　１日（金）	授業参観での道徳の授業の実施
７月１５日（金）	講師による校内研修 講師：福島県教育庁いわき教育事務所 指導主事　阿部美紀
９月　２日（金）	第１回校内授業研究会（第４学年） 講師：福島県教育庁義務教育課 指導主事　肥沼志帆 福島県教育庁いわき教育事務所 指導主事　阿部美紀
９月３０日（金）	第２回校内授業研究会（第１学年） 講師：福島県教育庁義務教育課 指導主事　肥沼志帆

１０月　７日（金）	第３回校内授業研究会（第３学年） 講師：福島県教育庁いわき教育事務所　指導主事 阿部美紀 いわき市小教研道徳科部理事（５名）
１１月　９日（水）	道徳地区別推進協議会【いわき地区】（第２・４・６学年）
１２～２月頃	全体会 今年度の実践の振り返りと来年度への計画立案 等

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育全体計画及び別葉の作成上、活用上の工夫、配慮について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

① 道徳教育全体計画については、教育目標を目指し、地域や保護者、教師の願いをもとに、今年度の重点を定めて作成する。

② 別葉については、学年ごとに定めた重点内容項目について、他教科・学校行事・特別活動・総合的な学習の時間との関連を明確にして作成する。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

① 作成した別葉を週案等に綴じ込むことで、常に意識して取り組んだり、授業を振り返って記録をしたりできるようにする。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

① 他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるような、構造的な板書を工夫する。

② 自己を見つめる時間を重視し、振り返りの時間を毎時間 10～15 分確保する。ワークシートに書かせることでじっくりと自分の考えを表出できるようにする。

③ 思考の見える化を図り、話し合いが活発にできるように思考ツールを活用する。

④ 本時で考える価値について、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせて考えられるような発問を設定する。

⑤ 自分の考えを書いたり話したりすることに課題をもつ児童への見取りや言葉かけについて工夫する。

【視点３】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

① 年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」を教材として扱う時間を、全学年で位置づけている。震災当時の記憶のある児童がいない中で、何を大切にしてどのように取り扱うか、校内で共通理解を図りながら進める。

【視点４】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

① 一人一人の発言等を受容的・共感的な姿勢で受け止めるようにする。

② 授業で使用したワークシートや、行事等に係る記録について、児童一人一人の道徳ファイルに蓄積し、児童自身の成長の自覚や教師の評価に生かす。

③ 評価については校内で共通理解を図る。児童の成長を複数の目で見取り、情報共有を図るなどして評価の充実を目指す。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

① ワークシートへの家庭からの返信等をお願いするなど、家庭との連携を図る。

② 授業参観で、道徳科の授業を公開する。

③ 学年だよりや学校ＨＰを通して、道徳の授業の様子や児童の考え等を地域や保護者に伝える。

④ 保護者へのアンケートを実施・分析し、フィードバックすることを通して、道徳教育への保護者の関心を高める。

⑤ 公民館や地域の関係団体・ＰＴＡと連携し、地域人材の活用を図る。

６　「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

家庭との連携を図ることで、家庭の意識を高めるとともに児童の自己肯定感を高める。

【概要】

授業や学校行事等での取り組みについて、家庭との連携を図りながら、以下の手立てをもとに児童の成長を見つめる。

・　ワークシートや行事の振り返りカードに家庭からの返信欄を設ける。
・　学級だよりや学校だより等において、道徳科授業の様子、児童の考え、家庭からのコメント等を掲載する。
・　年２回の道徳科アンケートの実施
・　授業参観での道徳科授業の実施

【成果と課題】

○　ワークシートへの家庭からの返信欄を設け、記入していただいた。それを学級だよりや学校だより等に掲載した。また、個別懇談会期間中に校内に掲示し、学校全体の取り組みを知っていただく機会とした。
○　家庭との連携を図っていくことで、家庭の意識も高まってきた。児童を褒め認めるコメントが増え、児童から「ほめてもらった」という言葉が聞かれるようになった。また、保護者の言葉がプリントに残ることで、繰り返し読む児童もいた。
○　学習発表会時にはQRコードを提示し「ほめ言葉のシャワー」をお願いした。多くの保護者の方からコメントをいただくことができた。また、いただいたコメントは掲示し、児童の目に触れるようにした。
●　公民館や地域の関係団体等との連携を十分に図ることができなかった。内容項目と関連している活動や人材をピックアップし、授業と関連付けて年間指導計画を工夫していきたい。

７　成果と課題

○　児童の実態に沿った思考ツールを用いたことで、考えの可視化、「友達の考えを聞いてみたい」「自分の考えを発表したい」という思いを強くもてるようになった。
○　道徳ファイルを用いて、ワークシートの累積をしたことで、児童一人ひとりを受け止めて認め、励ます評価につながった。また、児童自身も考えの変容にふれることができた。
○　道徳科の授業はもちろん、教育活動全体を通して、道徳教育を行ってきた。それにより、教職員が一丸となって道徳教育を行うことができた。また、児童は、学校生活や行事等においても、めあてをもって活動し、達成感を味わうことができるようになった。
○　本年度は「勇気と希望　努力と強い意志」を重点テーマとし、実践してきた。各学年で別葉を作成し、各教科・行事等との関連を図りながら１年間指導を行うことができた。
○　「ふくしま道徳教育資料集」について教育課程に位置づけ、活用した。震災を体験していない児童が震災についてより実感できるように保護者からも話をしてもらうようにしたことで、より身近なこととして考えていた。
●　評価については、ワークシートの記述や授業での発言・発表等だけではなく、道徳的実践や道徳性の成長についても見取っていけるようにしたい。学級担任だけではなく、全職員で児童の成長を見守っていけるようにしたい。
●　思考ツールの活用については今後も検討していく。児童の微妙な捉え方について集約が難しいので、どの場面で用いるか考えていきたい。

道徳教育の学校における全体計画

いわき市立 小川 小学校

◇日本国憲法
◇教育基本法
◇学校教育法
◇学習指導要領
◇児童憲章
◇いじめ防止対策推進法
など

・地域の人達との関わりを知り、住みやすい地域が守られていることを知ると共に、その一員として自分ができることを率先して取り組んでいけるようにする。

県資料『絆』について
・道徳の時間の一部で補助的に用いたり、各教科の学習内容と関連させて活用を図る。
・学校や家庭の日常生活の中で、児童が自主的に活用するように促す。

学校の教育目標

豊かな感性、たくましさ、正しく判断する力を持ち、
進んで実践する児童の育成
おもいを深める子ども(知)
がんばりを認め合う子ども(徳)
わたしから身体をきたえる子ども(体)

・児童は、縦割り班活動などを通して思いやりをもったり、協力して学校生活を送ったりするなど集団活動の大切さを知っている。
・望ましい生活習慣の定着のための家庭の役割や働きかけを重視する。

道徳教育の重点目標

おもいを深める子ども(知)
学習に主体的に取り組み、自分の考えを深めることができる児童の育成

がんばりを認め合う子ども(徳)
思いやりのある行動をし、互いに認め合う児童の育成

わたしから身体をきたえる子ども(体)
自分で考え、自分の健康(心と体)を守る児童の育成

総合的な学習の時間における道徳教育
・自然体験やボランティア活動等の社会体験を通して、道徳的実践力を育てる。

各学年の内容項目

低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)
・善悪の判断,自律,自由と責任 A-(1) ・希望と勇気，努力と強い意志 A-(5)	・希望と勇気，努力と強い意志 A-(5) ・節度，節制 A-(3)	・希望と勇気，努力と強い意志 A-(5) ・礼儀 B-(9) ・よりよい学校生活，集団生活の充実 C-(16)

特別活動における道徳教育

学級活動	・話し合い活動や係活動を通して、学級生活の向上を図り、思いやりの心をもち、望ましい人間関係を育てる。
児童会活動	・学校生活の向上のために全校児童のことを考え、互いの創意を生かして課題解決に取り組む態度を育てる。
クラブ活動	・共通の興味関心を追求する活動を通して、協力し合う態度や思いやりの心を育てる。
学校行事	・行事への自主的積極的な参加を通して、集団の一員としての自覚を深め、道徳的実践意欲を高める。

各教科における道徳教育

国語	道徳的心情を養う基礎となる思考力、想像力、言語感覚を養う。物語文などを通して、登場人物の心情を読みとり、豊かな人間関係づくりの基礎を築く。
社会	地域社会に対する誇りと愛情を育てる。我が国の国土と歴史を理解し、それらへの愛情を育てる。
算数	日常の事象を見通しをもち、筋道を立てて考え、数理的に処理する力を養うとともに、工夫して生活をよりよくしようとする態度を育てる。
理科	自然との触れ合いや飼育や栽培などの体験活動を通して、生命を尊重し、真理を追究する態度を育てる。
生活	自然や人とかかわる活動を通して生命を大切にしたり、相手のことを思いやったりする心情を養う。
音楽	表現、鑑賞活動を通して、音楽に対する感性を育て、美しいものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	造形的な創造活動を通して、表現する喜びを味わい、自他の個性を感じとり、協力し合って活動する態度を育てる。
家庭	家族の一員としての役割を認識し、家庭生活向上への実践意欲や、家族を大切にしようとする心情を養う。
体育	心身の健康・安全への理解を深め、自他の心身を大切にしようとする心情や、協力し合って活動する態度を育てる。

特別の教科 道徳 の指導方針

・児童の道徳的価値の自覚を促し，道徳的実践意欲と態度を育成するよう，多面的多角的に考えることができるような指導の工夫。
・豊かな体験活動と関連づけ、主体的に自分との関わりで考えることができるような指導の工夫。
・教材活用の工夫。

特色ある教育活動や体験活動
・授業や学級活動など、学校におけるすべての教育活動において、道徳的実践を促す他，自然、人、社会との触れ合いの場を設けるなど、豊かな体験の場を計画的に設定する。

学校における教育環境の整備
・校庭・校舎内の美化に努め、季節感のある自然環境づくりをする。
・児童相互、教師と児童の豊かな言語環境を整える。

生活全般における指導
・教師と児童、児童相互の心の交流を図り、児童一人一人が意欲をもって将来を展望できるよう援助する。
・課題を抱えた児童に対しては、学年、学校全体で組織的に取り組む。

他の学校や教育機関との連携
・保育園・幼稚園・中学校などとの情報交換を密にし、児童の実態をつかみ、定期的な交流を通して関連を深める。

家庭・地域社会との連携
・学校・家庭・地域が連携し、情報を共有するとともに、学校公開日を設けたり、「学校だより」などを発行したりすることを通して、児童の心を育てる共通の役割を担う者としての相互理解を図る。

外国語活動における道徳教育
・外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに、言語や文化について体験的に理解を深めることで、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。

令和４年度別葉　４年

A希望と勇気、努力と強い意志

道徳科

	教科	行事・特活等
4月	(社)都道府県	(学)４年生になって 縦割り清掃・委員会・クラブ・登校班 (行)登校班集会 学力テスト (行)春の遠足
5月	(算)わり算の筆算	(行)運動会
6月	(国)つなぎ言葉のはたらき (体)水泳	(児)陸上激励会
7月 8月	(算)考える力を伸ばそう (音)めざせ、楽器名人	(児)七夕集会 (ふ)登校班集会 (学)２学期の目標
9月	(音)曲にあった歌い方	
10月		(行)学習発表会
11月		(行)持久走記録会
12月		
1月	(国)ウナギのなぞを追って	(学)３学期の目標
2月	(算)どんな計算になるのかな	(児)豆まき集会 学力テスト
3月	(算) ４年のふくしゅう	(児)６年生を送る会 (学)もうすぐ５年生 (ふ)登校班集会 (行)卒業式

4月	ぼくのへんしん
ねらい	自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり抜こうとする態度を育てる。
反省	「くじけず最後までがんばればいいことがある」「自分だったらあきらめてしまう」などと考えている児童が多くいた。

⇩

9月	きっとできる
ねらい	自分の決めた目標に向かい強い意志をもって粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。
反省	心情ものさしを用いながら、意見交流を行ったことで、友達の考えを聞きたいと考える児童が多くいた。

⇩

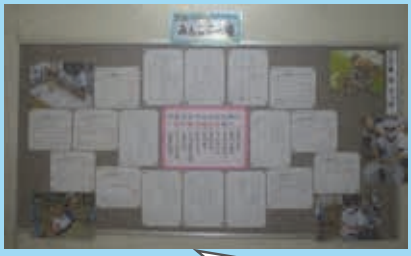
11月	花丸手帳 ～水泳・池江璃花子選手
ねらい	自分で決めた目標の実現を目指して、強い心をもち、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。
反省	児童の考えを大切にして授業を行ったことで、多くの児童が発言するようになった。児童の発言をすべて板書していったので、精選していきたい。

※授業参観で、年１回は道徳を実施。

☆道徳ファイルを保護者と共有し、次学期(年度)への意欲づけを図る。

	家庭・地域
4月	※授業参観
5月	運動会
6月	
7月 8月	※授業参観 ☆道徳ファイル持ち帰り 小川町七夕祭り
9月	
10月	学習発表会
11月	個別懇談会 持久走記録会
12月	☆道徳ファイル持ち帰り
1月	
2月	※授業参観
3月	☆道徳ファイル持ち帰り 卒業式

【資料】



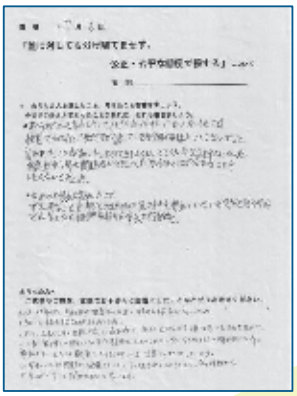
みんなの広場
　毎月、学年ごとに頑張ったことや授業で取り組んだことの掲示

学年によるあいさつ運動

１年生を迎える会

花さき山
「友達のすてきなところ」を見つけ、カードに記入。週１回校内放送で紹介

家庭と共に考える道徳
　ワークシートやがんばりカードに家庭からの欄を設ける。記入後は道徳ファイルへ累積する。



学校

自分に自信をもち、
よりよい未来に向けて
がんばる児童の育成

クリーン活動

地域の方と共に

家庭

地域

家庭と共に

授業参観

風呂敷講座

インタビュー

ふれあいチャレンジ
　家庭での生活習慣の見直しと定着に向けた取り組み

学習発表会
　保護者へ向けて、アンケートの実施

松陽中学校第１学年１組　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年１２月１日（木）第２校時
授業者：伊達市立松陽中学校　教諭　枝並　千佳子

授業テーマ	主人公の心の変化について考えることを通して、相手の立場や気持ちに配慮した思いやりについての考えを深めることができる授業

１　主題名　その人が本当に望んでいること　　B−（６）　思いやり、感謝

２　教材名　「思いやりの日々」　（出典：「新訂　新しい道徳１」東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

思いやりと感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。思いやりとは、単に人に何かを施してあげることではない。黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。その心の根底には、相手の気持ちを推し量り、その人のためを思う、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。人間は様々な社会集団に所属し、その一員として協力し合わねば、生きることや成長すること、生活を豊かにすることができない。人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深め、模索し続けることが必要である。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

中学１年生ともなると、人間愛に基づく他者との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。６月実施のアンケートの結果では、「相手のことを思いやり、親切にしている」に対して肯定的な評価は８９％であった。しかし、仲のよい友達の間では思いやりのある言葉を掛け合うことがあっても、そうではない友達には無関心な様子が見られることもある。また、相手の気持ちを考えない言動もまだまだ多い。中学校生活にも慣れ、特定の人間関係が出来上がってきたこの時期に、相手の気持ちを考えた思いやりとは何かを深く考え、自分も他者も、誰もが共にかけがえのない存在であることを自覚できるようにしたい。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、自分の思いを通してしまい、妻の思いを十分に理解できなかった後悔を踏まえ、相手の意思を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする主人公の和威さんの新たな関わり方が描かれている。後半では、何から何まで手を差し伸べるのではなく、相手の思いや未来のことまで考えて、見守ることで思いやりを行動に表す和威さんが描かれている。和威さんの変化の理由について考えることを通して、本当の思いやりとは何かを考えることができる教材である。

導入では、生徒がこれまで思いやりをもって接してきた場面を想起させながら、思いやりには様々な捉え方があることに気付かせることで、本時の学習問題を自分事として捉え、思いやりに対する問題意識を高めることができるようにする。展開では、和威さんが妻や道子さんに対してどのような気持ちで接していたのか共感的に押さえる。中心発問では、相手の受け止め方の違いについて、全体でじっくりと考えることができるようにしたい。「見守るだけで思いやりと言えるのか。」等、ゆさぶりの発問を投げかけ、多様な考えを引き出すことで、本当の思いやりとは何かについての考えを深めていきたい。そのうえで、これまでの自分が、相手の立場や気持ちを考えて行動できていたかについて具体的に見つめなおす時間を、十分に確保できるようにする。

４　本時のねらい

障がいをもつ人と関わった主人公の気持ちを考えることを通して、本当の思いやりとは何かを理解し、相手の立場や気持ちに配慮した思いやりの心をもってともに生きようとする心情を育てる。

５　実際の板書

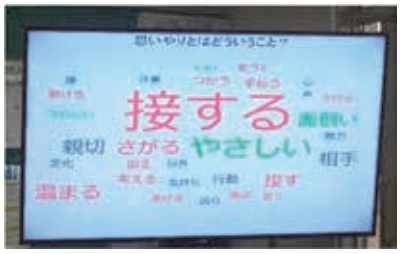
6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間 形態	○　教師の支援　※　評価
導入	1　本時のテーマを設定する。 ○　あなたは相手のことを思いやり、親切にしたことがありますか。 ○　友達を思いやったつもりで失敗してしまったことや、嫌な思いをした経験はありますか。 ○　「思いやり」とは相手にどうすることだと考えますか。 本当の思いやりって、どういうことかな。	5 全体	○　事前アンケートで「思いやりとは、相手にどう接することか」を記入させたものをテキストマイニングで表示する。 ○　思いやりには様々な捉え方があること気付かせることで、本時の学習問題を自分事として捉え、本時のねらいとする価値に対する問題意識を高める。
展開	2　教師による「思いやりの日々」の範読を聞いて、話し合う。 ○　和威さんは二人とどんな気持ちで接していたかな。 喜美世さんとの場面 ・　病気の妻を支えてあげたい。 ・　今までの恩返しをしたい。 道子さんとの場面 ・　見守っていても、自分でできれば自信につながる。 ・　これからの生活のことを考えている。 ◎　どちらの場面が、本当の思いやりと言えるかな。 喜美世さんとの場面 ・　病気の妻を支えてあげたい気持ちが行動に表れている。 ・　喜美世さんの気持ちを聞いていない。 ・　相手に伝わっていない。 道子さんとの場面 ・　道子さんと、同じことを思っている。 ・　相手の気持ちを先に考えている。 ・　見守るだけだが、相手のことを考えている。	２５ 全体 (10) (15)	○　範読の前に二つの場面の挿絵を提示し、簡単なあらすじを紹介することで、登場人物の気持ちを想像しやすくする。 ○　生徒から、和威さんのそれぞれ二人への気持ちを引き出し、和威さんの関わり方の変化による、喜美世さんと道子さんの反応の違いを可視化できるように、二つの場面を対比できる板書を構成する。 ○　どちらの場面が本当の思いやりと考えるのかについてネームカードで示し、立場を明確にする。また、その理由について、考えを十分に交流できるようにする。 ○　「相手が喜んでいなくても、できないことを助けることは思いやりと言えるのではないか」や、「見守るだけで関わっていないのに思いやりと言えるのか」等を問い返すことで、生徒の心をゆさぶり、考えを深めることができるようにする。 ○　見守る思いやりと手を差し伸べる思いやりを比較することで、思いやりの根底にある道徳的価値（人間愛）の理解を深められるようにする。 ※　「本当の思いやり」だと考える理由について、自分の考えと友達の考えを比べて考えている。　（発表、ネームプレート）
終末	3　今までの自分の生活を振り返り、本当の思いやりについて考える。 ◎　和威さんのように、相手の立場や気持ちを考えて相手を思いやることができたことはあるかな。 ・　困っていることを一緒に手伝ってあげた。 ・　落ち込んでいる人に声をかけた。 ・　やさしく声をかけたけれど、相手の気持ちは聞けてなかったかもしれない。 ○　「本当の思いやり」とは、どういうことだろうか。 ・　相手の立場や気持ちを考えることが大切。 ・　相手が「ありがとう」と心から思えるようなこと。 4　教師の説話を聞く。	２０ 全体	○　自分自身の生活における「思いやり」について考え、振り返ったことを道徳ノートに書くことができるようにする。 ○　数名の生徒に振り返った体験について発表させ、自分の考えをまとめられない生徒も、友達の発表を参考に自分を見つめ、具体的に書くことができるようにする。 ○　文化祭時の「感謝の付箋交換」や「グリーンカードの交換」を思い出し、互いのよさを認め合うことで、自己肯定感を高めることができるようにする。 ※　自分が考える「本当の思いやり」ができた経験について、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。　（発表、記述）

7　考察

自他の考え方・感じ方を受けとめる（多面的・多角的に考える）及び自己を見つめなおす（自己を見つめる）指導の工夫の視点から

（１）自他の考え方・感じ方を受けとめる（多面的・多角的に考える）について



○　喜美世さんと道子さんの二つの場面を比べ、「どちらが本当の思いやりなのか」を全体で議論する際に、黒板にネームプレートを位置付けることで、立場を明確にすることができた。また、様々な理由について引き出すことで、思いやりに対する考えを広げたり深めたりすることができた。

○　中心発問に対する生徒の反応をあらかじめ想定し、ゆさぶりの発問を複数用意していたことで、思いやりに対する考えをさらに深めることができた。また、二つの思いやりを比較する内容の発言を基に、生徒の発言をつないでいくことで、本時のねらいとする価値にぐっと迫ることができた。

●　円座の形にすることで、自分の意見を安心して発表できるようにした。全体での話合いの際、生徒の考えを教師が受けとめて、他の生徒につなぐ場面がまだまだ多かった。今後は、生徒が互いの意見を受けて、積極的に発表できるようにしていきたい。

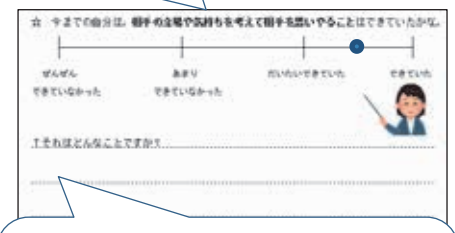
（２）自己を見つめなおす（自己を見つめる）について

○　これまでの体験を振り返る前に、「本当の思いやりとはどういうことか」を考えることで、自分が考えた思いやりについて、整理できるようにした。

○　生徒は、「相手がどう受けとめたか」を基準に、自分の経験を具体的に振り返ることができた。なかなか思い浮かばない生徒に対しては、自分が思いやりの心を相手に向けていたかという意識がなくても、相手が喜んでいたことなどを思い浮かべるように促したところ、自分の思いやりにつながる行為を想起することができた。また、生徒の記述より、自分自身の行為を肯定的に受けとめていることが、推察された。

●　振り返りの時間を２０分で計画していたが、１３分程度となってしまったため、各自が振り返ったことを共有する時間が取れずに残念だった。生徒が振り返ったよさを、互いに認め合う時間も大切にしていきたい。

〈本当の思いやりとは…〉
相手のことを考えて、相手が自分でやるという時はその人に任せて、どうしても出来ないことだけ手伝うのが本当の思いやりだと思う。



小学生の頃、低学年の子と遊ぶことがあって、その低学年の子が自分でやりたいと言っていたから、一人でやらせてみたら、あまりできていなかった。だから私は、「大丈夫？」と言って励ましながら少し手伝いました。

子ども一人一人を受けとめて、認め励ます評価の視点から

（１）学習状況について

表出された生徒の考えのよさについて、まずは教師が受けとめることが大切であることを実感することができた。

（２）道徳性に係る成長の様子について

今後も、生徒一人一人の考えを大切にし、それらの考えを意図的に紡いでいきたい。また、道徳科以外の時間においても、相手の気持ちを考えた思いやりについて考える機会を意識して設定することで、生徒が自分も他者も誰もが共にかけがえのない存在であることを自覚できるようにしていきたい。

小野中学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和4年11月21日（月）第3校時
授業者：小野町立小野中学校　教諭　佐藤　直

授業テーマ	集団の一員としての役割や責任について話し合うことを通して、互いに協力して励まし合い集団生活を向上させようとする態度を育てる授業

1　主題名　よりよいクラス活動を目指して　C－(15)よりよい学校生活、集団生活の充実
（A－(１)自主、自立、自由と責任）

2　教材名「全校一を目指して」（出典：東京書籍「新しい道徳１」）

3　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よりよい集団活動を行うためには、各自の役割や責任を正しく理解して、協力して励まし合う関係づくりが必要である。空き缶回収活動の問題点についての話し合いを通して、集団の一員としての役割や責任、協力したり励まし合ったりする雰囲気づくりについて考えを深めたい。

（２）生徒の実態（生徒観）

本学級の生徒は、正義感が強く何事にも積極的に活動できる半面、自分の考えや意見を優先させたり、意見が異なる他者を受け入れられなかったりする場面を見ることがある。中学入学後、校外学習や文化祭などの経験を通して、学級への所属感を深めてきているが、校内合唱コンクールの練習においては、自己中心的な言動からトラブルになる場面もあった。自他の認め合いの中で集団として向上していこうとする協調性や集団の在り方について多面的、多角的に考えることが必要である。

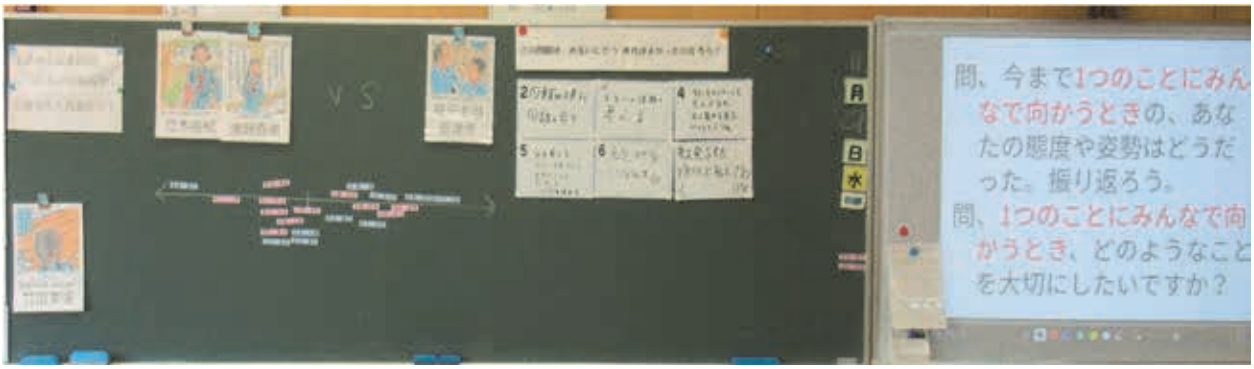
（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、空き缶回収活動について、学級での活動方法とその目標が議論される場面から始まる。決められた目標に向かって活動をしていく中で、次第に同級生の意欲の低下や当番の怠慢が生じる。中心になって活動していた学級委員や環境委員の生徒が、協力してくれなくなった生徒に直接呼びかけることになる。彼らのやりとりや竹田さんの言動に着目した問題解決的な学習を通して、互いに協力して励まし合おうとする態度や集団の一員としての役割や責任を全うする態度を育てたい。

4　本時のねらい

空き缶回収活動の問題点についての話し合いを通して、集団の一員としての役割と責任の自覚を深め、協力し合って集団生活の向上に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

5　実際の板書



６　本時の学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される生徒の反応）	時間	○指導上の留意点　※評価
導入	1　うまくいかなかった事例を思い起こす。 ○　今まで１つのことにみんなで向かうときに、うまくいかなかったことはありますか？ ・　文化祭の合唱練習 ・　長縄の練習 ・　部活動の練習	5	○　自分が所属する集団の実態を思い起こすことで、教材を自分事としてとらえられるようにする。 ○　事前にアンケートを取ることで、様々な出来事があったことをクラス全体で共有する。
展開	2　資料を読み（CD範読：約11分）、内容を整理する。 ○　反対意見がある中で、みんなに「やろう」と思わせることができたのはなぜだろう？ ・　役に立てることをしたい。 ・　おばあちゃんが喜んでくれた。 ○　あなたは、真美と由紀の意見と圭司と悟の意見のどちらに賛同するだろう？ （１）心の数直線を使って、自分の気持ちに一番近いところにマグネットを貼る。 （２）なぜそこにマグネットを貼ったのか理由を発表する。 3　アルミ缶回収活動の問題について話し合う。 ◎　よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるか？ （１）自分の意見をワークシートに記入する。 （２）班で話し合い、出た意見を全てホワイトボードに記入し、発表する。 ・　部活がある人は、ない人と当番を交換する。 ・　自分の係には責任をもつべき。	20 15	○　竹田さんの言葉で、２つのことが可決（①アルミ缶を回収すること②週交代で班から当番が出ること）したことを確認するとともに、登場人物の役割と責任を明確化する。 ○　真美と由紀の立場と、圭司と悟の立場の意見を聞き合うことで、多角的・多面的に考えることができるようにする。 ※　それぞれの心情について、自分の考えと比較しながら考えを深めている。（発言・観察） ○　それぞれの立場の言い分や考えが間違っていないことを確認して、中心発問につなぐ。 ○　少人数班（３～４人）で、解決方法を話し合うことで、多様な意見が出るようにする。 ○　話し合いの中で、様々な意見にふれることで、考えを深めることができるようにする。 ○　解決方法を具体的に書くことで、集団での役割や責任、協力する大切さを考えられるようにする。 ○　なぜその方法がよいと考えたのかを中心に話し合うようにし、自分が大切にしていることを再考できるようにする。
終末	4　本時を振り返る。 ○【導入時に挙げたときの】態度や姿勢、考えはどうだったかを振り返る。 ・自分の意見を優先していた。 ・責任を果たさないことがあった。	10	○　感じたことを自分の言葉でまとめることで、自己を振り返り、今後の集団生活に活かせるようにする。 ※ 集団の一員としての役割や責任について、自己を振り返りながら考えを深めている。（ワークシート）

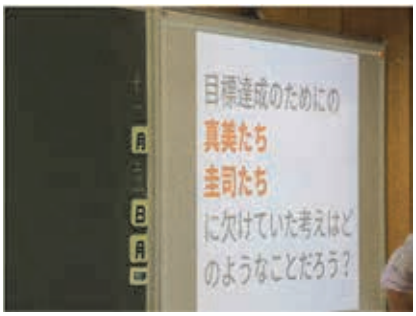
7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する視点から

（１）「自己を見つめる」ために

導入時に、これまでの学校生活を振り返ったアンケート調査結果を紹介し、教材を身近なものとして捉えることができるようにした。また、終末には、導入時に各自が挙げた問題点を改めて振り返り、これまでの自己を見つめ直し、今後の集団活動に活かせるようにした。

生徒の実態に鑑み、事前に発問を何度も検討して、問題を解決する上で大切にした思いについて考えることができるように努めたが、生徒からは解決方法を提案する内容の発言にとどまってしまった。



（２）「深い学びを実現する」ために

少人数班（３～４人）で、解決方法を話し合うことや、意見が異なる立場から考えることを通して、多面的・多角的に考えることができるようにした。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（１）授業において

授業中の発言やつぶやき、ワークシートへの記載事項などから、自分との関わりの中で道徳的価値の理解をもとに考えを深めているかを見取るように努めた。また、ワークシートに教師のコメントを記載することで、一人一人の成長を認め、励ますようにした。

（２）複数の教師の視点から

ローテーション授業を通して、学年教師は担当する学年生徒全員の道徳科の授業を参観した。担当する教科の授業では見られない個々の生徒の様子を複数の教師の視点で見取ることができた。

授業だけでなく、毎日提出している「生活記録ノート」にも道徳科の授業から感じたことや考えたこと、また日常生活に生かそうとする内容の記述があり、生徒の学びを見取ることができた。

中島中学校　第１学年　道徳科学習指導案

日　時：令和４年１１月２２日（火）第５校時
授業者：中島村立中島中学校　教諭　佐久間文彦

授業テーマ	教材、友達との話し合いを通して、互いを認めると共に相手の意見に対して謙虚に受け入れることで、「余り」や「ひとり」になることについての考えを深める授業。

１　主題名　お互いを認め合う B-(9) 相互理解、寛容

２　教材名　自分だけ「余り」になってしまう（出典：「中学道徳１　あすを生きる」日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

内容項目 B(9)［相互理解、寛容］は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に学び、自らを高めていくこと」と整理されている。相手との相互理解は、考えや意見を伝え合うことで深めていくことができる。そして、自分なりの考えやものの見方の角度や視点が個性となり、この差異を受け入れ、自分のものにしようとすることこそが更なる自己を高める手立てとなる。そのため、自分の考えや意見をもち、相手に伝えるとともに、相手には相手の考えや意見があることを理解し、自分にはない考えや発想を素直に取り入れようとする謙虚さが求められる。

（２）　生徒の実態（生徒観）

本学級の生徒は男子 10 名、女子８名の学級で、違う出身小学校の生徒同士がコミュニケーションを取ったり、スポーツ大会や文化祭などの学校行事を一生懸命に取り組んだりすることで、互いのことを認め合いながら生活している。幼稚園から中学校卒業まで、一貫した教育を受け、素直で、穏やかな生徒が多い。一方で、中学校に入学し、新たな人間関係の中で自分と違う意見を受け入れられず、トラブルになったり、相手の意見に同調しすぎてなかなか自分の意見を伝えることができなかったりする場面が多く見られる。また、これまでの人間関係に大きな変化がなく、限られた友だちだけで集まったり、交流したりする場面も多い。

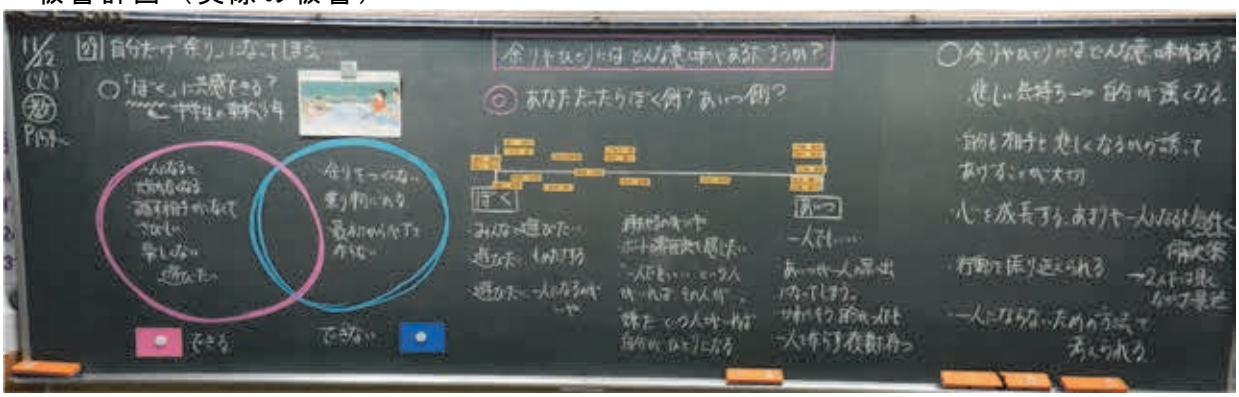
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材では、クラス替えで仲の良かった友達と離れ、新たなクラスになじめず孤立し悩んでいる主人公・好美に、筆者の重松さんがアドバイスをしていくものとなっている。教材内のボートの場面を取り上げ、自分の気持ちと「ぼく」の気持ちを比べ共感できるかを確認する。その後、自分事として捉えさせるために同じ場面に立ったときにはどんな行動をするか、その理由を意見の交流を重ねる事で深めさせていきたい。個性・立場を尊重することの大切さや相手の意見を謙虚に受け、自身の向上につなげていくことなど、自分の考えや意見を大切しながらも相手を理解することについて考えることができるようにしたい。

４　本時のねらい

互いの意見を尊重し、「余り」や「ひとり」になることについて交流を重ねることで集団生活において大切なことを深く考え、寛容の心をもって謙虚に相手から学ぼうとする態度を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



6　学習過程

<table>
<tr><th>段階</th><th>学習活動・内容
（◎中心発問　・予想される生徒の反応）</th><th>時間</th><th>○　指導上の留意点　　※　評価</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>1　アンケート結果から振り返る。
〈アンケート項目〉
・「余り」や「ひとり」になったことはあるか？そのときの気持ちは？
・どんな場面で「余り」や「ひとり」があるか？
・「余り」や「ひとり」は困る？
［「余り」や「ひとり」にはどんな意味があるのだろうか？］</td><td>5</td><td>○　教材は事前に読む時間を確保する。
○　アンケートをとり、結果を共有することで、生徒の生活と関連する内容であることを実感できるようにする。
○　アンケート結果はTVで表示する。
○　テーマに関わるキーワードを通して、教材場面を捉えることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>2「余り」や「ひとり」について考える。
（1）教材の場面2（ボートの場面）をもとに考える。　［色カード（班）］
○「ぼく」に共感できる？その理由は？
・できる（青）…余りやひとりぼっちになるのは嫌だから。ひとりは恥ずかしい。
・できない（桃）…余りを意図的に作り出している。「あいつ」がかわいそう。
・両方（青・桃）…どちらの意見もよく分かるから判断がつかない。
◎あなたが場面2の中のメンバーだったら「ぼく」側？「あいつ」側？
［ネームプレート（自由交流）］
・ぼく…さみしいから。余りになりたくないから。恥ずかしいから。
・あいつ…みんなが楽しそうならいい。気にしない。ボートに乗りたくない。

（2）これまでの取り組みからテーマについて考える。［プリント（個人）］
○「余り」や「ひとり」にはどんな意味があるのだろうか。
・「余り」や「ひとり」は状況によって出てしまうものである。「余りを分かち合う」ことを大切にしたい。
・「あいつ」のように自分だけの思いを優先せず相手の思いを優先した行動をとれるようにしたい。
・「余り」は大人になるために経験することだから、「余りを分かち合える」ようにしていきたい。</td><td>40
(30)

(10)</td><td>○　「ぼく」に共感「できる」、「できない」を色カードを使って表示し、一目見て判断できるようにする。
○　色カードを通して自分の考えを示すことで、交流が活発にできるようにする。
［補助発問］
・「あいつはどんな気持ちだったのだろうか？」
・「“あいつのほうがぜんぜんおとなだな”とはどんな意味だろうか？」
○　「ぼく」と「あいつ」のパラメータにネームプレートを貼り、心情を可視化し考えを比べやすくする。
○　自由交流により、「ぼく」や「あいつ」などの立場の違う意見に触れることで、多様な考えがあることに気づかせたい。
○　自由交流の際に出た意見や考え、自分の考えの変容などを意図的氏名により全体で共有できるようにする。
※自分だけでなく、様々な視点で意見を伝え合い、考えを深めているか。（発言・意見）

○　個人でプリントに記入した後に全体共有することで考えを深めることができるようにする。
※これまでの交流や他の意見に触れ、「余り」や「ひとり」の意味について記述・発表しているか。（プリント・発表）</td></tr>
<tr><td>終末</td><td>3　本時の振り返りをする。
これまでの自分を振り返りながら感想を記入する。［プリント（個人）］</td><td>5</td><td>○　思いつかない場合は、日常生活でのエピソードを提示することで、これまでの自分の経験を振り返ることができるようにする。</td></tr>
</table>

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

（１）「主題や教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫」について

○　事前のアンケートから、「相互理解、寛容」についての結果を提示した。その際、これまでの体験や感想など、自分を振り返り、さらに友達の意見に触れることで、自分事として余りや一人について考えるきっかけとなった。

○　教材の登場人物との共感や自分だったらどうするかについて立場を選択することで、自分事として捉えやすくさせ、活発な議論へとつなげることができた。

（２）「一人一人の考え方を生かす協働的・対話的な言語活動の工夫」について

○　色カードやネームプレート等の思考ツールを使用することで、短時間で相手の気持ちや立場を理解することができ、その後の議論の時間確保やスムーズな意見交換へと移行できた。

○　班や自由交流での意見交換を行うことで、個から集団、集団から全体へと考えを深めたり、広げたりすることができた。また、普段の生活で話さない級友とも話す姿が見られた。

●　教師が話し過ぎることで生徒の思考を止めたり、考えや行動の流れが滞留したりしてしまう。今後は、生徒からの意見や考えを取り上げ、生徒の言葉から授業を構成し、多様な価値観を紡ぎ出すなど、生徒の伴走者となるような授業の構成や姿勢を意識していきたい。

（３）「主題に迫るための発問の工夫」について

○　補助発問や中心発問から登場人物の心情と重ねて考えることができるようにした。自分事として考えをもち相手と交流することで、相手を尊重しながらも価値について話し合うことができた。

○　生徒にとって身近ではあるが、難しいテーマである「余り」や「ひとり」について、生徒が意見を発表しながら考えることができた。

●　展開終盤の補助発問では、教師主導となってしまった。生徒が意見交流した内容を振り返りながら、発問へと移行するような丁寧な指導を心がけていきたい。

［授業の終末の振り返りより（一部抜粋）］
- 今までは自己中心的な考えで、自分さえ良ければいいと思っていた。これからは、相手の気持ちも考えて、ときには自分が一人になることも必要だなと思った。
- 今までは自分が余りじゃなければ他の人はどうでもいいと思っていた。これからは余っている人を積極的に誘おうと思った。
- 一人になっても、自分で考えて行動し、自分の意見をもちたい。また、ポジティブに考えていきたい。
- 相手を思いやる気持ちも必要だけど、やっぱり一人は悲しい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　振り返りとして、「これまでの自分」について振り返ることで、学習後の自分とこれまでの自分を比較し、改善していこうとする記述が見られた。また、自分の弱さや本音も出ることで、テーマを深く捉え考える姿が見られた。

●　主題である「相互理解、寛容」においては、日々の生活や授業など様々な活動の基本であり、相手がいる場面で必要な視点である。今回の活動で満足せず、意見交流や振り返り、再検討などを繰り返しながら、より高いレベルとなるように日々の活動を充実させていきたい。

会津農林高等学校 第１学年 ＬＨＲ（３）指導の実際と考察

日　時：令和４年１２月７日（水）第３校時
授業者：教諭　　大森　賢治

授業テーマ	道徳教育の重点項目（内容項目）を意識した特別活動（ＬＨＲ）の授業

１　題材名　「地域のために自分たちができることは何か」

２　題材設定の理由

（１）題材について

今日の我が国の若者の勤労観・職業観の未熟さが指摘されていることから、社会参画意識や勤労観・職業観の醸成に関わる指導は、重要な役割を担うものである。この題材では、勤労観・職業観を育み、集団や社会の形成者として、社会生活におけるルールやマナーについて考え、日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択決定しようとしたりすることができるようにするものである。

（２）生徒の実態について

本校の生徒は総じて純朴でまじめである。一方で、これまでの生活経験やコミュニケーション力の不足などから、自分に自信がもてず、自己有用感や自己肯定感が低い傾向がある。また、自らの希望で入学する学科を選択してきたものの、卒業後に就くことになるであろう職業がどのように社会を支えているかに気付いている生徒は必ずしも多いとはいえない。

（３）指導観について

農業高校ならではの各学科の特色を活かした題材（農産物、自然や歴史、食品）を用いて調べ学習や意見交換を行う中で、人間関係づくりを中心とした社会生活におけるルールやマナーについて考えさせたい。また、地域社会に貢献している様々な産業従事者や農業従事者の話を聞く中で、今まで気付かなかった農業や地域の奥深さを理解する機会を設けたい。

これらの学習の中で、話をしてくださった方への感謝の心をもち、自分のこととして考えながら話を聞くことを価値付ける。また、グループでも話合いを通して相手に対する思いやりの心をもちながら、互いの思いに寄り添う態度を養っていきたい。また、これまでの学習を振り返りながら話し合うことを促し、仲間とともに実習等を行うこれからの学校生活への意欲へとつなげたい。

３　道徳の内容項目との関連

「Ｂ（６）思いやり、感謝」

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

「Ｃ（１３）勤労」

勤労の貴さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。

４　本時のねらい

自己の将来の生き方や進路についての課題を見いだし、働くことや地域社会に貢献することについて考え、その思いを表現することができる。

5　板書計画（実際の板書）

6　学習過程

段階	学習活動	時間（分）	◇指導上の留意点 ◆評価規準【観点】（評価方法） ※道徳の内容に関する留意事項
導入	1　これまでの活動を振り返り、本時のねらいを把握する。	１０	◇スライドを視聴し、これまでの活動を振り返ることで、生徒がこれからの学びのために「自分に何ができるか」を考える必要感をもつことができるようにする。
	学習課題「地域のために私たちができることはどんなことだろう」		
展開	2　地域のために自分たちができることについて考える。 （１）　地域のためにできる取組についてグループで話し合う。 ・テーマ設定、具体的な取組 ＜学科ごとのテーマ例＞ 農業園芸科→農業、農産物 森林環境科→自然、環境 食品加工科→食品、食文化 （２）　話し合った内容をホワイトボードにまとめる。 （３）　グループでまとめた内容を全体に発表し、共有する。	３０	◇スライドを利用して、今後のカリキュラムを確認することで、現段階の自分の位置に気付き、話合いの目的や視点を意識することができるようにする。 ※グループでの話合いでは、友達の考えを尊重しつつ自分の考えを表現するよう促す。 ◇学科の特徴を踏まえてテーマを設定するよう助言する。 ◇話合いがスムーズに進むように、机間指導を行い、必要に応じて助言する。 ◇ワークシートを活用し、地域に貢献できそうなことについて、これまでの学習をもとに考えることができるようにする。 ◆自己の将来の在り方生き方や進路についての課題を見いだし、地域社会に貢献できることを考えている。 【思判表】（ホワイトボード、発表）
まとめ	3　本時の内容を振り返り、自分ができることを考え、今後の学校生活への見通しをもつ。	１０	◇各グループの発表を価値付け、今後の学習や学校生活への意欲を持つことができるようにする。

８　考察

ＬＨＲ（３）における道徳性の育成について

（１）「他者の多様な見方や考え方に触れられるようにする」について

○　本時の課題について考える際、外部講師の話を想起させたことで外部講師への感謝の心をもつとともに、自分たちの活動を支えてくれる方がいることに気づかせることができた。

○　本時はグループで話し合ったことを終末に発表し、全体で共有した。その際、「思いやりの心」をもって人の話を聴こう」と働きかけたことで他のグループの発表を真剣に聞く姿が見られた。

（２）「他者の考え方から物事を多面的・多角的に見る視点を培い、自分の考えを深められるようにする」について

○　グループごとの発表の後に、一人一人が「今、自分にできること」について考える時間を設けた。その中には、他のグループの発表やこれまでの外部講師が話してくださった内容を取り入れた記述も見られ、物事を多面的・多角的にとらえながら自分の考えを深めようとする生徒の姿（感想）が見られた。

今、自分にできることはチャレンジすることです。話合いで僕たちのグループは会津のうるしを有名にすることについて考えました。（中略）提案したマイケル・ジョーダンとコラボするということも自分たちでチャレンジしなければいけないと思いました。チャレンジをしないと成功はないので、チャレンジしたいと思いました。

ドライフラワーを題材に話し合ってみて、花の魅力を知ることができました。ネット時代で自然に触れる機会が少ない中で、自然と関わりながら学べることがどれだけ幸せかわかりました。
５つのグループで発表して、新しい発見がありました。自分とは違う（新しい）考えなどを聞くことができてよかったです。

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

（１）「重点とする内容項目について生徒の姿をもとに評価する」について

○　本時の導入で前回までの学習を振り返り、外部講師の講話を聴く時の態度が良かったこと、そのことにより自分たちの職業観等を広げられたことを伝えた。そのことで本時の授業を通じて教師や友達の話を「思いやりの心」をもって聴き、自分の考えをさらに深めることができた。

２年生で行う課題研究の題材のようなものについて話し合う中で、コミュニケーションや協調性なども学べたと思います。
クラスメイトと話すことで、これからの学校生活が過ごしやすくなりそうだし、実習などでもコミュニケーションを増やしていきたいです。

○　重点項目を設定し、学年全体で共通理解をもって意図的に評価を行うことで、育成を目指す道徳性を育むことができた。

●　友達と協力しながら行う実習が中心的なカリキュラムであることや、卒業後は就職し社会的自立をする生徒が大部分を占めるという学校の実態を鑑みると、学年ごとに重点項目を設定し、３年間を見通して道徳性を育んでいきたい。

田島第二小学校　第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年９月１６日（金）第３校時
授業者：南会津町立田島第二小学校　教諭　齋藤　里帆

授業テーマ	役割演技を通して体験的に親切、思いやりについて話し合うことで、自分との関わりの中で捉え考える授業

１　主題名　しんせつにすると　気もちがいい　B―（７）親切、思いやり

２　教材名　「はしの上のおおかみ」（出典：学研　新・みんなのどうとく１）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「親切、思いやり」とは、自分のことだけを考えたり自分の思いだけを主張したりするのではなく、相手のことを思いやり、人のためにつくすことである。親切にされたことのうれしい気持ちや、親切にしたときの気持ちよさを感じることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが大切である。

（２）児童の実態について（子ども観）

本学級の児童は、女子５名男子２名の計７名である。生活アンケートでは、「親切、思いやり」に関する質問において半数以上の児童が、友だちに対して思いやりのある行動をしていることが分かった。しかし、「分からない」と答えた児童が２名いることから、「親切」や「優しい言葉」を自分が使っている意識がなかったり相手にとってどう感じるかまで考えを巡らせていなかったりする児童もいることが考えられる。親切な行動とは何かを理解して、自分から進んで思いやりのある行動をしようとする姿勢を育む必要がある。

（３）教材及び指導について（教材及び指導観）

本教材は、一本橋で出会ったうさぎに意地悪をしたおおかみが、大きなくまに親切にされたことで、親切にすることの気持ちよさに気付くという内容である。

導入では、自分が誰かに優しくした行動について振り返り、思いやりのある行動とはどのようなものか確認する。展開前半では、紙芝居を読み、おおかみの気持ちを考えることを通して、意地悪なおおかみが、くまに優しくされたことで親切にされるよさに気付くという気持ちの変化を捉えさせたい。展開後半では、おおかみがうさぎに出会った場面のおおかみの気持ちを考えることで、親切をすることの気持ちよさに気付かせていきたい。終末では、本時の振り返りを行い、帰りの会で取り組んでいる「今日のヒーロー」を取り上げ、多くの親切が身の回りにあることを気付くことができるようにし、親切にしていこうとする意欲を高めたい。

４　本時のねらい

親切にされた時の登場人物の心情の変化について考えていくことを通して、親切にすることのよさに気付き、身の回りの人に思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

５　実際の板書

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点　※評価
導入	１　本時の課題をつかむ。 （１）　やさしくした経験を振り返る。 （２）　本時のねらいを捉える。 やさしくすると、どんなきもち？	5	○　生活アンケートの結果から、思いやりのある行動について確認し、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	２　教材文を読んで考える。 （１）教材文の範読を聞き、大体の内容を捉える。 （２）登場人物の気持ちを考える。 ○なぜ、おおかみはうさぎにゆずらなかったのかな。 ・自分の方が大きいから。 ・うさぎが邪魔だから。 ○大きなくまの後ろ姿を見ながら、おおかみはどんなことを考えていたのかな。 ・くまさんは優しいな。 ・優しいことをされるとうれしいな。 （３）役割演技を通して登場人物の気持ちを考える。 ◎うさぎに２回目に出会ったとき、おおかみはうさぎに何と言ったかな？ ・いじわるしてごめんね。 ・こんどからはやさしくするよ。 ○うさぎを抱き上げたおおかみは、どうして前よりもずっといい気持ちになったのでしょう。 ・うさぎにやさしくできたから。 ・意地悪をしなかったから。	27	○　紙芝居にすることで、視覚的に内容を捉えやすくする。 ○　意地悪するおおかみの気持ちを考えさせ、誰しもがそのような気持ちをもつことがあることに気付かせていく。 ○　おおかみの表情や様子から、おおかみに自我関与して考えるようにしていくことで、くまへの憧れや感動、反省などの多様な考えを引き出していく。 ○　児童がおおかみ役、教師がうさぎ役になって役割演技を行い、登場人物の気持ちを自分の考えと比べてどうかを問いかけることで、全員が自分事として捉えていくようにしていく。 ○　親切にされた際のうさぎの気持ちも考えている子どもの発言から、おおかみが変容した理由を引き出すとともに、やさしくした時の気持ちについて考える。 ※　思いやりの心をもって接することができた時の気持ちよさについて友だちの考えと比べながら考えているか。（発言・観察）
	３　おおかみのように親切にした経験を振り返り、伝える。 ・落とし物を拾ってあげた。 ・ふわふわ言葉をつかった。 ・励ましてあげた。	8	○　帰りの会で行っている「今日のヒーロー」について取り上げ、今までのやさしい出来事を紹介し、本時の学習を自分との関わりで考えられるようにしていく。 ○　やさしくした時、やさしくされた時の気持ちを確認する。
終末	４　本時を振り返り、教師の説話を聞く。	5	○　説話を通して、思いやりの広がりについて考えを広げることができるようにする。 ※　これまでの自分の経験を振り返り、親切について自分事として考えている。（発言・観察）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳教育の工夫の視点から

（１）「児童の実態から気付かせたいことを明確にしたねらいの設定」について

○　学校で月の初めに行っている生活アンケートの結果や、学級目標を振り返りながら自分たちの生活について振り返ることで、「親切」に対する意識を確認し、自分事として価値に向き合うことができた。

○　紙芝居により、児童が物語の内容を理解しやすくなり、教師が押さえたい所で一度手を止め、続きを予想するなど、児童は意欲的に授業に参加することができていた。挿絵の表情に触れたことも児童の思考を広げるきっかけになった。

○　役割演技を行うことで、児童が登場人物の気持ちを考えやすくなっていた。また、おおかみ役を児童、うさぎ役を教師が行う際に、教師のうさぎ役の演技をどう行えばよいか児童に聞くことで、うさぎの気持ちも言語化することができた。

●　教材の中の道徳的価値の場面を捉えられないまま話し合いを進めてしまった。子どもが場面や状況を理解できるよう教材分析を深め、価値理解をもとに話合いができるようにしていきたい。

（２）「児童によく考えさせる発問の工夫」について

○　うさぎに２回目に会ったときのおおかみの台詞を考えさせることで、おおかみの気持ちの変化に気付かせることができた。また、台詞を吹き出しに書かせることで役割演技に自然につなげることができた。

○　主発問についてペアで考えを交流させることで、「考えが似てる！」「いっしょだね」など、１年生なりの交流をしながら多様な考えに触れることができていた。

●　児童に自信を持たせるため、ワークシートに考えを書いてから役割演技を行ったが、役割演技の即興性を生かし、児童から出た台詞について理由を聞いたり考えさせたりすることで、より効果的な学びにつながったと考えられる。

（３）「多様な考えから自分の考えの深まりを実感できる振り返りの工夫」について

○　教材について話し合った後で、学級の帰りの会で行っている「今日のヒーロー」について触れた。今まで発表された「やさしい出来事」を紹介することで、自分たちも親切にしたりされたりしていることを実感することができていた。

○　教師の説話では、児童が共感できる題材を取り上げて、教師の体験談を話すことで、児童は興味深く話を聞いていた。

●　教材から離れ、児童が生活に返って考える時間を充分に確保していきたい。教材と自分自身の関わりを強く感じさせる手立てを工夫することで、児童一人一人の考えを認め励ます評価へとつなげていきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　日頃から児童が発言しやすい学級作りを心がけているので、自分の考えを表現しながら、授業に取り組むことができている。そのため、教師は、児童のつぶやきをよく聞き「どうして？」「どんなふうに？」と児童の考えを広めていくことで、考えの変容や学習状況を見取りながら評価することができた。

富岡小学校第４学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年１１月１１日（金）第４校時
授業者：富岡町立富岡小学校　教諭　山野邉　貫太

授業テーマ	心のものさしを用い、お互いの考えを比べることで、色々な見方や考え方に触れ、本当の思いやりについて考えを深めることができる授業

１　主題名　本当の思いやり　Ｂ－（７）親切、思いやり

２　教材名　席が空いているのに（**出典：光文書院**）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。児童は日々の生活の様々な人との多様な関わりの中で、相手のことを親身になって考え、行動することで、よりよい人間関係を築いていく。その上で、自分の考え方や感じ方が相手と違うことに気付き、自ら進んで親切な行為を行う意欲を高めていくことが重要である。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、友達や下級生の手助けを進んで行うことができる。しかし、その行動は、相手の立場に立って行われるというよりは「してあげたい」という自分自身の思いの強さから行われることが多い。困っている人がいたら、すぐに手を差し伸べることが思いやりであるという思いが根底にある。そのため、言葉よりも行動が先に現れ相手の気持ちが置き去りになってしまうこともある。これらは、相手の気持ちを察したり、理解しようとしたりする気持ちはあるが、自分の感じ方と相手の感じ方が同様であると思い込んでしまう傾向があるためではないかと考える。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

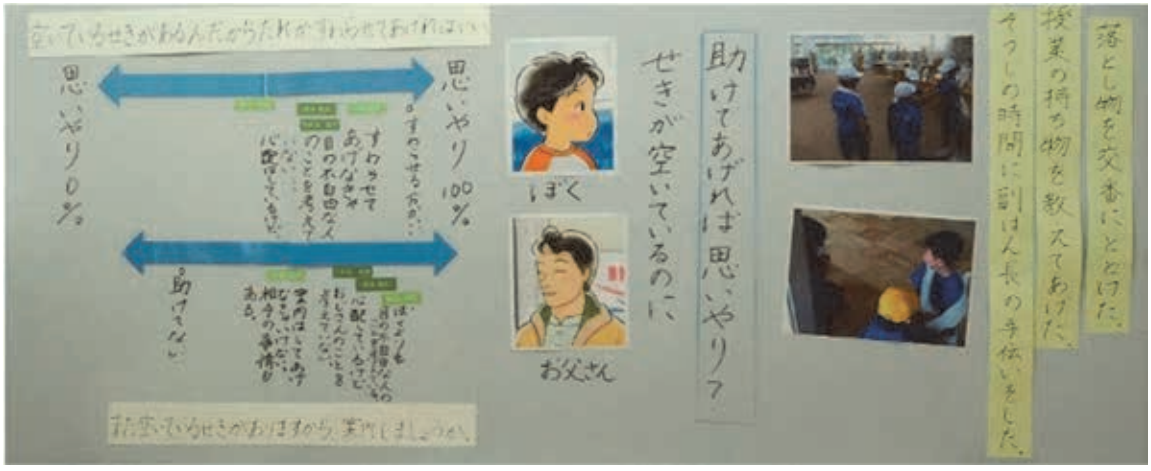
本教材は、ぼくが父親の行動から、「親切」とは自分の思いだけを主張した自己満足ではなく、相手のことを親身になって考えようとすることの大切さに気付く話である。父親の行動を通して、直接的な行動だけではなく、その裏にある相手の立場や気持ちを考える思いやりについて考えることができる教材である。

指導に当たっては、日常を振り返り、児童が親切だと感じている行動を取り上げる。その上で、その行動の裏にある思いやりの心について考えを深められるようにしたい。また、心のものさしを用いることで、登場人物の行動を自分の立場から考えさせることで、思いやりの心について多面的・多角的に考えられるようにしたい。

４　本時のねらい

お父さんの姿から手を差し伸べない思いやりについての話合い活動を通して、相手の状況や気持ちを自分のこととして想像することの大切さに気付き、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育む。

５　板書計画（実際の板書）



6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
導入	1　本時の課題をつかむ。 ○　自分が感じる親切について振り返る。 ○　本時の課題をつかむ。 助けてあげれば思いやり？	5	○　事前にアンケートをとり、児童の親切について感じていることを問う。 ○　写真を提示し、自分だったらどう感じるかを問う。その上で、その行動は相手を思いやっているのかを問いかけ、本時の課題につなげる。
展開	2　教材文を読んで考える ○　空いている席があるんだから座らせてあげればいいと考えるぼくの思いやり度はどのくらいかな。 ・　座らせたらいいと考えているのは思いやりがある。 ・　行動にはうつしていない。 ◎　「案内しましょうか」と言ったお父さんの思いやり度はどのくらいかな。 ・　ただ、席をゆずろうとするのではなく、おじさんの気持ちを考えている。 ・　すぐに座らせようとしないで、相手に考えを聞いている。 3　自分を振り返って考える。 ○　自分の思いやり度はどのくらいかな。 ・　相手の気持ちを考えてなかったかもしれない。 ・　何も相手に聞かずにすぐに手を出してしまっていた。 ・　助けたいと思ったけど、何も言えず、何もできなかった。	35 (20) (15)	○　心のものさしで自分の考えを表すことで、その理由を語る活動につなげることができるようにする。 ○　心のものさしで児童の考え方が偏っている場合には、反対側の考えを教師から意図的に指名するなど、別な見方や考え方があることを第三者的な形で提示し、考えを深められるようにする。 ○　心のものさしで、自分の考えを表させ、ぼくの行動と比べながら考えることができるようにする。また、児童同士の考えを共有することで、自分の考えを深めることができるようにする。 ○　「お父さんはおじさんに何かしてあげたのかな？」と問い返すことで、何もしない思いやりについて考えることができるようにする。 ※　おじさんに対しての思いやりについて、友だちの考えと比べて考えている。　（発言・ワークシート） ○　導入で取り扱った児童の親切な行動を再度取り上げ、自分が親切にしていると感じる場面を具体的に想起できるようにする。 ○　心のものさしを用いることで、これまでの自分の行いに本当に思いやりがあったのかじっくりと考えられるようにする。 ※　自己の生活をみつめ、親切な行動について、自分の思いをもって振り返っている。　（発言・ワークシート）
終末	4　内容項目に関連する動画を基に、本時の学習を振り返る。	5	○　低学年の児童が親切にしてもらったときの動画を紹介し、色々な考え方に触れさせることで、思いやりの心について考えを深められるようにする。

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の視点から

（１）「道徳的価値を多面的・多角的に捉えたり、考えを深めたりする問い返しの工夫」について

○　思考ツール「心のものさし」を活用し、登場人物の思いやり度を問う発問をしたことで、児童に自我関与させ、多様な考えを引き出すことができた。

○　展開後段では、自分の思いやり度について考える発問をしたことで、児童が自然と教材文から離れ、自己を見つめることにつながった。導入で、児童の実態に迫った経験を提示したことで、自分事として考えることにもつながった。

●　自分の考えを深めるために、児童に「それはどういうことか」「どうしてそう考えたか」といった事実や理由を聞くなど、問い返しの種類を豊富にしていきたい。

●　児童に「話合いの中で登場人物の思いやり度が変わった人はいるか」と問いかけるなど多様な考えを引き出すコーディネートを工夫していきたい。

（２）「少人数ならではの話合いの工夫」について

○　教材文を通して考える活動では、教室前方に集まりグループで考えさせ、自己を見つめる時間では、席に戻り個人で考えさせた。学習形態を変えることで、児童は自然と教材文から離れ、自己を見つめることができた。

○　「前の４年生はこんなことを話していたよ」と異なる価値観の考えを教師が意図的に紹介することで、児童は多様な考え方に触れ、自分の考えを多面的・多角的に考えることにつながっていた。

●　少人数学級であっても可能な限り、児童が多様な考え方に実感を伴って触れることが重要である。そのためにも、教師が会話の中で、多様な考えを紹介するだけでなく、遠隔授業の設定やゲストティーチャーを活用するなど、生徒が生の声に触れることができる活動なども取り入れていきたい。

（３）「教材や児童の実態に合わせた多様な指導方法の工夫」について

○　事前アンケートの結果や児童の身近な場面における写真を提示することで、児童が自分事として課題を捉えることができた。価値への方向付けをすることができたと考える。

○　日常生活の中で、思いやりに迫る場面を動画にし、終末に紹介することで、児童はより深く自分のこととして「思いやり」について考えるきっかけになった。

●　児童の実態に合わせた動画や写真を提示した後に、道徳的価値について深く考えるような発問や問い返し方を精選したい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　思考ツール「心のものさし」を活用することで、児童は自己をしっかりと見つめ、自分の「思いやり度」について振り返ることができた。また、友達の考えが可視化されたことで、「それわかる。」「わたしも同じようにできないことがある。」等、素直に友達の考えに共感し、自分の考えを広げることができた。

○　本時の授業に関連付けて、学校行事や日常生活における児童の姿や、帰りの会に行っている「いいねタイム（児童同士でよさを伝え合う時間）」から子どもの成長の様子を見取った。また、授業においては、毎時間の発言やワークシートから、児童が道徳的価値について自分との関わりの中で考え、深めようとしているかを見取った。このような日々の児童の様子の見取りや毎時間認め励ます視点でコメントを書き、それを累積することを評価の材料とした。

小川小学校第４学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和　４年１１月　９日（水）　第３校時
授業者：いわき市立小川小学校　教諭　武田　涼子

授業テーマ	考えを伝え合ったり、自己を見つめたりする活動を通して、目標実現に向けて、強い力をもち粘り強く努力する態度を高めることができる授業

１　主題名　頑張る力とは　A－（５）勇気と希望、努力と強い意志

２　教材名　花丸手帳～水泳・池江璃花子選手（出典：「新しいどうとく」東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「こうなりたい」と思う自分に近付くためには、自分で目標を立て、その達成に向けて、粘り強く努力することが必要である。また、目標を実現するためには自分自身の努力だけではなく、周りの励まし、賞賛してくれる人がいることに気付き、感謝の気持ちをもちながら粘り強く努力しようとする心情を育てることも重要である。

（２）児童の実態（子ども観）

児童はこれまでの学習の中で「最後までやればいいことがある」「今までできないとあきらめていたから、あきらめずがんばりたい」と考えてきている。また、「『こうなりたい』から『頑張る・頑張りたい』」と目標を立てることも多い。一方で、目標を立てても、粘り強くやり抜く意思が弱く、すぐに諦めてしまうことも少なくない。今よりよくなりたいという願い・努力しようとする姿について考えを深め、自分の周りにいる人の励ましにも気付きながら、粘り強く努力しようとする気持ちが必要である。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

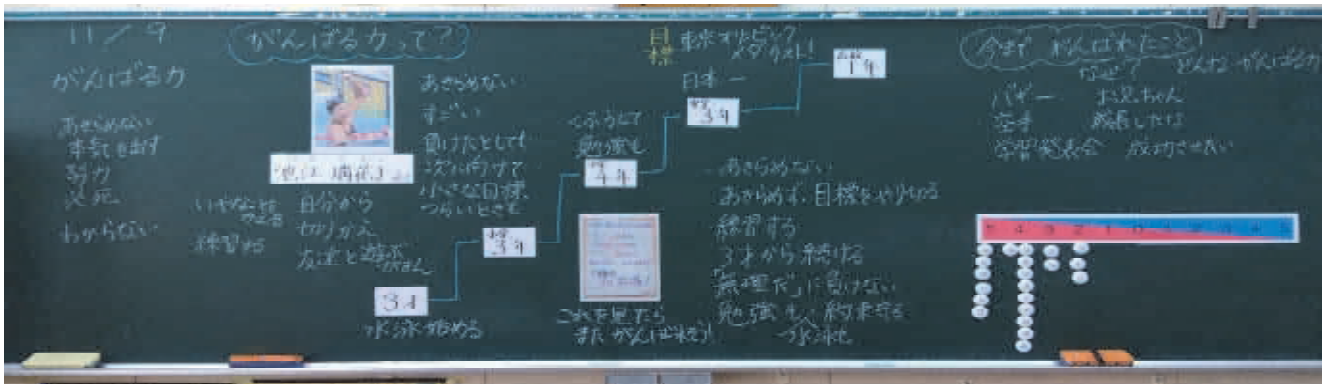
本教材は、競泳・池江璃花子選手が小学３年生で全国三位になるものの、その後全く記録が伸びない苦しい時期を乗り越えたという内容である。苦しいときも小さな目標を一つ一つクリアしながら前向きに努力する姿が描かれている。

指導に当たって、「いつもうまくいくとは限らない」「手の届く小さな目標をクリアしていくことの大切さ」に気付かせたい。そして、「頑張る」とはどういうことなのかを捉えさせながら、目標実現に向けて粘り強く努力しようとする実践意欲に結びつくようにしたい。授業を進めていく中で、「努力」という言葉よりも児童になじみのある「頑張る」という言葉を用いることで、本時の課題を捉えやすくし、自分事として考えられるようにする。

４　本時のねらい

目標実現のために努力する池江璃花子選手のよさを考える活動を通して、自分で決めた目標実現のために、強い心をもち、粘り強くやり遂げようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

５　実際の板書



６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	1　本時の課題をつかむ。 ○　頑張る力とはどんな力だと思いますか。 ・ あきらめない　　・　目標に向かって ・ できるようになるため　・自分のため がんばる力って？	5	○　「頑張る力」には、「自分のため」「みんなのため」などがあることを伝え、その他にどんな「頑張る力」があるかを考える。 ○　今の頑張る力を心情ものさしで表し、ワークシートに記入する。
展開	2　教材文を読んで考える。 ○　池江選手のことをどう思いましたか。 ・　すごいな。 ・　前向きだな。 ・　あきらめないで練習した。 ・　水泳だけではなく、勉強も頑張っていた。 ◎　池江選手の頑張る力はどんな力ですか。 ・　諦めない力 ・　目標に向かって頑張る力 ・　深く悩まないで、とにかく練習する力 ・　花丸が増えていく力 ・　オリンピックでメダルを取りたいと思う力	20	○　池江選手の活躍が分かるように映像を見せる。 ○　池江選手の努力の様子を階段に見立て板書することで、池江選手が階段を上がるためにどんな努力をしたか視覚的に気付くことができるようにする。 ○　記録が伸びなかったときもあったことを確認することで、いつもよい結果が得られるわけではないことに気付き、乗り越えるためには何が必要かを考える。 ○　目標を立て、それが達成できたら花丸をつけるという池江選手の姿から、目標達成やこれからへの意欲付けになっていることを確認する。
	3　自分と関連付けて考える。 ○　今まで、頑張れたことってどんなことがありますか。 ・　学習発表会に向けてリコーダーをふけるように練習した。 ・　漢字の練習を毎日続けたら、正しく書けるようになった。	10	○　「なぜ頑張ることができたのか」「そのときどんな頑張る力が働いたか」も考えるようにする。 ○　ペアやグループの話し合いの中での児童の発言を聞き取り、全体で共有を図るようにする。 ※　これまでの経験を見つめ、振り返りながら考えている。 （ワークシート・発言）
終末	4　本時の学習を振り返る。 ○　今日の学習で考えたことを書きましょう。 ・　今まではできないとすぐにあきらめていた。これからは少しずつできるようにしていきたい。 ・　すぐにできるようになるとは限らない。一歩ずつ前向きに練習したい。 ・　勉強も運動もどちらも頑張る。	10	○　心情ものさしを用いながら、自分と考えが異なる友達との交流を図り、多面的・多角的に考える。 ※　これまでの生活を振り返り、目標実現に向けてあきらめずに努力することのよさについて、自己を見つめ考えを深めている。 （ワークシート・発言） ○　白血病と戦う池江選手の映像から、困難があってもそれを乗り越えようとする姿を紹介する。

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（１）「自己を見つめる時間を確保し、自分の考えを表出できるようにする」について

○　教材文から早く離れ、自分のことを考える時間を十分に確保できるように時間配分を工夫した。そのため、始めに登場人物やあらすじを話したり場面絵を提示したりすることで、長い教材文でも内容が捉えられるようにした。

○　ワークシートに記入する時間と話し合う時間を十分に確保することで、書いたり話したりして自分の考えや思いを表出できるように工夫した。

（２）「思考の見える化を図り、話し合いが活発にできるように思考ツールを活用する」について

○　心情ものさしを用いることで、赤と青の入り交じった気持ちについても考えられるようになった。

○　導入時と終末時で心情ものさしを用い、「今の思い」をワークシートに記入した。それにより、自分の気持ちの変容が分かるようになった。振り返りでも「はじめは○○だったけど」「○○と考えるようになった」などと、自己の思考の変化が分かるような記述が見られるようになった。

○　あえてワークシートに自由に記述するようにしたことで、自分の考えの変化、どうしてそう考えたのかが可視化できるようにした。

○　黒板に心情ものさしを貼り、その下にマグネットを貼ることで、誰がどんな考えなのかが分かるようにした。マグネットを貼るとすぐに友達と話し合いを始めるなど主体的に話し合う姿につながった。また、自分の考えとは異なる友達と意見交流ができるように工夫した。

（３）「自分の考えを書いたり話したりできない児童への見取りや言葉かけの工夫」について

○　これまでの学校生活や行事等を振り返りながら、頑張った経験を想起させることで、本時のねらいに沿って考えられるようにした。また、自分の経験から考えられないときは友達の頑張った姿を思い起こさせ、考えられるようにした。

●　自分の考えを表出することが難しい児童には机間指導をし、声を掛けた。そうすると、「○○だった」「○○と考えた」などと話すことができた。児童の発言を教師が記録に残し、評価できるようにしていきたい。また、児童にもその都度言葉掛けをし、評価していきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　児童の発言は、可能な限り板書に残すようにした。すると、安心し、発言してもいいんだという思いになり、発言する児童が増えてきた。

○　「頑張った経験がない」という児童に対して、行事等に向かって努力した姿を話したり、動画・写真を提示したりした。「○○に向かって頑張っていた」ということを伝えることで、少しでも努力したエピソードを伝え励ました。

○　ワークシートや行事等の振り返りカードを道徳ファイルに累積したことで、「目標をもって頑張ったこと」を見返すことができるようにした。また、家庭からの欄を設けたことで、家族のコメントが分かり、児童はうれしそうにコメントを読んでいた。道徳ファイルを持ち帰ることで、家庭で児童のワークシートを読む機会をもつことができて、家庭と学校とで連携して、児童の成長を見取ることができるようになった。

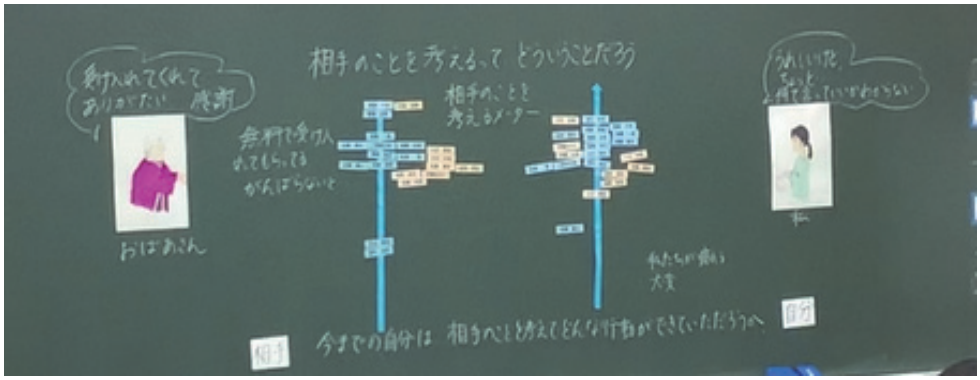
松陽中学校第２学年２組　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年１２月１日（木）第２校時
授業者：伊達市立松陽中学校　教諭　橘内　早百合

授業テーマ	東日本大震災の被災者を受け入れた旅館の娘である「私」と宿泊者の「おばあさん」の心の通い合いについて考えることを通して、自分にとっての「相手のことを考える意味」について見つめなおすことができる授業

１　主題名　相手のことを考えて　　B−（６）思いやり、感謝
２　教材名　「五百人の大家族」
（出典：福島県教育委員会　「ふくしま道徳教育資料集　第Ⅱ集　敬愛・つながる思い」）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値（価値観）
中学生になると、ものの見方や考え方が広がり、また行動において自分のやり方を貫こうとするようになり、自立心が徐々に高まってくる。そうすると、周囲からの働きかけや言葉を煩わしく感じてしまい、自分を支えてくれている周囲の人への感謝を感じながらも、素直に表出することができないことがある。また、その自立心がときに自己中心的で、他者を省みない言動につながってしまうこともある。他者と関わり合いながら生活しつつも、急激に変化する今日、ソーシャルメディアを介した対面せずとも人と交わることができてしまう状況の影響も少なくない。しかし、どんなときも周囲の人の支えで今の自分があることには変わりがない。そのことに気付き、互いに支え合い、思いやって生活しようとする態度を育てることは、よりよく生きる上でとても大切なことである。
（２）　生徒の実態について（生徒観）
２年生に進級すると同時にクラス替えがあったが、当初の硬さはなくなり、数々の学校行事を通して協力して活動するようになり、まとまってきた。学級内の様子をよく見て欠席した生徒の代役として、係の仕事を自ら引き受けて行う生徒もいる。一方で、自分の感情を優先させてしまい、自分本位の言動をとってしまったり、相手をからかったりする姿も見られる。人は互いに支え合いながら生活していくことに気付き、周囲の人への思いやりの気持ちをもって生活することへの考えを深めていくことが必要であると考える。
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）
本教材は、経営する温泉旅館で東日本大震災の被災者を無料で受け入れると決定した「父」と娘である「私」、そして「兄」、被災者との数日間を扱っている。受け入れに不安や抵抗を感じていた「私」だが、被災者である宿泊者たちと接することを通して福島県民どうしが助け合い、思いやりながら生きている姿を目のあたりにする。そんなある日、気持ちが進まないまま手伝いをしていた「私」は、「おばあさん」から「おじょうちゃんも毎日大変だね。いつもありがとうね。」と、声をかけられ、後ろめたい思いをする。また、タオルを運ぶことでお返しをしたいという「おばあさん」の温かな手、そして思いにふれることで「私」の心も温められ、思いやりの心を相手に向けることのよさを感じながら食事を運び始めるという話である。その姿に自分を重ね合わせながら、「私」の気持ちの変化の理由について考えることで、思いやりや感謝についての考えを深めることができる教材である。
導入では、校外学習について振り返ることで、教材を身近なものとして捉えられるようにする。また、講演会の感想を想起することで、本時のねらいとする価値への問題意識を高めたい。展開では、被災者受け入れに対し不安や抵抗を感じていた「私」が、被災者である「おばあさん」の思いにふれることで気持ちが変容することを捉えることができるようにする。その理由について考えたり、自分自身の思いや体験を見つめなおしたりすることを通して、周囲の人への思いやりや感謝の気持ちをもって生活しようとする態度を育てたい。また、誰かを支えることができた経験について振り返るが、その時の気持ちやできた理由についても改めて考えることで、自らの歩みのよさについて実感できるようにする。
４　本時のねらい
東日本大震災の被災者を受け入れた旅館の娘である「私」の気持ちを考えることを通して、周囲の人への思いやりや感謝について考えを深め、相手のことを考えて行動しようとする態度を育てる。

５　実際の板書



６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間 形態	○　教師の支援 ※　評価
導入	１　本時の授業の見通しをもつ。 （１）東日本大震災について想起する。 ○　校外学習で震災遺構（請戸小学校）や原子力災害資料館を見学したとき、どんなことを感じたか。 ○　道徳講演会でフリーアナウンサーの大和田新さんの講演を聞いてどう思ったか。 ・　信じられないくらい大変だった。 ・　請戸の奇跡、人と人との助け合いの心を感じた。 ・　後輩や高齢者を助けた高校生の話に感動した。 （２）本時の学習テーマを設定する。 相手のことを考えるって、どういうことだろう。	５ 全体	○　７月および10月に実施した行事について自分の感じたことを思い返すことで、本時で扱う教材と結び付け、身近なものとして捉えられるようにする。 ○　校外学習で見て感じたこと、講演を聞いて感じたことを共有することで、本時のねらいとする価値に対する問題意識を高め、生徒の言葉を生かしながら学習テーマを設定する。
展開	２　「五百人の大家族」を読んで、「私」の気持ちについて考え、話し合う。 （１）範読を聞く。 （２）震災５日後の「私」と「おばあさん」の気持ちを考える。 ○　「おじょうちゃんも毎日大変だね。いつもありがとうね。」と言われた「私」はどんなことを考えていたのだろうか。 ・　私は感謝されていいのだろうか。 ・　「ありがとう」と言われても、なんだかもやもやする。 ○　「おじょうちゃんも毎日大変だね。いつもありがとうね。」と言った「おばあさん」はどんなことを考えていたのだろうか。 ・　受け入れてくれてありがたい。 ・　何かささやかでもお返ししたい。 ◎　この二人はそれぞれどのくらい相手のことを考えているのだろうか。またそれはどうしてだろうか。 【おばあさん】 ・　震災のために、今まで住んでいたところを離れているだけで大変なのだから。 ・　震災でなくしたものがいっぱいあってつらいはずなのに、「私」にやさしい言葉をかけているから。 【私】 ・　自分だってやりたいことがあるだろうけど、我慢して旅館の仕事を手伝っているから。 ・　文句を言わずにいるから。 【同じくらいかもしれない】 ・　相手のことを考えて、お互いに我慢しているところがあると思うから。 ○　「私」の手に、「おばあさん」の手のぬくもりがいつまでも残っていたのはどうしてだろうか。 ・　おばあさんたちのことを考えて私にできることをやりたいと思ったから。 ・　おばあさんの思いをわかっていなかったのかもしれないと感じたから。	３０ （７） 全体 （５） 全体 （４） 全体 (10) 個別 ↓ 小集団 ↓ 全体 （４） 全体	○　範読前に、被災者の受け入れに関して、父の言葉やそこに込められた思い、母の働く姿などを簡潔に確認し、「私」の思いと比べ、その差を押さえる。 ○　相手の感謝する思いを受け取った時の「私」の後ろめたい気持ちについて、考えられるようにする。 ○　相手のことを考え、感謝の思いを素直伝えるおばあさんの心の温かさについて考えられるようにする。 ○　自分の考えをまとめてから黒板（心メーター）にネームを位置付け、グループ内で話し合う時間を設定する。多様な考えにふれる中で、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○　生徒の反応を見ながら、「私だって、友達と遊びに行けずに、被災者を受け入れた旅館の仕事を手伝い、相手のことを考えているのではないか」と問い返すことで思考をゆさぶり、より深く考えることができるようにする。 ※　「私」と「おばあさん」のそれぞれの相手のことを考えている度合いについて、自分の考えと友人の考えを比べて考えている。（ワークシートへの記述、発表） ○　「おばあさん」の手のぬくもりがいつまでも残っていた理由について考えることで、相手を思いやることのよさについて感得できるようにする。また、「３階のお食事は、私が運びます」と大きな声で言った時の「私」の心メーターの位置についても全体で確認する。
終末	３　自己を見つめる。 ◎　今までの自分は、相手のことを考えてどんな行動をすることができていただろうか。 ・　困っているように見えたとき、声をかけたこと。 ・　自分が自転車に乗っていて、狭い道で歩行者に道を譲った。 ４　ゲストティーチャーの話（録音）を聞く。	１２ 個別 ↓ 全体 ３ 全体	○　相手のことを考えて行動できた体験について振り返り、その時の気持ちやできた理由についても改めて考えることで、「相手のことを考える」時の自分の思いやよさについて実感できるようにする。 ※　相手を思いやって行動できたことについて、日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。（ワークシートへの記述） ○　ヘアドネーションをした本校生徒の話を聞き、相手を思いやることのよさについてより深く考えることができるようにする。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

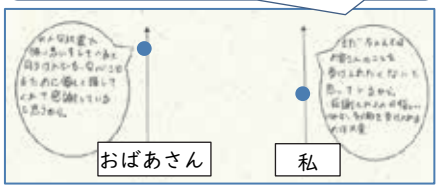
（1）自他の考え方・感じ方を受けとめる（多面的・多角的に考える）について

○　授業において、黒板の「心情メーター」（本時では、「相手のことを考えるメーター」の名称で使用）とネームマグネットのツールを用いたことで、自分の考えや友達の考えを可視化でき、交流や話合いがしやすい状況をつくり出すことができた。

○　震災当時の状況が描かれた教材であったが、生徒は「私」と心を重ね合わせながら、多様な考えを表出することができた。校外学習や道徳講演会で震災に触れた経験を生かした導入により、生徒は、教材文の世界へ自然に入ることができた。

〈「私」が相手のことをどのくらい考えているかについて考える場面より〉
C１：まだ、ちゃんとはお客さんのことを受け入れていない。
T　：やりたいことだって我慢しているよね。「私」も相手のことを考えているのではないかな。（ゆさぶり）
C２：ありがとうって言われて嬉しいけれど、その分私たちが大変だし疲れるって気持ちもある。そこまで相手を考えてはいないと思う。
C３：自分の気持ちで精一杯だと思う。でも、宿泊者のことも考えている。

多様な考えに触れ、新たに考えたことを付け足しながら考えを深める。



○　友達の発言を聞いたり、心をゆさぶられたりして新たに考えたことをワークシートに追記しながら、じわりじわりと自分事として考えを深めていく様子が見られた。

●　登場人物の気持ちを再度考えさせるような発問や問い返しがあると、生徒の考えをさらに深めていくことができたと思われる。目の前にいる生徒たちの思考を促す発問なのかどうか、十分に吟味することが必要である。

（2）自己を見つめなおす（自己を見つめる）について

○　自己を見つめる振り返りの時間を十分に確保し、書く活動を取り入れた。特にこれまでのできた経験を具体的に見つめなおす中で、自分のよさに改めて気付く生徒が多く見られた。

○　できた経験を振り返る際、そのときの気持ちやできた理由についても改めて考えることで、自分の思いやよさについて実感できるようにした。

〈生徒のワークシートより〉
○　近所の家の雪かきを手伝いました。近所の人が高齢で、大変そうだったからです。
○　私が自転車に乗っていて、信号待ちをしていると、歩行者が歩いてきました。私は、自転車をよけて歩行者が歩ける道をつくりました。…

○　終末に、ヘアドネーションをしたゲストティーチャー（本校３学年）の体験談を聞く場を設定した。音声のみの提示であったが、生徒は集中して聞き入っていた。また、身近な先輩の実体験を聞くことで、相手を思いやることの大切さについて、さらに考えを深めていることが、感想から伝わってきた。また、職員室内で、「ゲストティーチャーは誰がいいかな。」とつぶやくと、同僚や上司がすぐに反応してくれる。このような雰囲気がつくられていくことも、道徳科の授業を進めていく上で、大きな力となった。

●　相手のことを考えて行動できた体験を想起することに加え、「どんなことをしてもらったら嬉しいか」という内容に触れてみることもひとつだった。

子ども一人一人を受けとめて、認め励ます評価の視点から

（1）学習状況について

生徒は自分の思いや考えを発表することに苦手意識を感じていても、考えていないわけではない。授業の中で自己と向き合い、見つめなおすことをしている。どれだけ実感を伴って感じたり考えたりできているかということ、さらには思いを紡ぐこと、その積み重ねを大切にしていきたい。

（2）道徳性に係る成長の様子について

「決意表明」や「きれいごと」で終わらないように、生徒の発言や思考にゆさぶりをかけ、生徒の言葉で生徒の内なる言葉を引き出すとともに心を掘り下げるような授業を展開していきたい。そのようにできれば、生徒が自分で成長を実感したり、課題や目標を見つけたりできるようになっていくと考える。

小野中学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年11月１日（火）第５校時

授業者：小野町立小野中学校　教諭　坂本　晴生

授業テーマ	差別や偏見が起きる理由の一端が、偏った見方や考え方であることに気付き、差別と偏見がない社会を築こうとする意欲を育む授業

１　主題名　差別や偏見のない社会のために　C−(11)公正、公平、社会正義

２　教材名　「それでも僕は桃を買う」（出典：ふくしま道徳教育資料集−第Ⅲ集−）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よりよい社会の実現には正義と公正さを重んじる精神が不可欠であり、物事の是非を見極め、誰に対しても公平に接することが必要となる。また、自他の不公正に気付き、それを許さないという姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力が重要である。

（２）生徒の実態（生徒観）

本学級の生徒間には、差別や偏見がほとんど見られない。これは、幼少期から「いじめは絶対にダメ」という教育を受けてきたためであろう。しかし、だからこそ差別や偏見が起きる原因や、それらがもたらす不幸を深く理解できず、何気ない言動が差別や偏見につながる可能性がある。

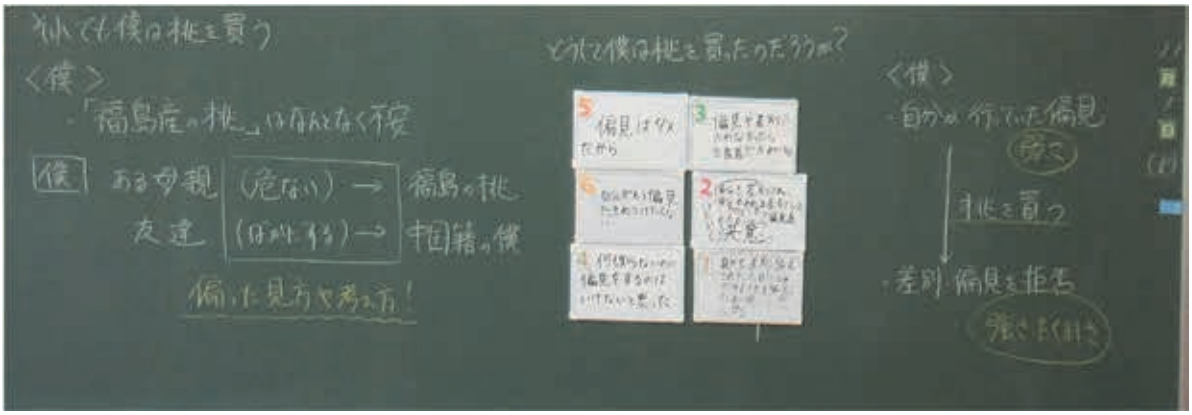
（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、過去に偏見の目で見られた「僕」が、意識しないうちに「福島の桃」を差別していたことに気付き、その不公正を自ら払拭しようとする姿が描かれている。授業を展開するにあたっては、移り変わる「僕」の心情を丁寧にたどりながら、まず、偏った見方や考え方が差別や偏見につながることに気付くことができるようにする。その上で、「僕」が差別に加わっていた自分を許すことなく、断固とした姿勢で否定した姿に触れる。さらに話し合いを通して、人には多数意見に同調したり、傍観したりする弱さがあるが、それを克服していこうとする意欲と態度を育みたい。

４　本時のねらい

桃を買うことを決めた「僕」の心情を考えることを通して、偏った見方や考え方が差別や偏見につながることに気付くとともに、これらのない社会の実現を図ろうとする意欲を育む。

５　実際の板書



６　本時の学習過程

	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される生徒の反応）	時間	○指導上の留意点　※評価
導入	1　東日本大震災とその後の原発事故による県産農林水産物の風評被害の状況を知る。 ・ひどい。悲しい。悔しい。腹が立つ。 ・このような扱いを受けていたとは知らなかった。	5	○　５月の「いわき震災伝承みらい館」訪問を想起させ、風評被害が激しかった当時の新聞記事を提示することを通して、当時の様子を福島県に住む立場から、実感を伴って理解できるようにする。
展開	2　教材から、「僕」の心情の変化を考える。 ○　サービスエリアでの出来事の前の「僕」は、スーパーマーケットの「福島産」にどう対応していたのだろう。 ・　なんとなく不安で、避けてしまうことがあった。 ○　サービスエリアでの出来事の後に、「自分と桃とが重なって見えた」のはなぜだろう。 ・　どちらも事実を知らない周囲に差別されたところ点が同じだ。 ◎　どうして「僕」は、桃を買うと決めたのだろう。 ・　このままだと福島の人々を差別していることになる。 ・　偏見をもたない、差別しないという決意を表したい。 3　主題について、考えを深める。 ○　差別や偏見をなくすために大切なことは何だろう。 ・　他の人のことをよく知る。 ・　他の人の気持ちや思いに想像力をはたらかせる。	25 10	○　教材の内容を整理し、「僕」が「（スーパーマーケットの商品が）検査を受けて市場に出ている」という事実から目を背け、「避ける」という多数の意見に同調していたことを確認する。 ○　正当な理由なく危ないと思われていた福島の桃は、理不尽な理由でばかにされていた「僕」と同じだということ、サービスエリアの母親と「僕」は、同じ偏った見方や考え方をしていたということがとらえられるよう、板書の構造化を図る。 ○　「僕」の心情の変化を、順を追って捉えることができるようにし、差別を受けた「僕」であるからこそ、わずかな時間でも福島の桃に偏見をもって差別した自分を許せず、不誠実な行為を頑なに拒否した思いから、差別や偏見について考えることができるようにする。 ○　話し合いを通して、人には多数意見に同調したり、傍観したりする弱さがあるが、それを克服することが重要であることを考えることができるようにする。 ※　自分の考えと友達の考えを比べたり、様々な立場から考えたりして、多面的・多角的に考えている。（ワークシート）
終末	4　授業を振り返る。 ○　授業を振り返り、感じたことや考えたこと、心に残ったことなどをワークシートに記入する。	10	○　ワークシートに自分の考えをまとめる時間を十分に確保し、じっくりと自分を見つめることができるようにする。 ※　今までの自分を振り返るとともに、公正、公平な社会を実現させるための望ましい在り方について考えている。 （ワークシート）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「自己を見つめる」ために

○　震災当時の報道資料や教師の体験を紹介したうえで教材を通読し、「僕」の心情を考えた。家族から当時の状況を聞いていた生徒も多く、登場人物と自分を重ね、多面的・多角的に考えることができた。

○　登場人物や具体的な場面の様子が想像しやすい教材であったため、生徒は自分のこととして教材を捉えていることが真剣な表情で話し合う姿から見とれた。また、生まれ育った地域への風評被害について詳細に理解することを通して、道徳的価値についてより深く考えることができた。

（２）「深い学びを実現する」ために

○　いわき震災伝承みらい館の訪問時に体験した、語り部の講義を想起させ、震災当時の状況を捉えることができるようにした。

○　事後研究会で、「生徒たちは、大多数の意見（風評）に抗うことができるかどうか悩んでいた」との意見が出された。周囲に同調することが差別や偏見につながる場合があると感じ取り、どのように考えて行動すべきか真剣に葛藤する様子が見られた。

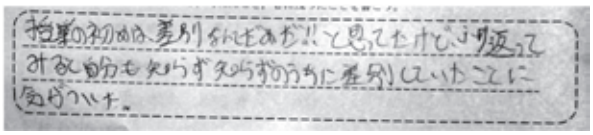
●　本時は授業参観に合わせて実施した。登場人物の母親の思いは生徒に理解できないと考え保護者に意見を求めたが、意見を述べ合う雰囲気が構築できず、ねらいとする授業展開ができなかった。あらかじめアンケートを実施する等の工夫をすべきだった。

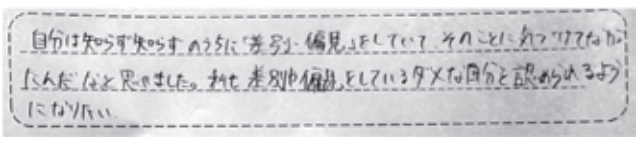
子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　中学生は、道徳科の授業における教師の願いを感じ取り、ワークシートに記入する内容が模範的なもの（教師が求める内容）になることが少なくない。そのため本時に限らず、なるべく生徒自身の本音を引き出せるような発問を行い、生徒が表現したことを受容するよう努めてきた。下の資料は本時の終末で生徒が記入したものである。

　また、本校では生徒が毎日、生活記録ノート（ダイアリー）に日記を記入して担任に提出し、朱書きをして返却している。道徳科の授業についての記載が増えてきた。

　これは生徒自身の振り返りであるが、ワークシートへの記載内容とともに、道徳科の授業を行った教師自身への評価でもあると捉えている。





中島中学校　第２学年　道徳科学習指導案

日　時：令和４年１１月２２日（火）第５校時
授業者：中島村立中島中学校　教諭　田代翔平

授業テーマ	教材、友達、家庭などとのかかわり合いを通じて、家族のそれぞれ立場になって考え、家族の一員として自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする意欲を高めることができる授業

１　主題名　家族の一員として　C-(14) 家族愛、家庭生活の充実

２　教材名　海へ（出典：ふくしま道徳教育資料集　［補訂版］　第Ⅲ集）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

内容項目C(14)［家族愛、家庭生活の充実］は、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと」と整理されている。生まれてから現在に至るまで大半の時間を家庭で過ごし、家族との関わりを通じて、子どもたちは大きく成長していく。今日、家庭における子どもの立場は様々であり、家族は近い存在であるがゆえにトラブルなどが生じることもあり、そのことは子どもたちに大きく影響することがある。家族を構成する一人として、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、どのような役割を果たせばよいのか、家族それぞれの立場になって考え、充実した家庭生活を築こうとする気持ちをもつことが求められる。

（２）　生徒の実態（生徒観）

本学級の生徒は文化祭などの学校行事に協力しながら取り組むなど、互いを認め合いながら生活している。普段から家族のあたたかい言葉や励ましを受けるなど、親からの愛情を受け大切に育てられ、素直で穏やかな生徒が多い。一方、学年が上がるにつれ、少しずつ自我意識が強くなり、自分を支えてくれる一番近い存在である親に対し反抗的な態度を見せるようになってきている。また、家族の気持ちが理解できていなかったり、家族の支えを当たり前に感じていたりして、有難さに気付くことができず、子どものことを考えた言動に対しても親の意向に反した行動をとる生徒もいる。

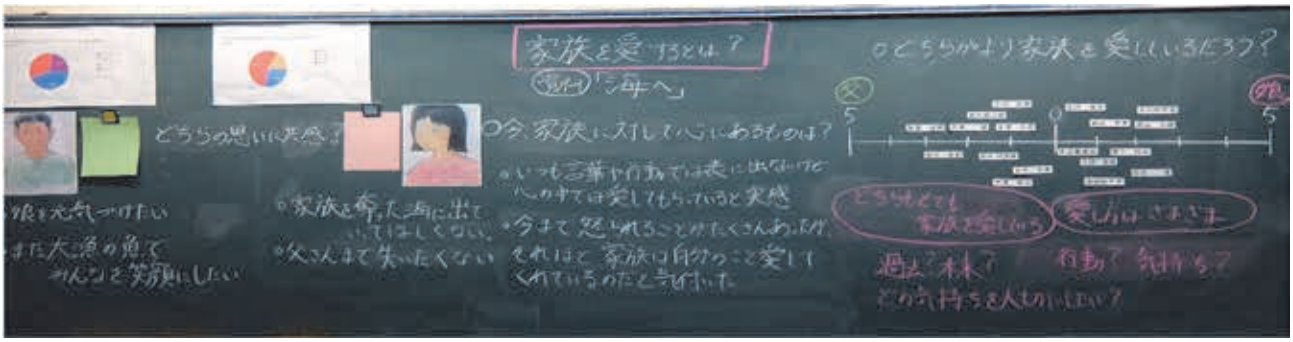
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、震災による津波で家族を失い避難生活をする娘と父が、家族の命を奪った海に対する思いの違いを表す場面を通じて、家族を愛することについて考えるものとなっている。海へ漁に出ようとする言動は父が家族に対して深い愛情をもっているがゆえのものであることに気付くことができるようにし、家族それぞれの立場になって考えさせる機会としたい。また、自分の親からの手紙を読むことで、家族の思いを知り、親の子どもに対する深い愛情や家族に対する願いや思いがあることに気付かせたい。親の立場になって考えることや親の思いを知ることを通して、家族への感謝の気持ちをもち、家族の一員として、家族の幸せを考え、家庭生活をよりよくしていこうとする意識を高めることができるようにしたい。

４　本時のねらい

教材や自分の家族の思いを知ることを通して、自分をかけがえのない子どもとして大切に育ててくれている親の深い愛情に気付き、家族の一員としての自覚をもちより充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

５　実際の板書



６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
導入	1　アンケート結果を見て、現時点での自分の家族に対する思いを把握する。Google Forms 「家族を愛する」とは・・・？	4 1	○　生徒が考える自分の家族についてのアンケート（事前に実施）を示し、道徳的価値への導入を図る。 ・あなたの家族は幸せに感じていると思いますか。 ・家族の好きなところはありますか。 ・これまでに親に不満をもったり。けんかしたりしたことはありますか。 ・あなたは家族の幸せのために、何かできていると思いますか。
展開	2　「海へ」を通して、娘と父のそれぞれの思いについて考える。 （1）「私」と父のそれぞれの家族への思いについて考える。 ○　「私」と父どちらの思いに共感できるだろう。色カード（自由交流） 私　・海は自分たちの家族を奪ったもので、考えたくもないもの。・父も海で失うのが怖い。 ・父が大切でずっとそばにいてほしい。 父　・家族とのあたたかい思い出や絆を感じられるもの。海は自分と家族をつないでくれているものであり、これからも大切にしたい。 ・また大漁の魚で家族（娘）を笑顔にしたい。 ○　より家族を愛しているのはどちらだろう。ネームプレート（班） 3　親からの手紙を読んで、自分の親の家族に対する思いについて考えを深める。 （1）親からの手紙（家族に対しての思いを書いたもの）を読む。 （2）教材や親からの手紙を通して、自分が感じた家族への思いについて考える。 ◎　教材や親からの手紙を読んで、今、家族に対して自分の心の中にあるものは？道徳ノート（個人） ・親は自分が思っている以上に家族のことを思ってくれていて、感謝の気持ちが大きくなった。 ・今まで反抗的な態度をとってしまっていた。もっと親や家族のことを知りたいと思った。 ・自分たちに対する愛情をすごく感じる。もっと自分にも家族のためにできることがあると思う。	10 15 3 10	○　事前に教材を読み、相関図を作ることで、登場人物の気持ちや状況の把握できるようにする。 ○　「私」と「父」どちらの気持ちがより共感できるかカードを使って意思表示することで、意見を交流しながら、それぞれの気持ちを理解できるようにする。 補助発問 ・「『私』はなぜ父に海に行ってほしくないのだろう。」 ・「父は家族をどう思っているだろう。」 ○　ネームプレートで自分の立場を可視化し、議論することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。 ○　「私」「父」の双方の立場で考えることで生徒の言葉から両方とも違う形で家族を愛していることに気付くことができるようにする。 ※　様々な視点で意見を伝え合い、考えを深めている。（発言・意見） ○　手紙を読む前に、自分の親の家族に対する思いを想像できるように働きかけ、自分と親の思いの違いに意識が向くようにする。 ○　手紙を読み、親の考えを知り、自分の言葉で整理し、親の立場になって深く考えることができるようにする。 ○　共有や発表は無理にするのではなく、各自家族と向き合う時間になるようにする。 ※　家族の一員として、充実した家庭生活にするために大切なことについて考えようとしている。（道徳ノート）
終末	4　本時の振り返りをする。 これまでの自分とこれからの自分という視点で、今日の学習で感じたことを記入する。 Google Jamboard（個人）	7	○　教材や親からの手紙など授業で感じたことについて、これまでの自分とこれからの自分を意識して振り返ることができるようにする。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「主題や教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫」について

○　また漁をするために海にでたいという「父」と家族を奪った海へ出てほしくない「私」のどちらにより共感できるかを色カード（思考ツール）を活用しながら、生徒間で共有する時間を設けたことで、登場人物の気持ちを押さえながらも、自分の事として考える時間になった。

○　震災を背景とした教材を扱うことで、福島県民として震災に向き合い、語り継ぐ意義について考える時間となった。

●　震災に対する記憶があまり残っていないため、具体的に自分の生活に置き換えて考えられていなかったり、教材や震災から離れて自分の家庭のこととして考えられなかったりした。自分の経験が語れるように、今後の授業でも継続して、自分の経験を踏まえて考えられるような場面を意図的に設けていく必要がある

（２）「一人一人の考え方を活かす協働的・対話的な言語活動の工夫」について

○　色カードやネームプレートなどの思考ツールを活用し、生徒たちが議論する時間を確保した。意図的指名やコーディネートにより生徒たちの言葉で考えを深めていく姿が見られた。

●　教師の言葉が多すぎると、生徒の思考を止めてしまうことがあるため、できるだけ教師の発話量を減らし、生徒の言葉を生徒間でつないだり、問い返しをしたりすることだけに徹するなど、伴走者としての姿勢が大切である。

（３）「主題に迫るための発問の工夫」について

○　「家族を愛するとは？」という難しいテーマに踏み込んで議論し、生徒と一緒に考えることができた。一人一人自分なりの考えをもっており、このような話合いが自分自身の価値観を明らかにしていく道徳性の成長につながることが分かった。

○　中心発問の「今、家族に対して自分の心の中にあるものは？」を問う前に、保護者からの手紙を読むことで、自分の親の願いやどれだけ自分が愛されているかを知り、自分の中での家族愛について考えることができていた。

［授業の終末の振り返りより（一部抜粋）］

・自分はいままでずっと親に感謝して過ごしていましたが、自分は親のために何かすることはできていませんでした。今回の授業を通して、親のありがたみを改めて知ることができたので、これからは親のため何かできることをしたいです。
・今までは怒られたときにイラついていたけど、怒られるということはそれほど家族が僕のことを愛しているということに気付くことができたので家族に感謝の気持ちを持って生活したいです。
・いつも言葉や行動ではあまり表に出さないけれど、心の中では愛してもらっているんだなと思いました。
・これまでの自分は、一人で抱え込みすぎて苦しい時もあったけれど、家族や周りの人が私のために様々なことやってくれていることに気付き支えられていると感じた。

子ども一人一人を受け止め、認め励ます評価の視点から

○　振り返りの視点として、「これまでの自分」という視点をもって振り返りをさせることで、今までの自分の弱さや本音を踏まえて振り返りをしている姿が見られた。

●　授業で感じたことや悩んだことを、普段の生徒との会話や学活、総合、学校行事につなぎ、実際に行動に移すことへの具体的な支援が必要になってくる。今回のような「家族愛」をテーマとした授業を行った後に、「授業の後、家族とどんなことを話した？」と会話したり、「家族のためにできることを考えよう週間」など学級活動と関連させたりすることで道徳的実践の場のきっかけになるような教育課程を考えていきたい。

会津農林高等学校 第１学年 道徳学習の実際と考察

日　時：令和５年１月１９日（木）第６校時
授業者：教諭　佐原　将大（Ｔ１）
　　教諭　大森　賢治（Ｔ２）

授業テーマ	日常生活の中にある事象や教材などから、級友との価値観の違いに気付くとともに、互いのよさに目を向け、他者を尊重しようとする態度を育む授業

１　主題名　互いのよさに目を向けて　Ｂ－（９）相互理解、寛容　※中学校内容項目

２　教材名　もう１人の八重　～日本のマザーテレサ「井深八重」～
（出典：ふくしま道徳資料集［補訂版］第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」）

３　主題設定の理由
（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）
人間相互の理解は、自分の考えや意見を発信することが一つの鍵になる。様々な物事について、自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、相互理解を深めるために欠かすことができない。人間は、大抵の物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。そこで大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。また、自分自身も他者も、それぞれのものの見方や考え方にとらわれ、過ちを犯しやすい人間であると深く理解することで、自分とは異なる他者の立場や考え方を尊重することができる。寛容の心をもてば、人を許し受け入れてとがめだてしないで、他者のよい面を積極的に認めようとすることができる。

（２）生徒の実態について（生徒観）
本校は3つの学科を有し、学科ごとに学級を編制しているため、教科学習や実習等、学校生活の大半を級友と過ごすことになる。入学して間もない1学年の生徒は、新たな環境で級友と出会い、見方や考え方の多様性を実感し、当初は親しく交わる様子は見られなかった。しかし、入学から2学期間を一緒に過ごす中で、自分の考えや意見と相手との差異を理解しながら、少しずつ親交を深めてきている。

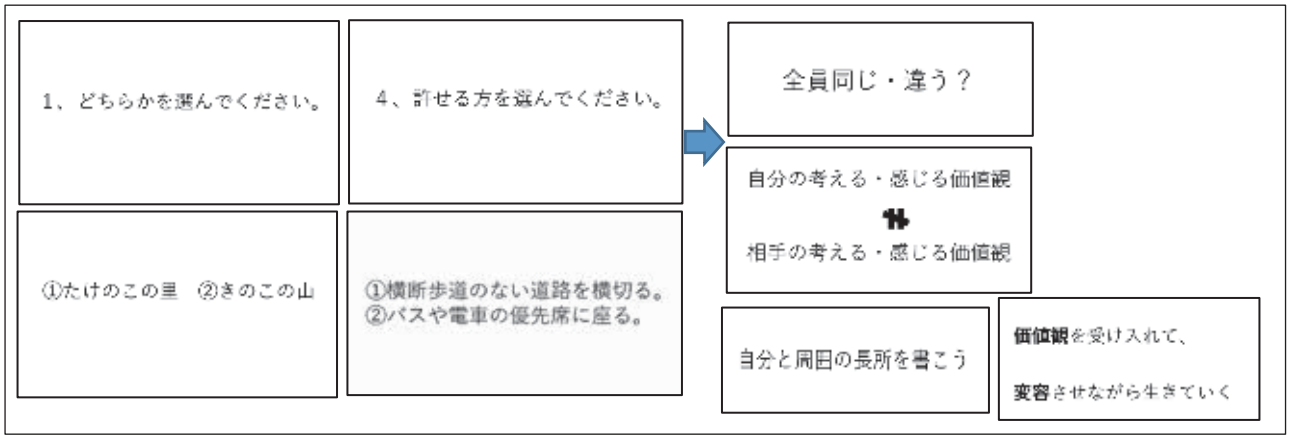
一方で、自分自身については自信がもてず、自己肯定感が低い生徒が多い。そのため、自分と他者の考えや意見の違いが明らかになることを恐れたり、考え方の違いから関係性が壊れないよう他者に過剰に同調したりする様子も見受けられる。他者に認められる経験を通して自分の個性を伸ばしていくことが道徳性を醸成していくために大切であると考える。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）
教材は会津藩家老の流れをもつ名門一家に生まれた井深八重の半生をえがいた伝記である。ハンセン病であると誤診されたことをきっかけに、見知らぬ土地で絶望的な毎日を過ごすことになった八重の姿から、差別や偏見について考えさせたい。

指導に当たっては、日常生活の中にある価値観の違いを二択で問ういくつかの質問をウォーミングアップとして行う。その上で本教材を読み、「差別や偏見」に対する価値観を問いたい。その際、「許せる」「許せない」という二択ではなく、その度合いを可視化できる形でワークシートに表すようにし、価値観の微妙な違いについて気付かせたい。そして、自分と級友の「よさ」を付箋紙に書き出し、伝え合う活動を行い、自己理解を深めるとともに自己肯定感を高めさせたい。

４　本時のねらい
誤診をきっかけにつらい日々を過ごした八重の姿から、差別や偏見について考え、級友との価値観の違いに気付くとともに、互いのよさに目を向け他者を尊重しようとする態度を育む。

5　板書計画（実際の板書）　※授業で使用したスライドの一部を掲載



6　学習過程

段階	学習活動	時間（分）	◇指導上の留意点　◆評価（評価方法）
導入	1　二択の質問で自分を見つめ級友との違いに気付く。	5	◇二択の質問を提示し、場所を移動し自分の立場を示すように促す。 ◇嗜好や価値観の違いがあることを全体で確認する。
	価値観の違いを受け入れ、よさに目を向けよう。		
展開	2　資料を読み内容を理解する。	5	◇資料の注釈部を確認しながら、内容の理解を助け道徳的価値の問題場面を捉えることができるようにする。
	3　八重らハンセン病患者に対する差別や偏見について自分の考えをもつ。 （1）ワークシートに自分の考えを記入する。 （2）２人組になり、ワークシートをもとに自分の考えを伝え合う。	１０	◇ワークシートの使い方を説明し、差別や偏見に対する自分の考えを記入できるようにする。 ◆自分の立場をワークシートにマッピングし、相互理解、寛容について自分事として考えている。（ワークシート） ◇考えの善し悪しではなく、ワークシートに記入されたことをもとに、価値観の違いを視覚的に捉えられるように促す。
	4　自分のよさ、級友のよさについて考える。 （1）自分のよさと級友のよさを付箋紙に書き出す。 （2）付箋を級友に手渡す。 （3）級友からもらった付箋を仕分けする。	２５ (20) (５)	◇誠意を持って記入するよう伝える。 ◇Ｔ１、Ｔ２も記入し、随時手渡す。 ◇自分のよさ、級友のよさを一人につき３つずつ記入するよう促す。 ◇付箋紙の内容を「自覚していた」「していなかった」でワークシート上に分類する。
まとめ	5　本時の内容を振り返る。	5	◇価値観は多様であること、自分や級友のよさも感じ方が様々であることに目を向け，相互理解、寛容について考えたことについて振り返ることができるようにする。 ◆価値観の多様さ、自分と級友のよさを多面的・多角的にとらえ相互理解、寛容について考えを深めている。（ワークシート）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「授業のねらい（内容項目）に応じて、適切に教材を選定する」について

○　授業を構想するに当たって、ねらいとする内容項目（相互理解、寛容）を明確にした上で、資料を選定した。（本時で取り扱った教材（「もう一人の八重　～日本のマザーテレサ『井深八重』～」）は、内容項目「思いやり、感謝」として例示されている。）

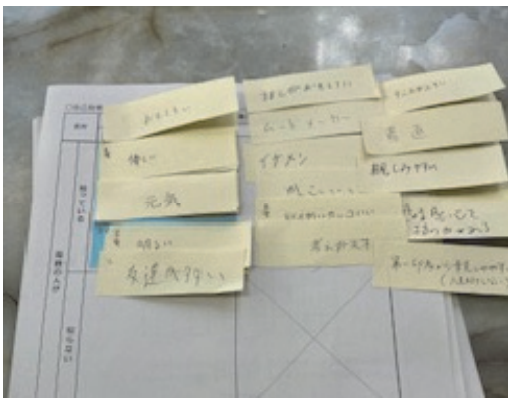
本時で教材を取り扱うに当たり、扱う箇所を精選したり、発問を一つに絞ったりしたりした。これにより、話合いが焦点化され、授業のねらいを達成することができたと考える。

● 「ふくしま道徳教育資料集」の存在そのものについて、校内で十分な周知が図られていなかった。本授業を行うに当たって、研究授業の日時・教室等を全教員に告知した。授業当日は同学年の教員のほか、実習担当教員等が参観をした。

今後も資料集を活用した授業を実施し、活用事例を校内で共有していきたい。

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

（１）「重点とする内容項目について生徒の姿をもとに評価する」について



○　年度当初に設定した第１学年で重点とする内容項目は「思いやり、感謝」であった。しかし、本授業を実施した時期は２学年への進級を見据えた時期（３学期）であったため、次年度から本格化する農業実習の充実に向けてねらいとする内容項目を「相互理解、寛容」として実施した。

本時では、じっくりと自分に向き合い、自分のよさを考えたり、級友への「思いやり」の気持ちをもって、級友のよさを付箋紙に記入したりする姿が見られた。授業中は「級友のよさだけでなく、自分のよさも書いてみよう」と投げかけ、自己を見つめ直すように促した。また、授業後はシートに朱書きし、自己を見つめられたこと、多様な価値観を認めようしていることについて認め、励ます評価を行った。今後は内容項目に焦点化した振り返りができるよう改善していきたい。

● 道徳の授業づくりについては、町教育委員会と連携し、町内の小・中学校との相互授業参観を実施してきた。高等学校の教員は道徳科の授業を実施したことがないため、他校種の授業を参観することは大変意義深かった。小・中学校とつながりのある道徳教育を実施していくためにも、今後も小・中学校と連携しながら授業づくりの一環として「評価」についても研修を継続していきたい。

田島第二小学校　第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和４年１０月３１日（金）第５校時
授業者：南会津町立田島第二小学校　教諭　遠藤　貴士

授業テーマ	今までの生活を振り返るとともに、友だちと話し合い多様な考えを交流することで、親切についてより深く考える授業

１　主題名　友だちへの親切と見ず知らずの人への親切　Ｂ－（７）親切、思いやり

２　教材名　「おばあちゃんの指定席」　（出典：学研　新・みんなのどうとく⑥）
（関連教材：ふくしま道徳教育資料集「５００人の大家族」）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

相手に対する思いやりをもち親切にすることは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的な姿勢であり、これからの社会を生きていく子ども達にとって「親切、思いやり」は重要な価値といえる。そのためにも、自分自身が相手に対してどのように接し、心を配ることが相手のためになるのかをよく考えることが大切であり、相手のことを思いやり、相手にとって本当に必要なことを見いだせる豊かな心を養うことが求められる。

（２）児童の実態について（子ども観）

子ども達は、授業中に問題の解き方をアドバイスしたり、落ち込んでいる友達に声をかけたりするなど、進んで親切な行動をしている姿が見られる。また、今までの学習や経験から、相手の立場に立って思いやりの心を抱くことの大切さや、心や思いの伝え方について理解している。しかし、学級内で声をかける相手や親切にする対象を、自分とのつながりの強さで判断している様子が見られ、誰に対してもその相手のことを考えて親切にすることの判断力はこれから育っていくと考えられる。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

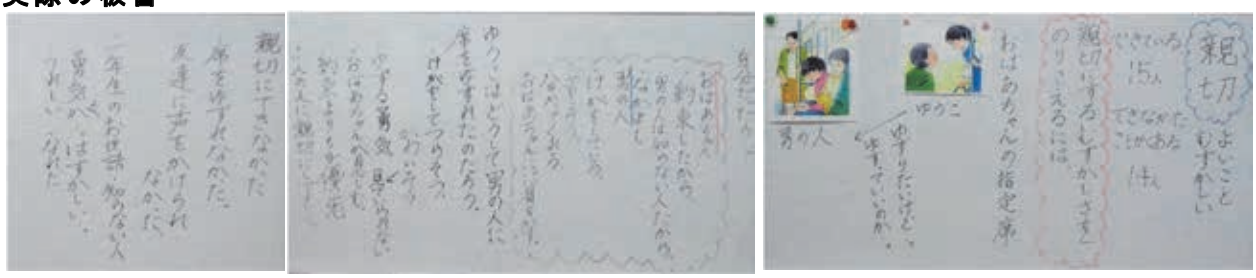
本教材は、おばあさんに席をゆずれなかったゆうこの姿を考えることを通してねらいに迫るものである。本時では、導入でアンケートの結果を提示し、「親切にした」「親切にできなかった」場面での出来事やエピソードを共有していく。その中で、親切にできなかった場面に焦点を当てていき、価値の方向付けを図っていく。展開前段では、ゆうこの気持ちを考えさせることで、ゆうこを通して自分が親切な言動を行うときに大切にしている価値観に気付かせる。また、話し合いの中で、ゆうこが迷いながらも親切な行動ができた理由を問うことで、相手の立場に立って親切にすることの難しさや尊さを感じさせる。展開後段では、アンケートの結果に戻り、自分達の生活を振り返ることで、今後の自分の生活をよりよいものにしていこうとする心情を育みたい。

本時との関連を図り事後には、ふくしま道徳教育資料集「５００人の大家族」を活用し、話し合う。また、家庭でもふくしま道徳教育資料集をもとに話し合う機会を設定することで、「親切・思いやり」について振り返り、児童自身の成長や価値観の変容を感じさせていく。

４　本時のねらい

仲のよいおばあさんと、怪我をした人の間で席をゆずるかどうかで迷うゆうこの気持ちを話し合うことを通して、人間関係の深さを乗り越えて誰に対しても親切に接する心情を育む。

５　実際の板書



6　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○ 指導上の留意点　※ 評価
導入	1　学級の実態から課題をつかむ。 ○　親切にした、できなかったことはありますか。 親切にする難しさを乗り越えるには。	3	○　事前に行ったアンケート結果から、「親切にした」「親切にできなかった」場面を想起させ、親切にすることの難しさを感じている子の言葉を広げることで、本時のねらいへの方向付けを行う。
展開	2　教材文について考える。 ○　おばあさんと来週の約束をした時のゆうこはどんなことを考えていたのだろう。 ・ワクワク　・早くおばあさんに会いたい。 ○　座ったままじっと考えたゆうこは、どんなことを考えていたのだろうか。 ・男の人にゆずる。 →おばあちゃんなら分かってくれる。 →男の人の方が困っているから。 ・ゆずらない。 →おばあちゃんとの約束を守りたいから。 ◎　ゆうこはどうして男の人に席をゆずることができたのだろうか。 ・迷う気持ちもあったけど勇気を出した。 ・おばあさんとの約束も大事だけど、男の人を助けたいと強く思ったから。 3　アンケート結果から、自分の生活を振り返りゆうこの行動を価値づける。 ○　親切にできなかった人は、どんな迷いがあっただろうか。また、親切にできた人は迷う気持ちは少しもなかっただろうか。 ・親切にしたかったけれど、知らない人だから声をかけづらかった。 ・親切にする前は少し緊張したけれど、感謝されてよかったと思えた。 ○　自分だったらゆうこにどんな言葉をかけてあげたいですか。 ・約束も大切だけれど、困っている目の前の人を優先できてすごい。 ・わたしは、親切にするときに迷う気持ちがあるけれど、ゆうこさんのように勇気を出してみたいと思う。	25 15	○　教師が範読した後、どのような内容かを確認することで、全員が話の大体をつかめるようにする。 ○　「心情円グラフ」を用いて、自他の立ち位置を明らかにしていく。さらにそれぞれの理由を問いながら、迷っている友達の思いが自分の心の中にもないか問い返すことで、自分の心の中にも多様な価値観を持っていることに気付かせていく。 ○　迷いや葛藤を乗り超えて行動に移す大切さに気付くように問う。 ※　多様な感じ方、考え方を受け止め、自分の思いや考えと比べて考えている。（発言・記述） ○　アンケートの結果から、「親切にできた」「親切にできなかった」両方の子どもの考えを取り上げることで、親切な行動を行うときの迷いや葛藤を具体的に考えることができるようにする。 ○　自己を見つめる時間を十分に設定し、ワークシートに考えを書かせる。 ※　親切にすることの難しさと、それを乗り越えようとする気持ちについて自分の経験と重ねて考えている。 （発言・記述） ○　相手の立場に立った親切について考えを深めた子どもの気付きを取り上げ、全体に広げていく。
終末	4　教師の説話を聞く。	2	

事後	1　「500人の大家族」を読み、相手のことを考えた父やわたしの気持ちについて話し合う。 ・　自分だったら、相手のことを考える余裕がない。自分よりも相手のことを優先していてすごい。 2　震災時に実際にあった「思いやり、親切」について考える。		○　震災時でも、相手のことを思うことの尊さに触れ、「思いやり・親切」の視点で考えを深められるようにする。 ○　「500人の大家族」を家庭で話題にすることで、震災を身近に感じられるようにする。 ○　家庭で震災時に体験したり感じたりした「思いやり、親切」について話し合う機会を設ける。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

○　6年生は2011年に生まれた児童が多く、震災についての記憶はない。しかし、昨年度から、「ふくしま道徳教育資料集」を基に、震災の年、その翌年に生まれたことについてどう考えるか話し合う時間をとってきた。児童は真剣に話合い、後の世代に震災を伝えていく責任感を感じている。今年度は、本校の道徳科の重点項目である「親切・思いやり」の授業のまとめとして、教師の説話でふくしま道徳教育資料集から会津地方の「500人の大家族」を活用し話し合った。中学校の教材ではあるが、「親切、おもいやり」について今までの授業のワークシートを振り返り、自分の大切にしたい価値を考えてきた6年生にとっては、更に考えを広める内容となった。

○　「500人の大家族」を家族と話し、感じたことを書くという課題を出したことで、家庭で震災について話し合うきっかけをつくることができた。保護者からは、「子どもが震災の話を真剣に聞く姿が新鮮だった。」「一緒に物語を読むことで、震災当時のことを改めて思い返す機会になった。」「防災意識が高まった。」などの声があり、家庭との連携を図った取組となった。

●　家庭で取り組む課題としても教材を活用したが、家庭によって取組に差が見られた。震災について深く考えるために、授業参観や行事と結びつけて保護者や地域人材を活用することが効果的であると感じた。

自己を見つめ深い学びを実現する道徳科授業の工夫

（1）「児童の実態から気付かせたいことを明確にしたねらいの設定」について

○　導入で事前アンケートの結果を紹介することで、「親切にしたかったが行動に移せなかったことがある。」「親切な行為を行う時には難しさを伴うことがある。」という実態を共有し、親切な行動をすることの難しさを乗り越えるという課題意識をもつことができた。

●　アンケート結果は提示することで意識付けになった。さらに効果的に活用するためは、児童に問い返しながら話合いを深め、より自分事として課題を捉えられるようにしていく必要があった。

（2）「児童により深く考えさせる発問の工夫」について

○　話合いの中で、揺さぶりの発問を行うことで、相手の立場に立った親切について考えることができた。

○　心情円グラフを用いることで、内面の視覚化をすることができた。また、心情円グラフがあることで、自分の立場を決めて話合いに参加し、他者と自分の考えを比べながら話を聞くことができていた。

●　考えを深める場合、自分たちで考えをつなげられるようにしていくことが大切である。そのために、子どもに「任せる」「委ねる」時間を十分に確保していく必要があった。これは道徳科だけではなく、どの教科等においても継続していくことで、本音で話し合う雰囲気が醸成されると考える。

●　自己を振り返る時間を充分に確保し、今後の生活に生かそうとする態度を育てていくことが大切であることを改めて考えさせられた。

（3）「多様な考えから自分の考えの深まりを実感できる振り返りの工夫」について

○　教材から離れ、自分の経験に返すタイミングで、アンケート結果を再度確認し、「親切にできた」「親切にできなかった」双方の場面を想起させることで、親切な行動をする時の迷いや葛藤に気付かせることができた。そして、親切にできたときの誇らしい気持ちと親切にできなかった時の後悔の気持ちを言語化することで、ねらいに対する考えを深めることができた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　アンケートから、事前の自分の考えを確認することで、授業の後の考えの深まりを実感できるようにしている。また、ワークシートに考えの深まりを記入し、累積することにより年間を通してどのように変化してきたかを捉えることができるようにしている。教師は、授業の様子やワークシートから、気付いたことを児童にフィードバックさせることで認め励ます評価としている。

富岡小学校第６学年　道徳科学習指導案

日　時：令和４年７月１５日（金）第５校時
授業者：富岡町立富岡小学校　教諭　佐藤　雄介

授業テーマ	話合いを通して、色々な見方・考え方に触れ、自己を振り返り見つめ直すことができる授業

１　主題名　支え合いや助け合いに感謝して　Ｂ－（８）感謝

２　教材名　ひまわり（出典：ふくしま道徳教育資料集）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

感謝の気持ちは、よい人間関係を築くために必要である。児童は日々の生活が、家族や過去からの多くの人々の支え合いや、助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えることで自他を尊重する温かな人間関係を築いていく。それらの過程を通して、人々の善意に応えて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践する意欲を高めていくことが重要である。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、最高学年として、異学年集団の班長や委員会でのリーダーを経験してきた。昨年度からも下級生に頼られ、感謝される存在になってきている。また、家族や担任など身近な人への感謝をしっかり伝えることができている。その一方で、身近ではない人に対しては、支えられていることに気付かなかったり、お世話になっていることを忘れてしまったりしていることに課題がある。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

支援物資として送られてくる本に喜ぶものの、支援をする人々の思いにまで気付かない震災時の話である。自分を支え励ましてくれる他者の存在に気付いたことで自分にできることは何かを考えていく主人公の姿や思いに共感させることができる教材である。

本時では、日常を振り返ることで、自分の日常が多くの人々の支援や協力の上で成り立っていることに気付かせたい。そして感謝の思いを言葉や行動で表現できるよう、思考を促したい。また、教材文の読み取りをしやすくすること、家庭で本教材が話題になることをねらい、教材文を事前に家庭で読むようにする。

４　本時のねらい

自分達の生活がどんな人に支えられているかを考え、話し合う活動を通して、人々の支え合いや助け合いで生活が成り立っていることに感謝し、それに応えようとする心情を育む。

５　板書計画

６　学習過程

段階	学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
導入	1　本時の課題をつかむ。 ○　誰かにしてもらってうれしかったことを振り返る。 ○　本時の課題をつかむ。 支える人の気持ちって･･･	5	○　事前に教材文を家庭で読んでくるよう指示することで、価値理解を深めた上で、話し合うことができるようにする。 ○　児童の身近にある「支える人」が想起しやすいように、教師が寸劇を行う。
展開	2　教材文を読んで考える ○　健太と話が盛り上がった時の純也はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・他の学校がうらやましい ・本よりも有名人の方が嬉しい ・もっといい物を送ってほしい ◎　はっとした純也は何に気がついているでしょう。 ・感謝することを忘れてしまっていた ・応援してくれる人が日本中にいる ・お母さんを元気にしていた ○　純也はこのあと、どんな行動を取ると思いますか。 ・図書室に行って本を読む ・本をくれた人に感謝を伝える 3　自分を振り返って考える。 ○　自分を支えてくれている人はどのくらいいるでしょう。 ・顔はわかるけど名前は知らない ・「ありがとう」と言っている ○　紹介した人からのビデオメッセージを見る。 ・　紹介した人からのビデオメッセージを見て支える側の思いに触れる。	３０ (15) (15)	○　教材文に掲載されている歌「ひまわり」の音源を流すことにより、教材文が実話であることを確認する。 ○　支える側の気持ちを考えていない純也達の思いを共有することで、次の話合いにつなげることができるようにする。 ○　純也の気持ちが変化した部分を確認しながら、ものではなく支える人の思いに気付くことができるようにする。 ○　教室前方で腰を下ろし、円になって話し合う。その際、お母さんの思い以外に気付いていることはないのかを、「もし」や「たとえば」で問い返す。 ※　色々な見方で感謝について思いを巡らす純也の気持ちを考えている。（発言） ○　冒頭の純也の言動や行動を再度取り上げ、純也が今後どんな行動をするかと考えを巡らせることで、感謝についてより深く考えることができるようにする。 ○　教材業者や調理員の方々の顔写真を提示することで、それぞれの名前を知り、支えてもらっていることに気気付くことができるようにする。 ○　感謝の言葉を伝えているという児童に対し、「具体的にいうと」等子どもの思いが表出できるよう問い返す。
終末	4　本時の振り返りをする。 ○　これからの自分の生活でどんな感謝ができるか ・　今まで支えられていると思っていた人、そうでない人どちらにもどんな感謝があるかを考える。	１０	○　感謝についてのエピソードを紹介するなどして、感謝についての考えを広げ･深めることができるようにする。 ※　今までをふりかえり、自分事として感謝について考えている。（ワークシート、発言）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「道徳的価値を多面的・多角的に捉えたり、考えを深めたりする問い返しの工夫」について

○　児童の考えに「もし」や「例えば」という他の可能性を提示しながら問い返したことで、色々な見方で主人公の気持ちを想像することができた。

○　感謝を伝えているという児童に対して、「ありがとうだけでいいの？」とゆさぶったことで、ただ感謝を伝えればいいわけでないことに気がつき、考える必要性が高まった。

●　少人数のため、児童と教師との一問一答のようなやり取りとなってしまうことがあり、多様な意見が出にくい傾向がある。教師の関わりを充実させたり、ゲストティーチャーを活用したりするなど、様々な考えに触れられるようにしたい。

（２）「少人数学級ならではの話合いの工夫」について

○　教室前方に集め、座って円になり教員も話合いに参加することで、自分の考えを表出しやすくなり話合いが活性化された。

○　話し合う際に短冊を使用し、キーワードで書くことでつぶやきを板書に生かしやすくし、発言がしやすくなった。話し合う際に短冊を用いたことで、つぶやきがそのままキーワードとなり、これまで見えにくかった児童の思いが見えやすくなった。また、教師の問いかけによって、感謝についての深い思いを聞き出すことができた。

（３）「教材や児童の実態に合わせた多様な指導方法の工夫」について

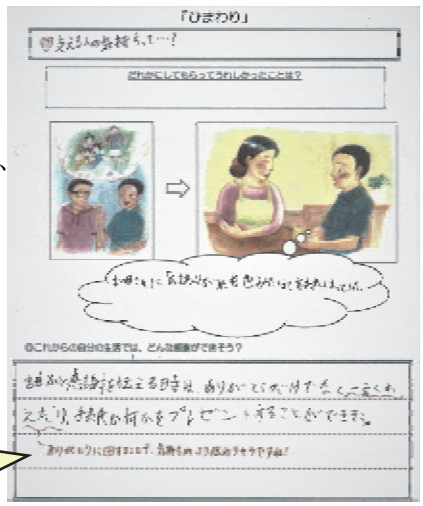
○　「ふくしま道徳教育資料集」の内容は、児童の実態と照らし合わせると、やや難易度が高いと感じた。そのため、事前に家庭で教材文を読ませる「事前読み」を行った。それにより内容項目への価値の理解を深めたり、展開部分がスムーズに進み、教材から良いタイミングで離れたりすることができた。

○　児童の実態として、様々な経験値が浅く、自分たちを支えてくれている人への気付きや感謝の対象の幅が狭いことが考えられたので、動画によるゲストティーチャーを活用した。教材業者や給食調理員の方に、「なぜ子ども達のために仕事をしているのか」についてインタビューしたものを事前に録画し、視聴した。テロップをつけることで話の内容の要点絞ってまとめ、実際に表情を見ることで思いを感じ取ることにつながった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　児童の発言やつぶやき、表情などを見取ることに加え、ペアでの話合いや役割演技、書く活動を取り入れることで、自分の気持ちや考えを表現できるようにした。

○　ワークシートを道徳科のファイルに蓄積し、児童の成長を継続的に見取ることで、教師が蓄積された記録を基に評価をすることができた。



書く活動を通して、どんな感謝があるのかを児童自身が振り返った。道徳科の学習状況を見取り認め、励ます評価につなげた。

小川小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和　４年１１月　９日（水）　第３校時
授業者：いわき市立小川小学校　教諭　板倉　恵一

授業テーマ	思考ツールの活用や意見交流を通して、物事を多面的・多角的に考え、希望を持ってやり抜くことのすばらしさについて考えさせる授業

１　主題名　あきらめない心　Ａ－（５）希望と勇気、努力と強い意志
２　教材名　きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～（出典：ふくしま道徳教育資料集）
３　主題設定の理由
（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よりよく生きるには、目標や夢は欠かせないものであり、それを実現できた時の成就感や達成感は、次の活動への原動力になる。ただ、達成に至るまでは困難を伴うことが多く、それにどのように向き合い、どのように乗り越えていくかは、よりよく生きるために非常に大きい問題であると考える。思春期を迎え、他と比べてしまいがちな高学年の時期、様々な生き方への関心を高め、児童の中に、夢や希望をもって、より前向きに努力しようとする態度を育むことは、重要なことだと考える。

（２）児童の実態（子ども観）

委員会活動や縦割り班でのリーダーシップ、陸上大会に向けての練習など、集団として目標に向かって努力する経験は積んできている。道徳アンケート「上手にできなくても、あきらめずにがんばることができる」「どんなことに対しても、一生懸命に取り組むことができる」という質問に対しても、８０％の児童が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。しかし、一人一人の学習や行動を見ると、目標の設定が低かったり、自分で考えずに友達の判断を待っていたりなど、まだまだ課題が見られる。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

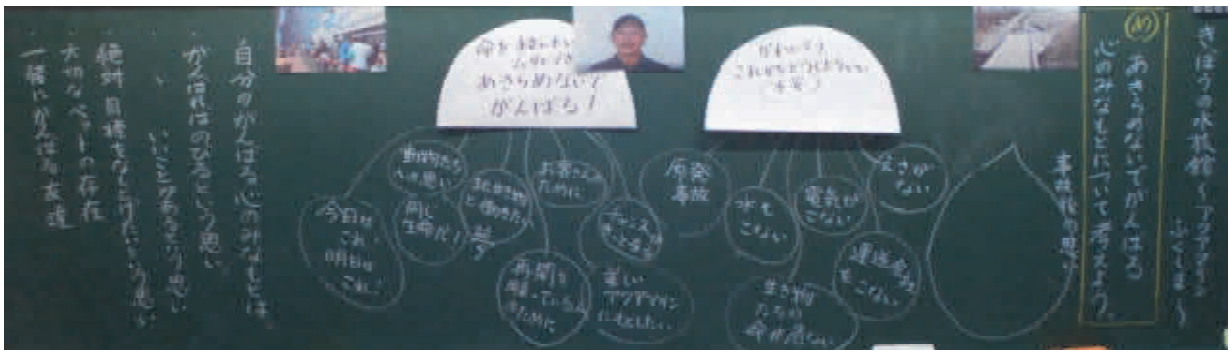
本教材は、２０１１年の東日本大震災において甚大な被害を受けた「アクアマリンふくしま」を、わずか４ヶ月での再オープンにつなげた飼育員達が主人公である。困難な状況にあってもあきらめず、生き物の命と向き合い続ける献身的な姿から、希望を持つことのすばらしさ、困難を克服する人間の強さについて、考えを深めることができる教材である。

まずは、各家庭で震災体験を語ってもらったり、写真資料を活用したりすることで、飼育員達が置かれた危機的状況を、児童がとらえられるようにしたい。飼育員の津崎さんの思いを想像する場面では、クラゲチャートを使い、多面的・多角的な思考を促す。その後、全体で意見交流をすることで、前向きと後ろ向きな思いが入り混じった思いを深く想像させたい。そして、津崎さんへのインタビュー映像を視聴することで、人間の強さや、希望をもってやり抜くすばらしさを感じることができるようにし、目標に向かってがんばろうとする心情を育みたい。

４　本時のねらい

困難や失敗にもくじけることなく、希望をもって、理想に向かって前進しようとする心情を育む。

５　実際の板書



6　学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○　指導上の留意点　※　評価
導入	1　本時の課題を確認する。 (1)アンケート（今まで目標に向かって頑張ったことは？）の結果から、今までの自分を振り返る。 ・持久走記録会・漢字テスト・ピアノ (2)アクアマリンふくしまの震災直後と再オープン時の写真を提示し、本時のめあてをつかむ。 あきらめないでがんばる心のみなもとについて考えよう。	5	○　アンケート結果からこれまで努力した経験を想起させ、本時の学習を自分事として捉えられるようにする。 ○　たった４ヶ月での再オープンの裏には、職員の大変な頑張りがあったことを想像させ、本時のめあてにつなげる。
展開	2　教材文を読んで話し合う。 (1)事故後の津崎さんの思いを考える。 ○　地震、津波、原発事故の後、津崎さんの心の中には、どんな思いがあったと思いますか。 ・あきらめない、絶対救う→前向き ・もう無理かも→後ろ向き ◎津崎さんの、前向きに頑張る心の源を考えましょう。 ・命をつなぎたいという思い ・自分の夢・亡くなった動物への思い ・お客さんの笑顔 ・応援してくれる仲間の水族館 (2)津崎さんへのインタビュービデオを視聴する。 ○　新しく分かった、津崎さんの頑張る心の源はありますか。 3　自分との関わりで考える。 ○これまで頑張れたことを思い出し、自分の頑張る心の源を考えよう。 ・自分がやりたいこと　・自分の夢 ・自分を応援してくれる人　・楽しみ ・責任感　・一緒にがんばる友達	25 10	○　範読では、震災直後の写真、放射性物質に関する資料を活用することで、その危機的状況を押さえられるようにする。 ○　児童の発言を前向き・後ろ向きに整理した後、クラゲチャートを使い津崎さんの思いに両面から迫らせる。後ろ向きになる理由ついては全体で、前向きに頑張る心の源については個人で考えた後に全体で話し合い、津崎さんの様々な思いを想像することから、「がんばる心」について考えることができるようにするようにする。 ○　津崎さんの震災当時の思い、頑張ることができた理由、現在の思いを聞く。 ○　ビデオを視聴しながら、津崎さんの頑張る心の源を、クラゲチャートにつけ加えさせる。 ※　津崎さんの頑張る心の源について、多面的・多角的に考えている。 （ワークシート・発表） ○　ワークシートを活用し、考えを深めることができるようにする。 ○　全体で交流し、よいと思った考えは、ワークシートにつけ加ることで考えを広めることができるようにする。 ※　自分の頑張る心の源について、考えを深めている。（ワークシート・発表）
終末	4　本時の学習を振り返る。 (1)振り返りシートに自己評価をする。 (2)担任の頑張る心の源を聞く。	5	○　身近な大人にも頑張る心の源があることに気づかせ、自分も頑張ろうという心情を育む。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「自己を見つめる時間を重視すること」について

○　自己を見つめる時間を確保するため、「前日に家庭で教材文を読ませる」、「保護者から震災当時の体験を聞いておく」、「教材文の内容を確かめる際、あわせて写真資料を活用する」工夫をし、比較的短時間で教材文の内容をつかませることができた。

○　いわき市の児童にとって身近な、「アクアマリンふくしま」の復興が題材であること、そして、そこで働く津崎さんの生の声（担任がインタビューしたビデオ）を聞くことができたことは、津崎さんの思いや、自分の頑張る心について考える意欲を引き出したと思われる。いつも以上に真剣に取り組む姿が見られた。

（２）「思考の見える化」について

○　地震・津波・原発事故後の津崎さんの思いを、クラゲチャートを活用して前向き（あきらめない）・後ろ向き（不安）の両面から考えさせた。思いの理由を、児童の発表をもとに「クラゲの足」に示していくことで、津崎さんの思いに多面的・多角的に迫ることができた。

●　時間の関係上、後ろ向きの理由については、全体で考え、一部の児童の意見で進める形となった。事後研究会でもご意見をいただいたが、できれば、前向き・後ろ向き両方の理由を、各自に考えさせたかった。グループで意見を交流しながらクラゲチャートに取り組むという方法もあった。

（３）「発問の工夫」について

○「あきらめないで頑張る心のみなもとについて考えよう」というめあてを設定し、「津崎さんの心のみなもとは？」そして「自分の心のみなもとは？」と、授業を一本の流れにすることができた。一本の流れにすることで、子どもたちは自分をふり返りやすかったと思われる。

●「考え、議論する道徳」ではなく、「考えた意見を出し合う道徳」という形で終わってしまった。教師のコーディネート力を上げ、みんなで考えを深めていく経験をさせたいと感じた。

●　指導案作成当初は、めあてを「どうしたら、あきらめないでがんばることができるのか」としていたが、協議や助言により「あきらめないでがんばる心のみなもとについて考えよう」とした。その結果、児童が「行為」ではなく、自分の「心」を見つめる活動になったように思う。今後も、めあてや発問を吟味して、道徳科に臨むようにしていきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　自分が頑張る心のみなもととして、まず、「目標」や「信念」、「成長の実感」等の意見が、出された。その後、机間巡視で見つけていた「ペットの存在」や「仲間の支え」という意見を引き出し、全体で共有することができた。頑張る心のみなもとは、人や場合によって様々なものがあることを、児童が考えることができたと思われる。

○　事後研究会の中で、「頑張れなかったことではなく、前向きに頑張れたことに視点を当てていること」、「自分がプラスに行動できた原動力を考えさせていたこと」がよかったという意見をいただいた。今後の道徳科でも、どうしても後ろ向きになってしまう行動や気持ちに共感しつつ、前向きにできたことや前向きな気持ちを見つめさせ、児童に自信を持たせていきたい。

【Q&A】

道徳科の教育課程Q&A

学習指導要領Ｑ＆Ａ［特別の教科　道徳］（小・中）

１　なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてほしい。

「特別の教科　道徳」（以下　道徳科とする）については、小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から他教科に先駆けて先行実施された。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の５点が挙げられる。

（１）目標の明確化
⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己（人間）の生き方についての考えを深める学習を通して」

（２）体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善
⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

（３）　多様な指導方法の工夫
⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

（４）　魅力的な教材の開発や活用の工夫
⇒地域教材の積極的な開発と活用

（５）　評価
⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

２　道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画（ロードマップ）を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

□　「重点目標」「指導の重点化」（重点とする内容項目の設定）を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。

□　「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。

□　別葉をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしていくか。

□　評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

３　道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

４　教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法３４条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第２条には、「教科書」とは、‥学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材‥」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

５　道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「‥道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。‥地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあっては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳ＷＥＢ版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

6　学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道徳教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（ＷＥＢ版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

7　自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

8　「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

「『特別の教科　道徳』の指導方法と評価について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の３つが示された。これらは「考え、議論する道徳」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら３つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

9　複式学級における道徳科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳　第３　指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第１節　内容構成の考え方（３）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科　道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の３例が想定される。

Ａ　学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
Ｂ　２年間分をそれぞれ第１年次（Ａ年度）と第２年次（Ｂ年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
Ｃ　２年間分の学習内容について、Ａ年度は○学年の教材を主に、Ｂ年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（Ａ年度は○学年の教科書給与、Ｂ年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。
なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。
さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10　複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせて弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。
（例）３・４学年（複式学級）において、５月第２週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想
□　導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
□　展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせて実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
□　展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。
この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。
なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

11　特別支援学校おける道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
**　また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。**
**　さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。**

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということを意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおり取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第１３０条第２項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第５章　特別の教科　道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、３つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

12　「大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第５章　第２節　道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大くくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

13　評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ＡＢＣ」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大くくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは　何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14　道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の３つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにＡＢＣを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

○　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
○　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

といった２点を重視して評価を実施することが大切である。

15　道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の５点を確認しておきたい。

（１）　数値による評価ではなく、記述式とすること。
（２）　個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
（３）　他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。
（４）　学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること
（５）　調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があること。

16　道徳科の教育課程編成上、「これだけは　…」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成２９年３月）・第３章特別の教科道徳・第３指導計画の作成と内容の取扱いの１には、「…第２に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年１９項目・中学年２０項目、高学年２２項目、中学校２２項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17　教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にしていただきたい。

〔学習指導要領等〕

○　小（中）学校学習指導要領　平成２９年３月３１日　文部科学省（文部科学省ＨＰ）
○　小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　平成２９年７月文部科学省（文部科学省ＨＰ）

〔通知等〕

○　学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（２８教義第８４６号　平成２８年８月１０日付）

〔報告書・広報誌等〕

○　「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（文部科学省ＨＰ）
○　福島県道徳教育推進報告書（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）
○　道徳のとびら（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）
○　道徳のかけ橋（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）
○　道徳の礎（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

〔動画等〕

○　道徳教育アーカイブ（https://doutoku.mext.go.jp）
○　校内研修シリーズ「道徳教育」（独立行政法人教職員支援機構ＨＰ）

令和５年３月１７日　印刷
令和５年３月２４日　発行

福島県教育委員会

◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆

第Ⅰ集　生きぬく・いのち

第Ⅱ集　敬愛・つながる思い

第Ⅲ集　郷土愛・ふくしまの未来へ

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

福島県教育委員会

（この冊子は、下記のアドレスよりダウンロードできます。）

https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。